

令和 3 年度

秋田県学習状況調査

調 査 結 果 報 告 書

令和 4 年 3 月

秋田県教育委員会

ま え が き

県教育委員会では、令和3年12月に、小学校第4学年から中学校第2学年までの全ての児童生徒を対象として秋田県学習状況調査を実施しました。今年度の実施に当たっては、新型コロナウイルス感染症による教育活動への影響を考慮して、調査内容や問題数の縮減を図るなどし、円滑に調査を実施することができました。このことにつきまして、県内各市町村教育委員会及び各学校に御理解と御協力をいただきましたことに感謝申し上げます。

本調査のねらいは、県として、①学習指導要領の内容等の定着の程度を把握すること、②少人数学習の成果や課題を捉えること、そして、各学校において、③児童生徒の学力や学習状況を把握し、学習指導の工夫改善を図ること、④全国学力・学習状況調査及び本調査、高校入試を活用した学習指導における検証改善サイクルを確立することなどにより、本県の教員の学習指導の改善・充実や児童生徒の学力向上に役立てるところにあります。

この調査は、「教科に関する調査」と「学習の意欲等に関する質問紙調査」で構成しています。教科に関する調査の特色として、県の課題の改善状況を明らかにするための複数学年にわたる共通問題や、本県で重視している“「問い」を発する子ども”を育成するための基盤づくりに資する問題、高校入試と関連した問題等を出题しました。また、学習の意欲等に関する質問紙調査では、GIGAスクール構想により各学校に1人1台端末等が整備されたことを受け、その活用状況に係る質問項目を新設するとともに、全国学力・学習状況調査の結果を踏まえて質問項目を一部見直すことで、各学校が調査結果を比較・分析して自校の児童生徒の学習に対する意識等を的確に捉え、学習指導の一層の改善・充実に役立てることができるようになりました。具体的には、「授業について」の項目において、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善がどの程度図られているのかを、授業に取り組む児童生徒の視点から「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の状況が捉えられるように改訂しました。

今年度の全国学力・学習状況調査及び本調査の児童生徒質問紙調査の結果からは、「授業について」の項目においては全体的に例年より低いものの、数値としては高い水準を示しているなど、児童生徒が分かる喜びや学ぶ意義を実感し、主体性をもって学習に取り組んでいる様子や、授業におけるICT活用の推進が図られている様子がうかがえました。このことは、各学校がICT等を効果的に活用するなどして、問題を発見し、解決していく力等の育成を図る教育活動を展開してきたことの表れと捉えております。

本報告書は、令和3年度の秋田県学習状況調査の結果に基づき、全県的な学習状況や今後の授業改善のポイント等をまとめたものです。各学校や市町村教育委員会においては、本報告書及び調査問題を日常の学習指導や教育への取組の改善・充実に積極的に活用していただきたいと考えております。

最後に、本調査の実施に当たり御協力いただきました県内全ての市町村教育委員会、各学校の皆様にご心から御礼申し上げます。

令和4年3月

秋田県教育委員会

目 次

1	調査の概要	-----	1
2	調査の特徴、用語等	-----	2
3	調査結果の概要	-----	3
	(1) 教科に関する調査の結果		
	① 設定通過率との比較	-----	3
	② 各教科の観点別の設定通過率との比較	-----	4
	③ 類似問題との比較	-----	5
	④ 各教科ごとの小問別通過率と設定通過率の比較	-----	6
	(2) 学習の意欲等に関する質問紙調査結果		
	① 学習全般についての結果概要	-----	11
	② 各教科等の学習に対する意識についての結果概要	-----	11
	③ 学習全般について	-----	12
	④ 生活全般について	-----	14
	⑤ 家庭学習について	-----	17
	⑥ 授業について	-----	18
	⑦ ICT活用の状況について	-----	20
	⑧ 各教科等の学習に対する意識について	-----	21
	⑨ 読書について	-----	30
4	結果と考察	-----	31
	本章は、各学年とも、「評価規準と評価の観点」「小問別通過率と設定通過率」「小問別反応率、小問別通過率度数分布表」「調査結果の考察」で構成されています。		
	(1) 国語		
	・小学校第4学年	-----	32
	・小学校第5学年	-----	36
	・小学校第6学年	-----	40
	・中学校第1学年	-----	44
	・中学校第2学年	-----	48
	(2) 社会		
	・小学校第5学年	-----	52
	・小学校第6学年	-----	56
	・中学校第1学年	-----	60
	・中学校第2学年	-----	64
	(3) 算数、数学		
	・小学校第4学年	-----	68
	・小学校第5学年	-----	72
	・小学校第6学年	-----	76
	・中学校第1学年	-----	80
	・中学校第2学年	-----	84
	(4) 理科		
	・小学校第4学年	-----	88
	・小学校第5学年	-----	92
	・小学校第6学年	-----	96
	・中学校第1学年	-----	100
	・中学校第2学年	-----	104
	(5) 英語		
	・中学校第1学年	-----	108
	・中学校第2学年	-----	112

令和３年度
秋田県学習状況調査

- 1 調査の概要
- 2 調査の特徴・用語等
- 3 調査結果の概要

1 調査の概要

(1) 学習状況調査実施の趣旨

学習指導要領の内容の定着度等を把握し、本県が進める少人数学習の成果や課題を捉え、学習指導の工夫改善を図るとともに、全国学力・学習状況調査、本調査及び高校入試を活用して、学習指導における検証改善サイクルを確立し、児童生徒の学力向上に資する。

(2) 調査対象学年、実施教科等、調査参加児童生徒数

※本報告書において、「小・中学校」は義務教育学校、「小学校」は義務教育学校の前期課程、「中学校」は義務教育学校の後期課程をそれぞれ含んでいる。

(人)

校種・学年 実施教科等	小 学 校			中 学 校	
	第 4 学年	第 5 学年	第 6 学年	第 1 学年	第 2 学年
国 語	6, 4 1 9	6, 5 3 6	6, 8 1 0	6, 7 2 5	6, 7 2 8
社 会		6, 5 3 6	6, 8 0 7	6, 7 1 5	6, 7 2 0
算数・数学	6, 4 1 8	6, 5 3 5	6, 8 0 7	6, 7 1 9	6, 7 2 9
理 科	6, 4 2 0	6, 5 3 7	6, 8 0 7	6, 7 2 1	6, 7 2 3
英 語				6, 7 2 2	6, 7 2 6
学習の意欲等に関する アンケート	6, 4 2 3	6, 5 3 7	6, 8 0 6	6, 7 0 1	6, 7 3 9
参 加 者	6, 4 2 3	6, 5 3 7	6, 8 1 0	6, 7 2 5	6, 7 3 9
小・中ごとの参加者計	1 9, 7 7 0			1 3, 4 6 4	
参加者合計	3 3, 2 3 4				

(3) 出題内容

① 基本的な考え方

学習指導要領で求められている資質や能力の定着度、指導上の問題点を明らかにするとともに、学習指導の工夫改善に資することができるよう、「ペーパーテストで調査を行うことが適当な内容・項目」について出題する。

② 出題の範囲

調査対象学年の児童生徒が、前学年の後半で履修した教科の内容及び当該学年の前半で履修した教科の内容を基本とする。

ただし、これまで明らかになった課題の改善状況を把握するため、それ以前の学年で履修した内容を含む場合もある。

(4) 調査実施日

小学校 令和3年12月 1日(水)
中学校 令和3年12月 2日(木)

2 調査の特徴、用語等

(1) 特徴

- ① 評価規準の設定
 - ・観点別評価の実施
 - ・調査する基礎・基本の明確化
- ② 設定通過率の設定
 - ・県として「おおむね満足できる状況」と判断する基準の設定
- ③ 教科に関する調査と学習への意欲等に関する質問紙による総合的な学習状況の把握
 - ・多面的な学力の把握
- ④ 過去に実施した国や県の調査問題の類似問題による経年比較
 - ・学力の経年変化の把握
- ⑤ 複数学年にわたる共通問題
 - ・身に付けておかなければ後の学年の学習内容に影響を及ぼす内容の定着度の把握
 - ・前年度までの調査において課題が見られた問題についての改善状況の把握
- ⑥ 思考力、判断力、表現力に関する問題
 - ・本県児童生徒の学習状況における課題等の改善に資する問題
 - ・“「問い」を発する子ども”の基盤づくりに資する問題
- ⑦ 秋田県公立高等学校における学力検査の現状分析に基づいた問題
 - ・改善状況の把握
- ⑧ 調査結果の活用の工夫
 - ・各学校における結果分析に基づいた指導の改善
 - ・報告書の作成

(2) 用語

- ① 通過率
 - ・各問題ごとの正答した児童生徒の人数の割合
(各学校の通過率の例：50人中30人が正答していれば60%)
- ② 平均通過率
 - ・全問題の通過率の平均
- ③ 設定通過率
 - ・問題ごとに、どの程度の通過率であれば「おおむね満足」な状況とするかをあらかじめ定めた値（分析する上での参考値として示している）
- ④ 正答数別度数分布
 - ・正答数ごとの児童生徒数の度数分布を示したグラフ
- ⑤ 小問別通過率度数分布表
 - ・各小問における通過率ごとの学校数を示した表

(3) データ処理の方法

採点、データ入力・集約

- ・本調査は、各校において採点を行い、その結果を学習状況調査集計・分析システムに登録することにより、全県データを集約している。
- ・各学校の教科に関する調査及び学習への意欲等に関する質問紙調査の結果は、学習状況調査集計・分析システムの登録状況を閲覧することにより、自校の結果と全県データを比較することができる。

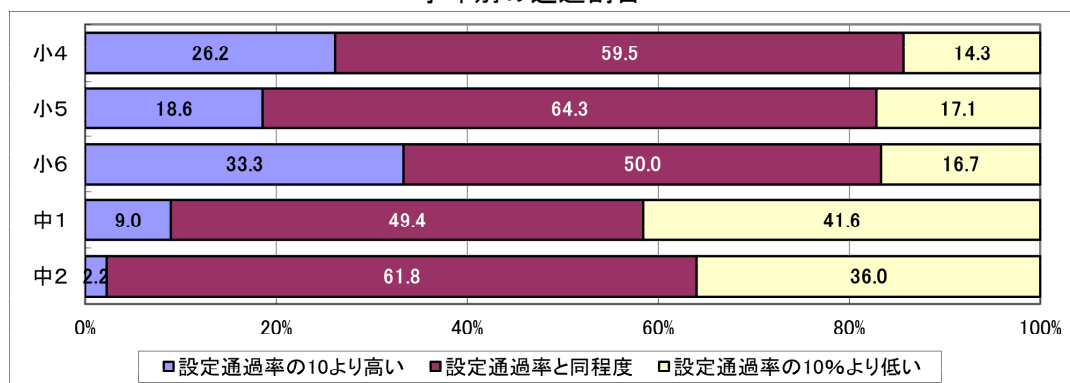
3 調査結果の概要

(1) 教科に関する調査の結果

① 設定通過率との比較

- ・通過割合（通過率が設定通過率を上回るか同程度である問題数の割合）を学年別に見ると、小学校第4学年が85.7%、小学校第5学年が82.9%、小学校第6学年が83.3%、中学校第1学年が58.4%、中学校第2学年が64.0%であった。昨年度に比べて、中学校第2学年は5.2ポイント高くなっている。一方、小学校第6学年は2.8ポイント、中学校第1学年は14.6ポイント、昨年度よりも低くなっている。
- ・平均通過率が設定通過率の平均を上回っている学年・教科は、小学校の第4学年国語、理科、第5学年理科、第6学年国語、社会、理科であった。一方、10ポイント以上下回っている学年・教科は、中学校の第1学年数学、理科、英語、第2学年理科、英語であった。

学年別の通過割合



学年別の平均通過率と設定通過率の平均との比較

校 種	教 科	学 年	平均通過率	設定通過率の平均	差	通過割合
小学校	国 語	第4学年	73.5	71.7	1.8	75.0%
		第5学年	66.9	71.3	-4.4	75.0%
		第6学年	79.7	71.7	8.0	88.9%
	社 会	第5学年	68.1	70.0	-1.9	83.3%
		第6学年	71.5	70.0	1.5	77.8%
	算 数	第4学年	71.3	71.4	-0.1	88.9%
		第5学年	67.5	71.4	-3.9	83.3%
		第6学年	69.1	71.7	-2.6	72.2%
	理 科	第4学年	82.0	75.0	7.0	91.7%
第5学年		78.1	73.3	4.8	88.9%	
第6学年		79.7	72.2	7.5	94.4%	
中学校	国 語	第1学年	61.9	70.0	-8.1	70.6%
		第2学年	67.4	70.0	-2.6	88.9%
	社 会	第1学年	65.3	70.0	-4.7	66.7%
		第2学年	61.6	70.0	-8.4	66.7%
	数 学	第1学年	53.4	70.0	-16.6	38.9%
		第2学年	66.2	70.3	-4.1	76.5%
	理 科	第1学年	58.9	70.0	-11.1	61.1%
		第2学年	49.3	70.3	-21.0	38.9%
	英 語	第1学年	59.2	70.0	-10.8	55.6%
第2学年		52.9	70.0	-17.1	50.0%	

※通過割合：全小問のうち、設定通過率と同程度（±10%の範囲内）及びそれを上回る（+10%より高い）の小問の割合

② 各教科の観点別の設定通過率との比較

- ・通過割合（通過率が設定通過率を上回るか同程度である問題数の割合）が75%以上であるのは、小学校では国語、社会、理科の全観点、算数の「知識・技能」であった。また、中学校では、国語の「知識・技能」のみであった。
- ・通過率が設定通過率を下回る問題が多く見られたのは、小学校では算数の「思考・判断・表現」、中学校では数学の「思考・判断・表現」、理科、英語の全観点であった。

<小学校>

教科名	観点	問題数	+10%より高い	±10%の範囲内	-10%より低い
国語	知識・技能	24	8 (33.3%)	12 (50.0%)	4 (16.7%)
	思考・判断・表現	22	5 (22.7%)	12 (54.5%)	5 (22.7%)
社会	知識・技能	16	5 (31.3%)	8 (50.0%)	3 (18.8%)
	思考・判断・表現	20	6 (30.0%)	10 (50.0%)	4 (20.0%)
算数	知識・技能	37	3 (8.1%)	29 (78.4%)	5 (13.5%)
	思考・判断・表現	17	3 (17.6%)	9 (52.9%)	5 (29.4%)
理科	知識・技能	24	9 (37.5%)	15 (62.5%)	0 (0.0%)
	思考・判断・表現	24	9 (37.5%)	11 (45.8%)	4 (16.7%)

<中学校>

教科名	観点	問題数	+10%より高い	±10%の範囲内	-10%より低い
国語	知識・技能	18	4 (22.2%)	13 (72.2%)	1 (5.6%)
	思考・判断・表現	17	0 (0.0%)	11 (64.7%)	6 (35.3%)
社会	知識・技能	19	2 (10.5%)	11 (57.9%)	6 (31.6%)
	思考・判断・表現	17	1 (5.9%)	10 (58.8%)	6 (35.3%)
数学	知識・技能	24	0 (0.0%)	15 (62.5%)	9 (37.5%)
	思考・判断・表現	11	0 (0.0%)	5 (45.5%)	6 (54.5%)
理科	知識・技能	21	0 (0.0%)	10 (47.6%)	11 (52.4%)
	思考・判断・表現	15	1 (6.7%)	7 (46.7%)	7 (46.7%)
英語	知識・技能	20	1 (5.0%)	11 (55.0%)	8 (40.0%)
	思考・判断・表現	16	1 (6.3%)	6 (37.5%)	9 (56.3%)

③ 類似問題との比較

- ・類似問題において過去の通過率を上回った問題数は、小学校では97問中67問（69.1%）、中学校では80問中49問（61.3%）であった。
- ・学年・教科別に見ると、類似問題における過去の通過率を上回った問題数の割合が70%以上だったのは、小学校では第4学年の算数、第5学年の算数、第6学年の国語、社会、理科であった。中学校では第1学年の理科、英語、第2学年の社会、数学であった。
（図1参照）
- ・類似問題の通過率の平均を比較すると、社会は全ての学年で過去の通過率の平均を上回っている。中学校第1学年の国語、数学、第2学年の理科、英語は下回っており、その差は－15ポイント以内である。
（図2参照）

図1 類似問題において過去の通過率を上回った問題数の割合

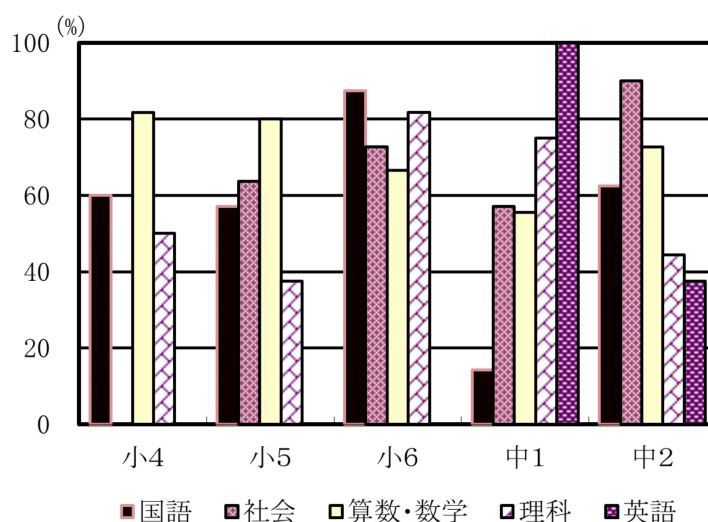
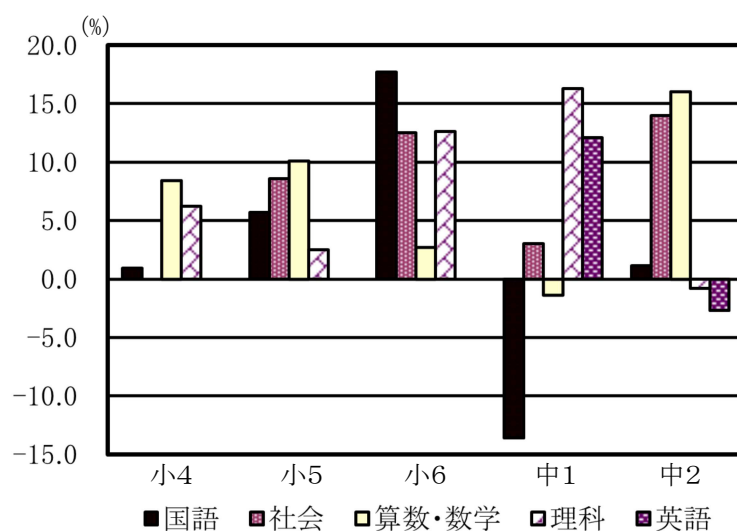


図2 類似問題において過去の通過率の平均を基準とした今年度の通過率の平均



④ 各教科ごとの小問別通過率と設定通過率の比較

【国語】

設 定：設定通過率

通過率：今年度の平均通過率

類 似：過去に出題された類似問題の平均通過率

○小学校

小4

番号	設定	通過率	類似
1)	80	97.9	
2)	70	94.0	
3)	70	59.8	
4)	70	82.4	
5)	70	69.2	52.9
6)	70	63.4	95.6
7)	80	77.0	
8)	70	53.8	
9)	60	58.7	41.8
10)	60	49.8	43.2
11)	80	88.3	
12)	80	87.1	90.2

設定通過率	71.7		
平均通過率		73.5	
類似問題		65.6	64.7

小5

番号	設定	通過率	類似
1)	80	98.3	
2)	90	98.8	
3)	80	81.3	
4)	60	58.7	
5)	60	56.1	
6)	80	71.2	81.4
7)	60	58.2	71.2
8)	70	48.9	
9)	70	64.7	33.0
10)	80	86.4	
11)	60	42.5	
12)	80	78.9	74.3
13)	70	91.1	57.6
14)	60	20.5	29.5
15)	60	26.6	
16)	80	88.3	86.2

設定通過率	71.3		
平均通過率		66.9	
類似問題		67.6	61.9

小6

番号	設定	通過率	類似
1)	80	99.5	
2)	80	98.3	
3)	70	89.5	
4)	70	55.3	
5)	70	62.6	
6)	80	88.6	37.5
7)	70	77.1	58.3
8)	80	69.8	41.6
9)	70	91.0	62.8
10)	60	67.1	64.7
11)	70	78.2	
12)	70	72.1	74.5
13)	70	90.0	
14)	80	95.6	93.6
15)	60	51.3	
16)	80	87.9	
17)	60	70.7	57.1
18)	70	89.8	

設定通過率	71.7		
平均通過率		79.7	
類似問題		79.0	61.3

○中学校

中1

番号	設定	通過率	類似
1)	80	95.9	
2)	70	63.2	
3)	80	79.4	
4)	70	80.3	
5)	80	92.1	39.9
7)	70	61.0	
8)	60	60.1	75.5
9)	70	71.1	
10)	60	50.1	91.5
11)	80	82.9	
12)	60	42.5	
13)	70	64.8	69.7
14)	70	17.6	85.0
15)	60	35.2	
16)	70	47.5	
17)	60	27.8	42.7
18)	80	80.9	84.3

設定通過率	70.0		
平均通過率		61.9	
類似問題		56.2	69.8

中2

番号	設定	通過率	類似
1)	80	77.0	75.8
2)	70	63.9	76.4
3)	80	81.2	
4)	80	78.1	
5)	60	36.6	
6)	70	70.4	
7)	70	76.8	
8)	60	54.8	70.5
9)	70	67.9	
10)	70	69.5	
11)	60	50.7	46.1
12)	80	96.3	93.4
13)	70	70.9	
14)	70	67.4	85.4
15)	60	64.3	36.8
16)	70	66.2	47.0
17)	60	40.7	
18)	80	80.5	

設定通過率	70.0		
平均通過率		67.4	
類似問題		67.6	66.4

【社会】

設 定：設定通過率

通過率：今年度の平均通過率

類 似：過去に出題された類似問題の平均通過率

○小学校

小5

番号	設定	通過率	類似
1)	80	90.4	93.8
2)	75	85.9	58.9
3)	70	74.8	48.7
4)	80	79.5	78.2
5)	80	85.0	
6)	65	43.2	
7)	65	64.3	
8)	70	62.6	
9)	70	68.1	81.7
10)	60	49.3	29.3
11)	80	71.2	86.2
12)	65	57.4	
13)	70	73.4	
14)	60	31.6	
15)	75	86.6	39.3
16)	60	57.6	53.3
17)	70	83.9	65.2
18)	65	60.7	78.8

設定通過率	70.0		
平均通過率		68.1	
類似問題		73.5	64.9

小6

番号	設定	通過率	類似
1)	85	94.5	96.8
2)	80	88.0	70.2
3)	75	86.3	63.2
4)	70	69.2	85.8
5)	65	77.0	52.3
6)	65	24.9	
7)	70	85.0	
8)	65	67.8	
9)	70	82.9	
10)	65	78.6	
11)	70	64.9	27.1
12)	80	87.5	82.8
13)	70	78.8	68.9
14)	75	88.1	43.3
15)	60	41.5	
16)	65	48.9	
17)	65	47.7	74.3
18)	65	75.4	54.5

設定通過率	70.0		
平均通過率		71.5	
類似問題		77.9	65.4

○中学校

中1

番号	設定	通過率	類似
1)	75	79.5	
2)	70	38.6	
3)	75	71.9	
4)	65	58.1	
5)	75	58.4	
6)	65	65.2	54.5
7)	80	93.8	
8)	75	75.8	
9)	70	68.8	
10)	65	30.3	52.9
11)	60	70.4	45.3
12)	65	76.2	55.8
13)	75	75.3	
14)	65	64.3	63.9
15)	85	74.8	85.3
16)	65	48.1	
17)	60	65.8	
18)	70	59.9	62.5

設定通過率	70.0		
平均通過率		65.3	
類似問題		63.0	60.0

中2

番号	設定	通過率	類似
1)	85	78.6	
2)	70	36.7	51.2
3)	65	41.0	31.3
4)	60	67.4	24.5
5)	85	85.7	85.0
6)	70	65.4	55.6
7)	70	67.2	53.0
8)	65	62.7	
9)	65	53.7	47.0
10)	65	46.3	
11)	75	68.6	
12)	60	56.1	
13)	75	56.5	
14)	60	49.9	
15)	75	69.1	50.7
16)	80	74.0	
17)	70	65.7	50.6
18)	65	63.5	25.6

設定通過率	70.0		
平均通過率		61.6	
類似問題		61.5	47.5

【算数、数学】

設 定：設定通過率

通過率：今年度の平均通過率

類 似：過去に出題された類似問題の平均通過率

○小学校

番号	設定	通過率	類似
1)	85	87.2	78.6
2)	85	84.4	81.4
3)	80	80.2	
4)	85	86.2	90.5
5)	70	56.0	65.9
6)	60	56.5	42.7
7)	65	76.2	
8)	75	69.3	42.9
9)	70	70.7	67.4
10)	75	81.7	68.9
11)	60	52.8	39.4
12)	70	79.6	59.4
13)	70	72.1	67.3
14)	70	80.2	
15)	80	82.4	
16)	60	45.7	
17)	65	66.3	
18)	60	56.8	

設定通過率	71.4		
平均通過率		71.3	
類似問題		72.4	64.0

番号	設定	通過率	類似
1)	85	75.6	85.5
2)	85	77.3	87.1
3)	75	66.8	
4)	75	77.3	51.6
5)	70	72.6	59.5
6)	80	91.6	
7)	75	74.1	60.4
8)	70	73.1	54.8
9)	60	55.6	33.2
10)	80	84.5	
11)	60	28.9	
12)	70	66.8	63.9
13)	75	85.3	
14)	70	66.2	
15)	65	72.7	59.7
16)	70	69.5	58.1
17)	60	29.9	
18)	60	46.7	

設定通過率	71.4		
平均通過率		67.5	
類似問題		71.5	61.4

番号	設定	通過率	類似
1)	85	91.8	
2)	85	93.8	
3)	80	79.5	
4)	70	72.1	63.6
5)	70	67.8	
6)	60	38.5	49.9
7)	70	51.5	
8)	70	68.7	62.0
9)	80	67.3	
10)	70	67.8	65.2
11)	65	55.8	56.1
12)	70	56.3	71.8
13)	70	78.5	52.2
14)	70	85.8	
15)	70	47.8	
16)	80	92.8	
17)	65	68.3	63.6
18)	60	59.6	56.2

設定通過率	71.7		
平均通過率		69.1	
類似問題		62.8	60.1

○中学校

番号	設定	通過率	類似
1)	80	60.6	
2)	70	24.0	
3)	75	77.7	
4)	65	56.5	48.3
5)	70	62.4	52.5
6)	65	26.6	36.0
7)	70	79.6	48.5
8)	65	45.5	43.8
9)	75	75.4	
10)	75	49.6	
11)	75	55.2	69.1
12)	80	47.3	
13)	65	48.6	51.4
14)	65	58.0	
15)	65	48.6	42.6
16)	70	44.2	
17)	60	60.4	
18)	70	40.6	83.8

設定通過率	70.0		
平均通過率		53.4	
類似問題		51.5	52.9

番号	設定	通過率	類似
1)	75	61.2	
2)	75	76.2	41.0
3)	65	47.9	56.7
4)	65	62.3	46.6
5)	65	65.2	47.4
6)	80	80.6	53.7
7)	75	69.9	76.7
8)	80	82.3	50.6
9)	80	84.4	
10)	65	48.0	
12)	70	61.8	
13)	70	67.3	59.1
14)	75	71.3	75.7
15)	70	74.2	
16)	65	53.3	
17)	60	63.1	46.0
18)	60	56.2	13.4

設定通過率	70.3		
平均通過率		66.2	
類似問題		67.5	51.5

【理科】

設 定：設定通過率

通過率：今年度の平均通過率

類 似：過去に出題された類似問題の平均通過率

○小学校

小4

番号	設定	通過率	類似
1)	70	88.6	
2)	70	80.4	
3)	70	83.0	
4)	80	71.2	77.5
5)	70	79.5	57.9
6)	80	88.3	
7)	80	95.3	76.7
8)	60	66.7	
9)	70	53.3	57.6
10)	80	92.6	80.9
11)	90	91.0	95.1
12)	80	93.9	

設定通過率	75.0		
平均通過率		82.0	
類似問題		80.5	74.3

小5

番号	設定	通過率	類似
1)	90	95.0	95.3
2)	70	69.5	
3)	70	90.6	
4)	70	73.4	
5)	70	85.6	67.9
6)	70	64.6	66.3
7)	70	77.8	
8)	60	44.4	
9)	70	78.4	
10)	60	51.7	
11)	80	86.6	
12)	70	89.1	
13)	80	81.2	83.8
14)	70	59.9	69.4
15)	80	92.3	80.4
16)	90	94.1	95.8
17)	70	84.3	
18)	80	86.9	81.3

設定通過率	73.3		
平均通過率		78.1	
類似問題		82.5	80.0

小6

番号	設定	通過率	類似
1)	80	88.0	
2)	70	71.5	
3)	70	78.9	39.9
4)	60	81.7	40.5
5)	70	77.0	
6)	70	85.6	
7)	80	92.0	68.6
8)	60	47.0	68.8
9)	70	60.3	83.8
10)	60	75.8	37.7
11)	70	81.7	
12)	70	75.6	
13)	80	88.8	84.7
14)	70	75.3	60.0
15)	70	80.4	63.5
16)	80	92.2	
17)	80	86.7	83.3
18)	90	96.9	93.8

設定通過率	72.2		
平均通過率		79.7	
類似問題		78.5	65.9

○中学校

中1

番号	設定	通過率	類似
1)	90	96.0	
2)	80	83.5	42.0
3)	70	62.7	44.4
4)	70	43.9	
5)	70	84.9	
6)	70	66.5	
7)	80	41.7	
8)	70	44.4	
9)	60	53.9	59.7
10)	60	53.1	
11)	60	25.3	
12)	60	45.4	
13)	70	68.0	
14)	70	71.2	59.8
15)	70	39.5	
16)	70	64.7	
17)	70	49.1	
18)	70	66.8	

設定通過率	70.0		
平均通過率		58.9	
類似問題		67.8	51.5

中2

番号	設定	通過率	類似
1)	70	22.9	
2)	70	68.1	49.7
3)	80	31.4	
4)	60	31.2	49.5
5)	70	49.2	42.0
6)	70	47.2	59.0
7)	60	51.4	52.0
8)	65	58.8	62.0
9)	70	65.0	
10)	80	70.9	
11)	60	43.2	26.6
12)	70	67.3	55.4
13)	70	32.0	58.8
14)	80	54.5	
15)	70	46.8	
16)	70	38.0	
17)	80	42.0	
18)	70	67.7	

設定通過率	70.3		
平均通過率		49.3	
類似問題		49.8	50.6

【英語】

設 定：設定通過率

通過率：今年度の平均通過率

類 似：過去に出題された類似問題の平均通過率

○中学校

中1

番号	設定	通過率	類似
1)	85	71.0	
2)	80	92.5	77.5
3)	75	71.3	58.8
4)	70	64.3	
5)	60	44.3	25.1
6)	80	73.2	
7)	75	69.9	
8)	75	56.6	
9)	70	63.5	
10)	60	54.7	
11)	80	74.4	
12)	75	59.9	
13)	60	50.0	28.3
14)	60	32.7	
15)	60	27.7	23.2
16)	65	48.8	48.0
17)	60	48.2	37.6
18)	70	61.9	

設定通過率	70.0		
平均通過率		59.2	
類似問題		54.7	42.6

中2

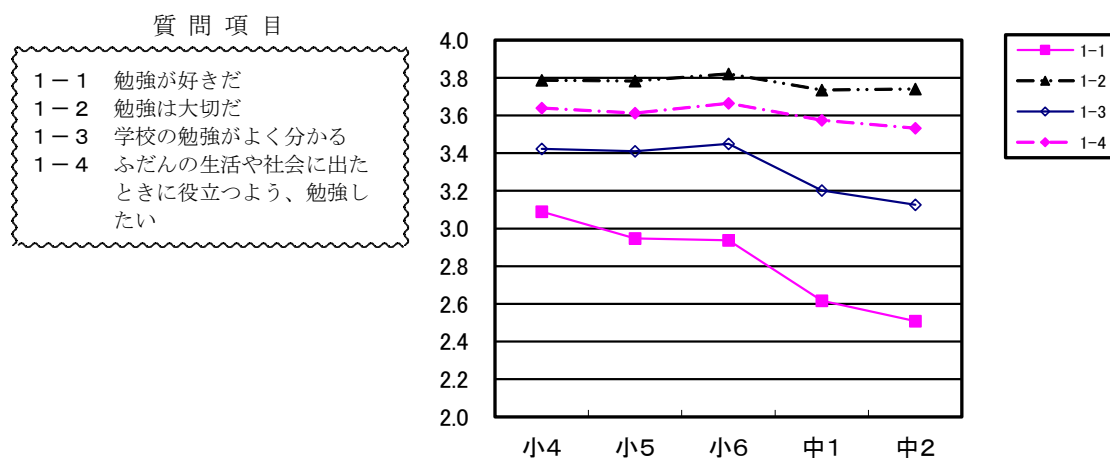
番号	設定	通過率	類似
1)	90	76.8	
2)	70	40.9	45.8
3)	75	41.2	58.0
4)	70	62.4	
5)	70	61.3	69.2
6)	60	15.5	34.9
7)	70	27.2	
8)	60	53.6	
9)	75	55.9	52.4
10)	75	47.3	54.1
11)	75	73.3	
12)	70	60.4	
13)	75	65.8	
14)	60	28.8	27.3
15)	60	53.8	
16)	70	60.8	32.1
17)	65	46.1	
18)	70	80.3	

設定通過率	70.0		
平均通過率		52.9	
類似問題		44.0	46.7

(2) 学習の意欲等に関する質問紙調査結果

① 学習全般についての結果概要（4点換算による県平均）

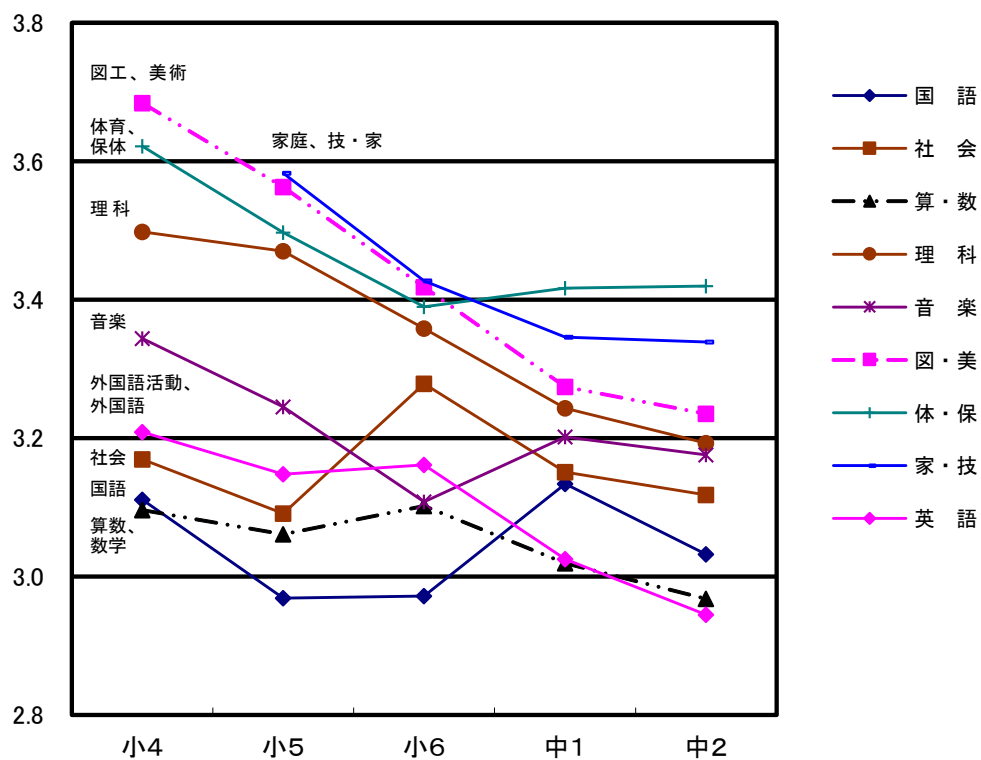
当てはまる…4点 どちらかといえば当てはまる…3点
 どちらかといえば当てはまらない…2点 当てはまらない…1点



② 各教科等の学習に対する意識についての結果概要（4点換算による県平均）

当てはまる…4点 どちらかといえば当てはまる…3点
 どちらかといえば当てはまらない…2点 当てはまらない…1点

質 問 項 目
 (例) 国語の勉強は好きだ ※下線部を各教科等名にしてそれぞれ質問する。



③ 学習全般について

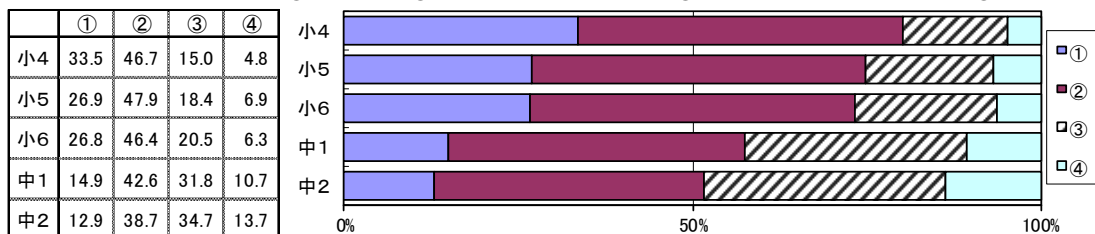
[グラフ等の見方]

表及び帯グラフ……回答類型ごとの割合

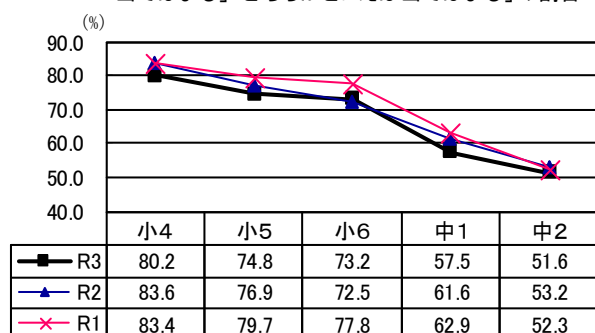
折れ線グラフ……肯定的回答の割合の経年比較

[1 - 1] 勉強が好きだ

①当てはまる ②どちらかといえば当てはまる ③どちらかといえば当てはまらない ④当てはまらない



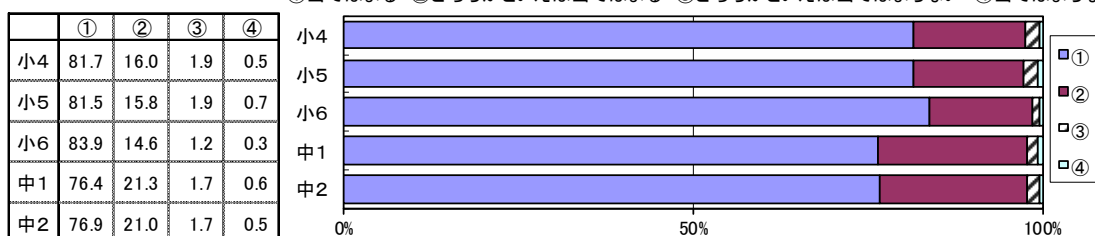
「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合



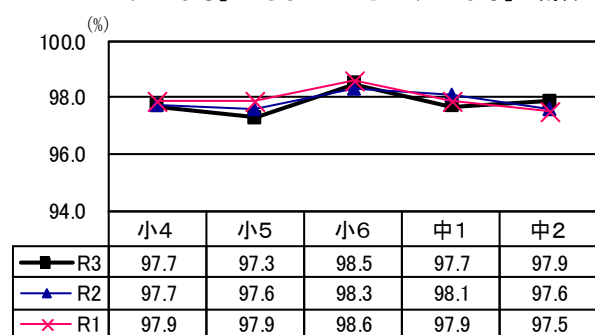
肯定的な回答の割合が、学年が上がるとに従って減少していく状況は依然として見られるものの、小学校第6学年においては、昨年度よりやや高くなっている。

[1 - 2] 勉強は大切だ

①当てはまる ②どちらかといえば当てはまる ③どちらかといえば当てはまらない ④当てはまらない



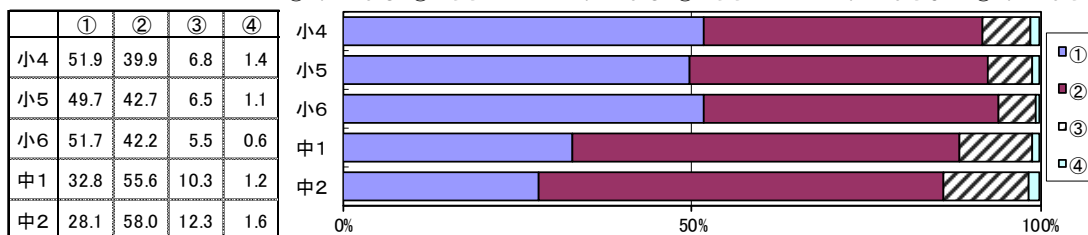
「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合



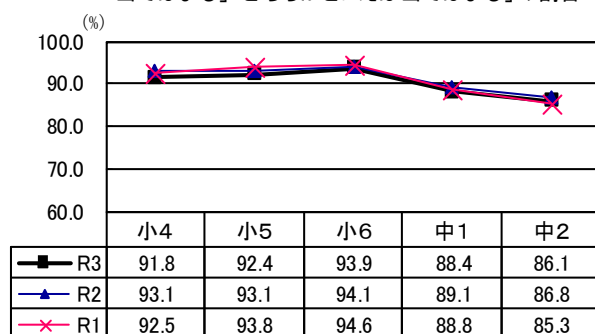
肯定的な回答の割合が、全ての学年で97%以上という高い状況である。中学校第2学年においては、この3年間で最も高い数値を示している。学ぶことの意義を考えたり感じたりしながら、学習に取り組んでいる児童生徒が多いことがうかがえる。

[1 - 3] 学校の勉強がよく分かる

①当てはまる ②どちらかといえば当てはまる ③どちらかといえば当てはまらない ④当てはまらない



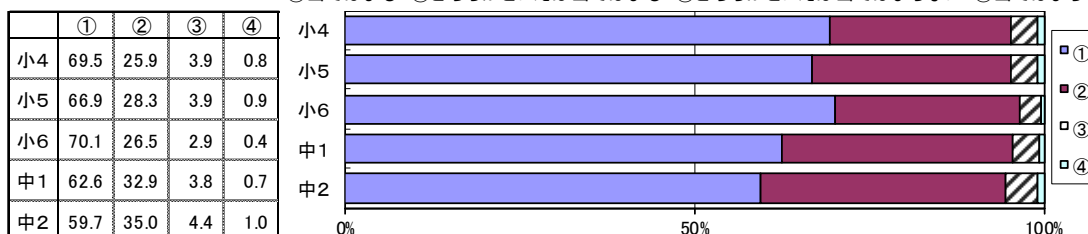
「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合



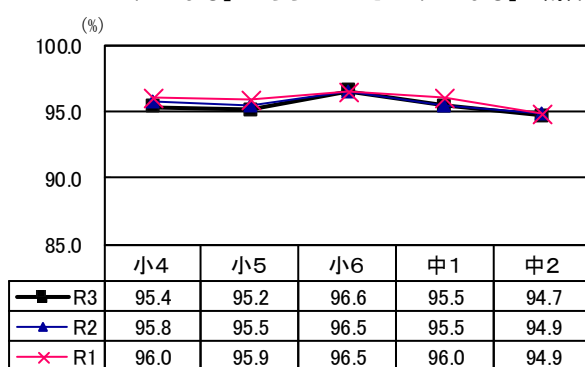
小学校では91%以上、中学校では86%以上が肯定的な回答をしており、全体的に、昨年とほぼ同様の傾向である。小学校においては、学年が上がるに従って数値が高くなっている。

[1 - 4] ふだんの生活や社会に出たときに役立つよう、勉強したい

①当てはまる ②どちらかといえば当てはまる ③どちらかといえば当てはまらない ④当てはまらない



「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合



肯定的な回答の割合が、全ての学年で94%以上という高い状況である。

各教科等で学習する内容を日常生活にも役立てようとする意識を明確にもっている児童生徒が多いことがうかがえる。

④ 生活全般について

[グラフ等の見方]

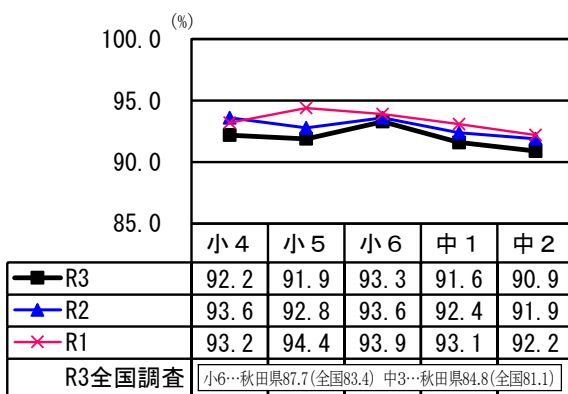
表及び帯グラフ……回答類型ごとの割合

折れ線グラフ……肯定的回答の割合の経年比較

[2-1] 学校が楽しい

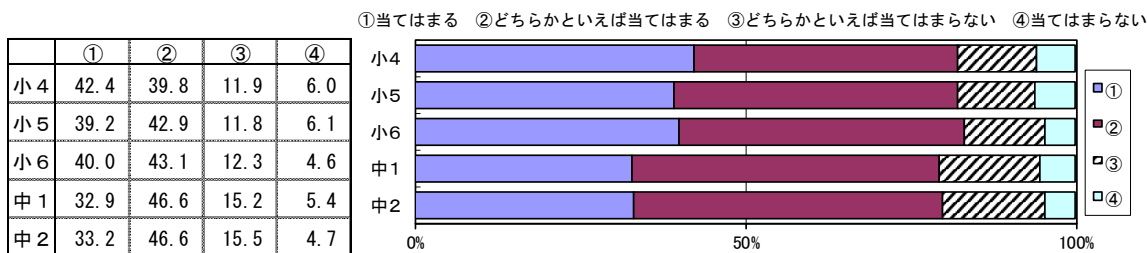


「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合

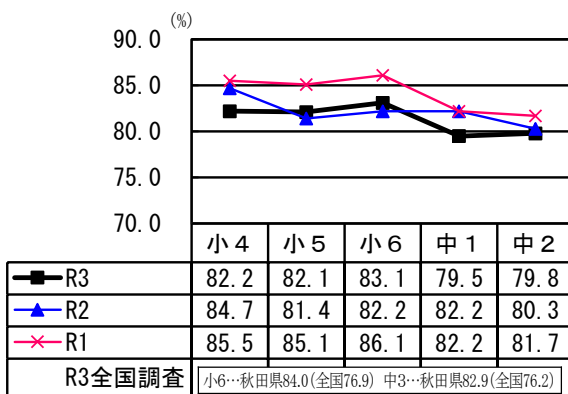


肯定的な回答の割合が、全ての学年で90%以上という高い状況である。小学校第6学年においては、5月の全国学力・学習状況調査の肯定的な回答の割合より5.6ポイント高くなっている。

[2-2] 自分にはよいところがあると思う



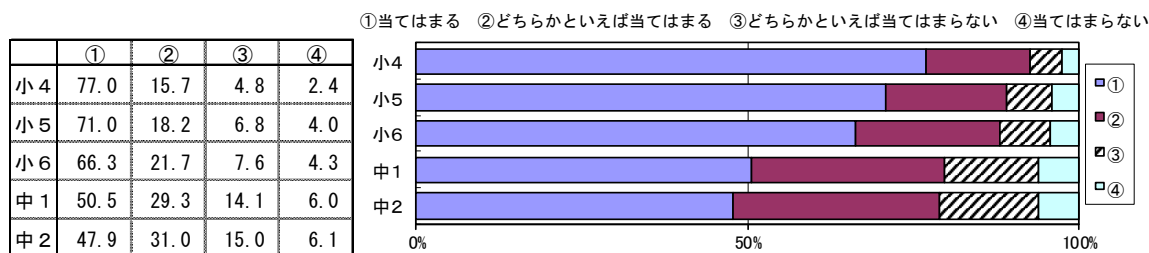
「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合



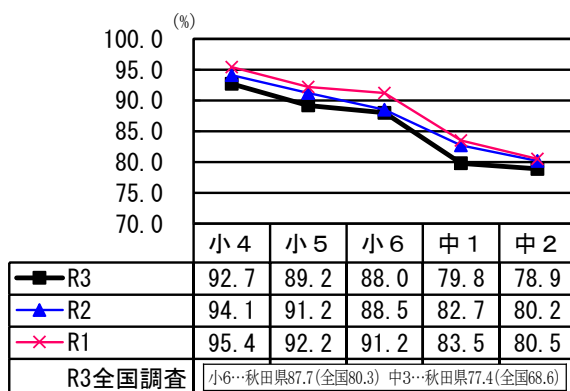
肯定的な回答の割合が、小学校では82%以上、中学校では79%以上である。中学校においては、この3年間で最も低い数値となっている。

各学校は、児童生徒一人一人が互いのよさや個性を認め合う場と機会を意図的に設けることで、児童生徒の自己肯定感を高めることができるよう、教育活動を工夫していく必要がある。

〔2－3〕 将来の夢や目標をもっている



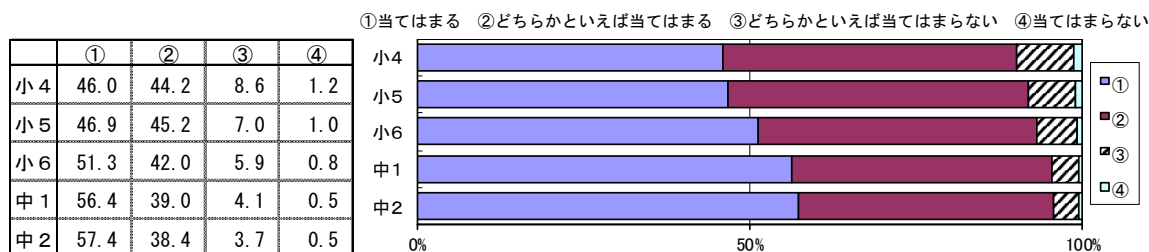
「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合



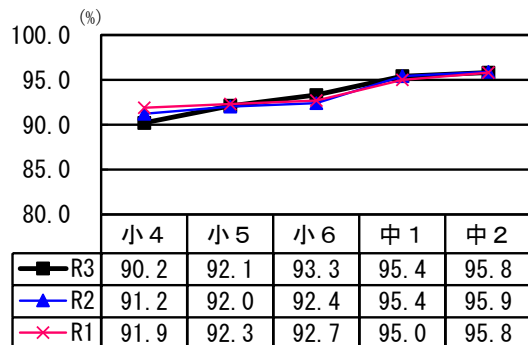
小学校では88%以上、中学校では78%以上が肯定的な回答をしているが、全ての学年において、この3年間で最も低い数値となっている。

各学校では、現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度を育むことができるよう、児童生徒の発達の段階に応じて学級活動や職場体験活動等の内容を一層工夫していく必要がある。

〔2－4〕 学校のきまりを守っている



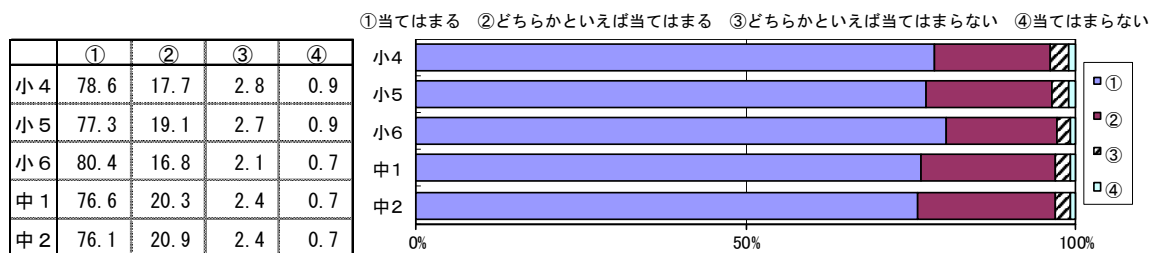
「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合



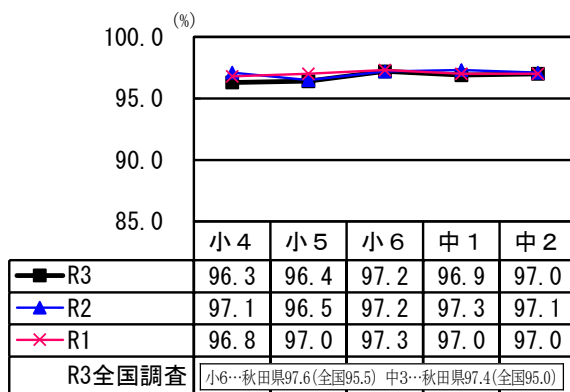
肯定的な回答の割合が、全ての学年で90%を超えており、学年が上がるに従って高くなっている。

学校における集団生活の様々な場面で、児童生徒の規範意識の醸成につながる取組や働き掛けが行われていることがうかがえる。

〔2－5〕 人の役に立つ人間になりたいと思う



「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合



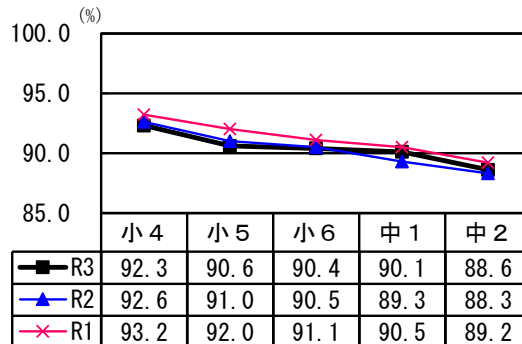
肯定的な回答の割合が、全ての学年で96%以上という高い状況である。

各学校では、キャリア教育や道徳教育等の取組において、児童生徒一人一人が活躍したり、他者から認められたりする場を意図的に設けるなどして、児童生徒の自己有用感を高めることができるよう、教育活動を工夫している様子がうかがえる。

〔2－6〕 地域のためになる活動に進んで取り組みたいと思う



「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合



肯定的な回答の割合は、小学校では90%以上、中学校では88%以上である。

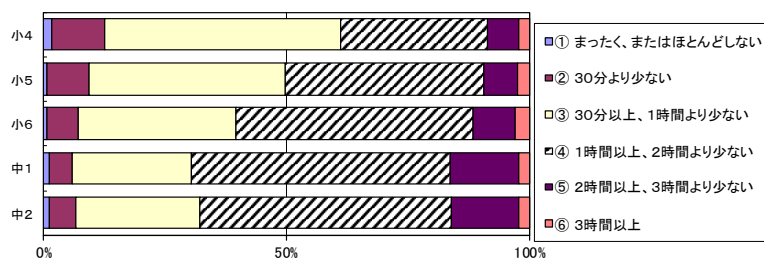
各学校の特色を生かしたふるさと教育やキャリア教育等の取組が、児童生徒の地域に対する愛着を育み、地域社会に貢献しようとする意欲の高まりにつながっていることがうかがえる。

⑤ 家庭学習について

[グラフ等の見方]

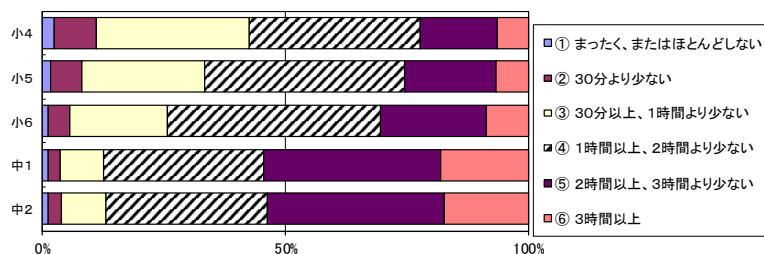
表及び帯グラフ……回答類型ごとの割合

学校がある日の勉強時間



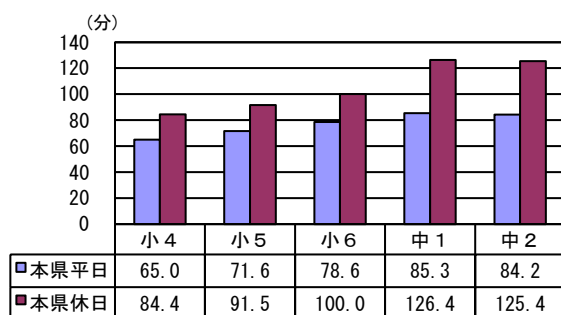
	①	②	③	④	⑤	⑥
小 4	1.7	10.9	48.6	30.2	6.3	2.3
小 5	0.9	8.7	40.3	40.8	6.9	2.4
小 6	0.9	6.3	32.6	48.7	8.6	3.0
中 1	1.3	4.8	24.3	53.2	14.1	2.2
中 2	1.3	5.5	25.5	51.6	13.9	2.2

土曜日や日曜日の勉強時間

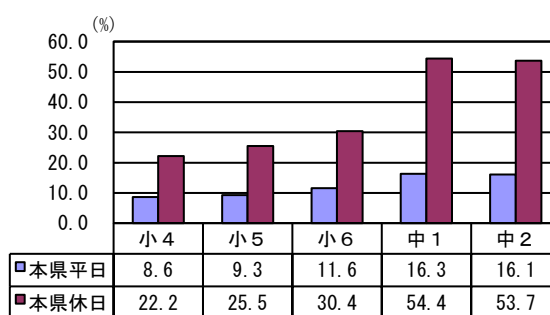


	①	②	③	④	⑤	⑥
小 4	2.4	8.6	31.7	35.2	15.8	6.4
小 5	1.8	6.3	25.4	41.0	18.8	6.7
小 6	1.3	4.4	19.9	44.0	21.8	8.6
中 1	1.3	2.3	8.9	33.0	36.5	17.9
中 2	1.3	2.5	9.3	33.2	36.4	17.3

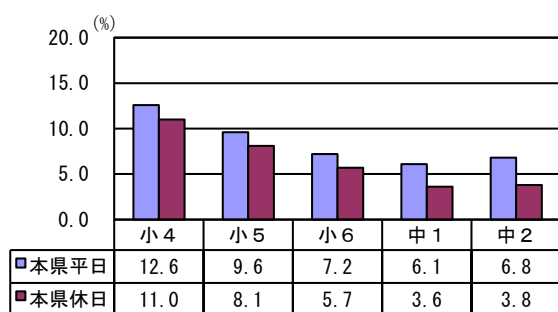
家庭学習の平均時間



2時間以上の割合



全くしない又は30分未満の割合



小・中学校とも、平日より休日の勉強時間が長いこと、小学校より中学校の方が家庭学習の平均時間が長いことなど、全体的には昨年度までと同様の傾向である。中学校では、休日に2時間以上勉強している生徒が半数を超えている。小学校では、勉強を全くしない又は30分未満の割合は、学年が上がるに従って低くなっている。

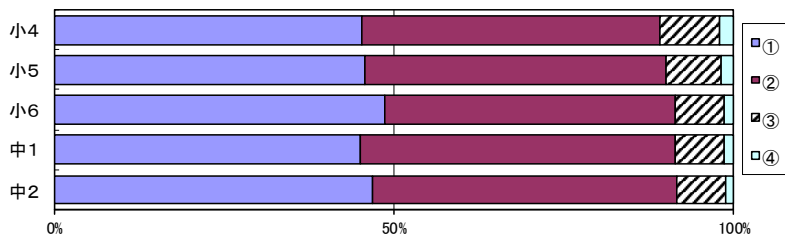
⑥ 授業について

[グラフ等の見方]
表及び帯グラフ……回答類型ごとの割合
折れ線グラフ……肯定的回答の割合の経年比較

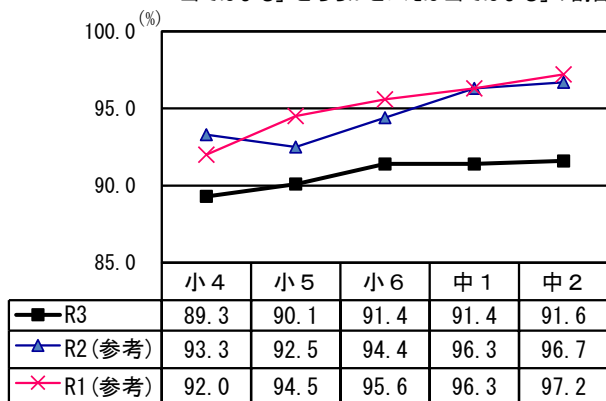
[4-1] ふだんの授業では、授業の目標（めあて・ねらい）を意識して学習に取り組んでいると思う

	①	②	③	④
小4	45.3	44.0	8.6	2.1
小5	45.8	44.3	8.2	1.7
小6	48.7	42.7	7.3	1.3
中1	45.0	46.4	7.3	1.3
中2	46.8	44.8	7.1	1.2

①当てはまる ②どちらかといえば当てはまる ③どちらかといえば当てはまらない ④当てはまらない



「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合



* R2までは「ふだんの授業では、授業の目標（めあて・ねらい）を立てて取り組んでいると思う」という質問であるため（参考）としている

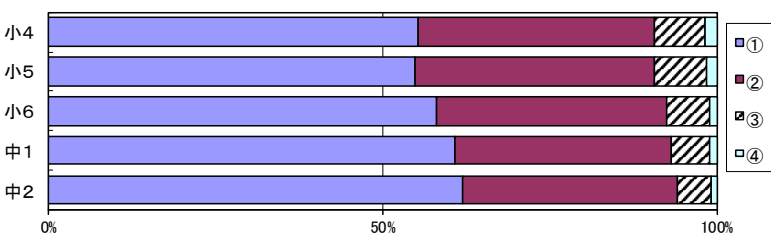
肯定的な回答の割合が、小学校では89%以上、中学校では91%以上である。

各学校においては、授業の導入の手立てを工夫するなどして、課題を解決する意義や必要性を感じさせたり、学習の見通しをもたせたりすることにより、児童生徒が目的意識をもって学習活動に取り組むことができるようにしている様子が見える。

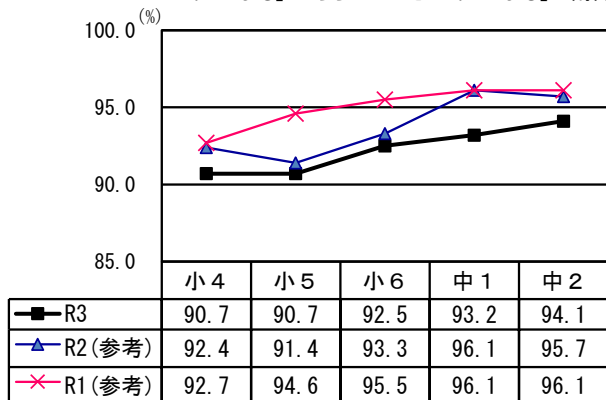
[4-2] ふだんの授業では、学級の友達との間で話し合う活動に進んで取り組んでいると思う

	①	②	③	④
小4	55.3	35.4	7.6	1.7
小5	55.0	35.7	7.8	1.5
小6	58.2	34.3	6.5	1.0
中1	60.9	32.3	5.7	1.1
中2	62.0	32.1	5.0	0.9

①当てはまる ②どちらかといえば当てはまる ③どちらかといえば当てはまらない ④当てはまらない



「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合

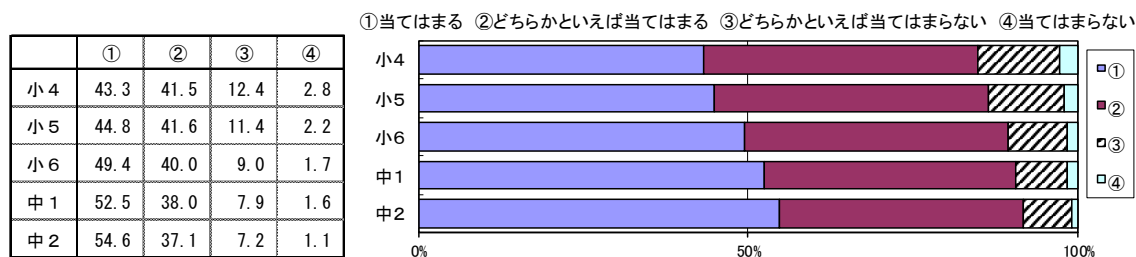


* R2までは「ふだんの授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思う」という質問であるため（参考）としている

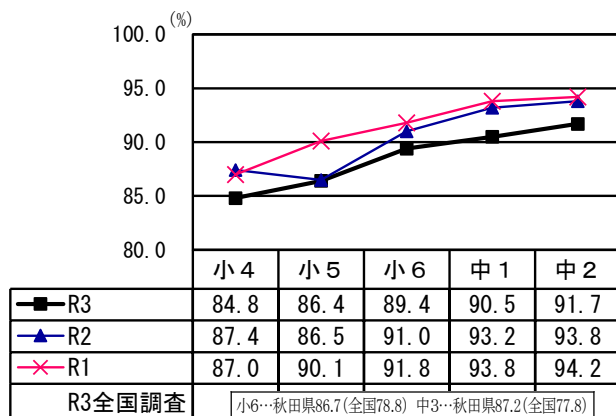
肯定的な回答の割合が、前年度と比べるとどの学年も低くなっているものの、全ての学年で90%以上と高い状況にある。

各学校においては、話し合う目的を明確にすることで、児童生徒が主体的に話し合う活動に取り組むことができるようにしている様子が見える。

〔４－３〕 ふだんの授業では、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う



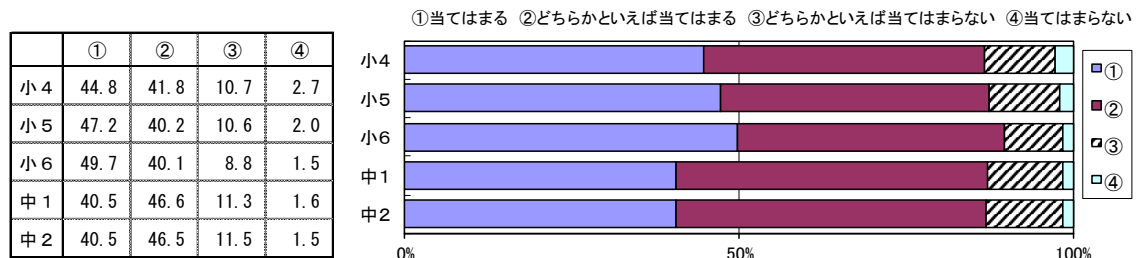
「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合



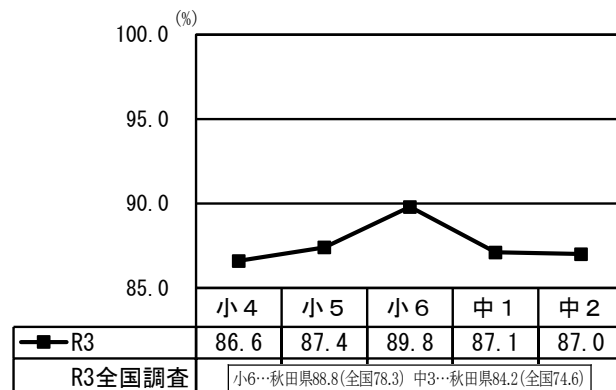
小学校では84%以上、中学校では90%以上が肯定的な回答をしているが、前年度と比べるとどの学年も同程度又は低くなっている。小学校第6学年においては、5月の全国・学力学習状況調査の肯定的な回答の割合より2.7ポイント高くなっている。

他者の多様な考えに触れることによって、自分の考えを広げたり深めたりする場面を適切に設定することが大切である。

〔４－４〕 ふだんの授業では、学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていると思う



「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合



今年度、初出の質問である。

肯定的な回答の割合が、小学校では86%以上、中学校では87%以上である。各学校においては、学習した内容や課題解決の方法等を振り返る機会を意図的に設け、児童生徒が自身の学びや変容等を実感したり、自身の学びを次の学習につなげたりできるようにしている様子が見える。

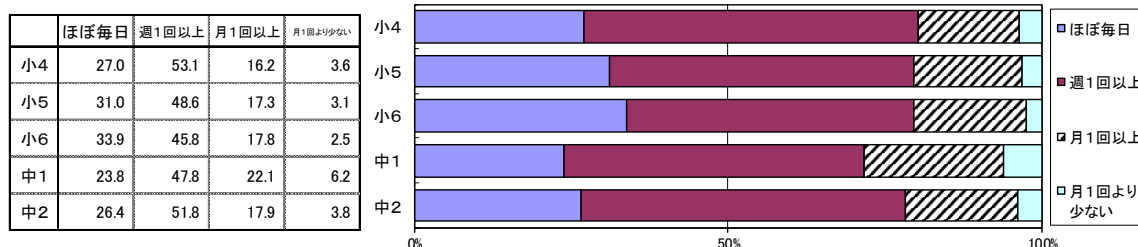
【項目「⑥ 授業について」の質問内容の改訂について】

学習指導要領の改訂により、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行うことが求められている。そこで、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」が、児童生徒の意識においてどの程度実現できているかを捉えられるよう、〔４－１〕〔４－２〕について内容を一部改訂し、〔４－４〕を新設した。

⑦ ICT活用の状況について

[グラフ等の見方]
表及び帯グラフ……回答類型ごとの割合

〔５－１〕 ふだんの授業では、コンピュータなどのICT機器をどのくらい使っていますか



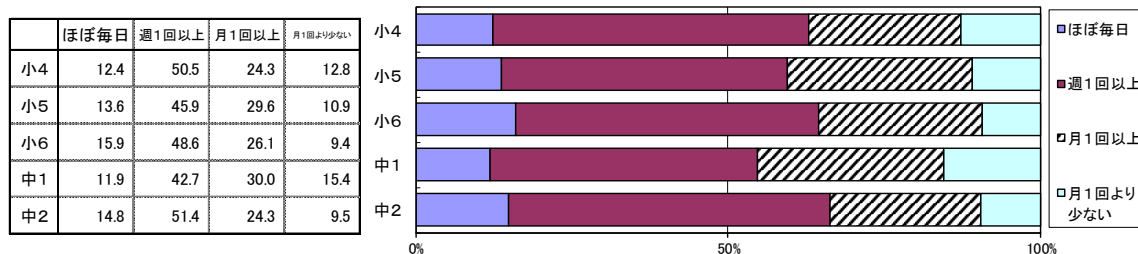
R3全国調査

		ほぼ毎日	週1回以上	月1回以上	月1回より少ない
小6	秋田県(全国)	6.3 (11.2)	24.4 (28.9)	38.1 (34.9)	31.0 (24.8)
中3	秋田県(全国)	2.8 (7.4)	34.3 (26.0)	39.2 (35.5)	23.6 (30.7)

今年度、初出の質問である。

普段の授業で、コンピュータなどのICT機器を週1回以上使用していると回答した割合は、小学校では79%以上、中学校では71%以上である。小学校第6学年では、5月の全国学力・学習状況調査より、週1回以上使用していると回答した割合が49.0ポイント高くなっている。

〔５－２〕 あなたは学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために、どのくらい使っていますか



R3全国調査

		ほぼ毎日	週1回以上	月1回以上	月1回より少ない
小6	秋田県(全国)	5.7 (10.0)	23.6 (29.0)	31.1 (29.1)	39.5 (31.7)
中3	秋田県(全国)	5.7 (9.7)	23.7 (25.1)	34.1 (28.2)	36.4 (36.8)

今年度、初出の質問である。

学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために、週1回以上使用していると回答した割合は、小学校では59%以上、中学校では54%以上である。小学校第6学年では、5月の全国学力・学習状況調査より、週1回以上使用していると回答した割合が35.2ポイント高くなっている。

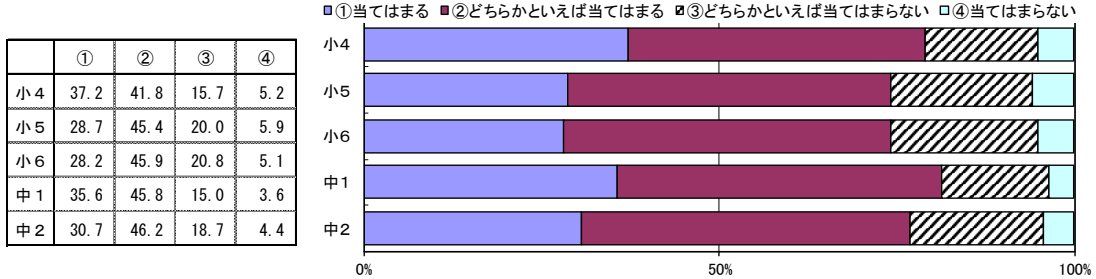
⑧ 各教科等の学習に対する意識について

[グラフ等の見方]

表及び帯グラフ……回答類型ごとの割合

折れ線グラフ……肯定的回答の割合の経年比較

【国語】質問：国語の勉強は好きだ

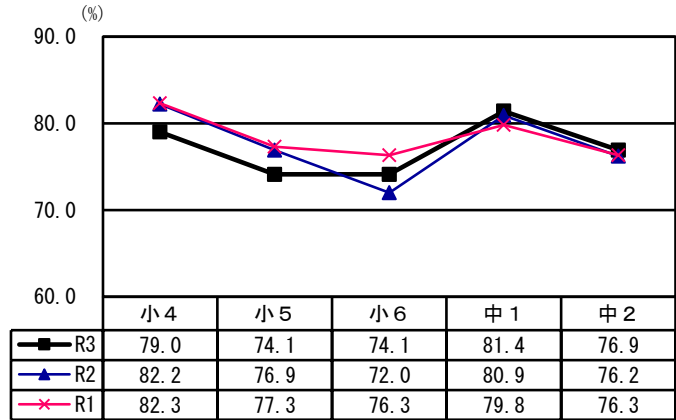


[理由]

%は全児童生徒に対する割合

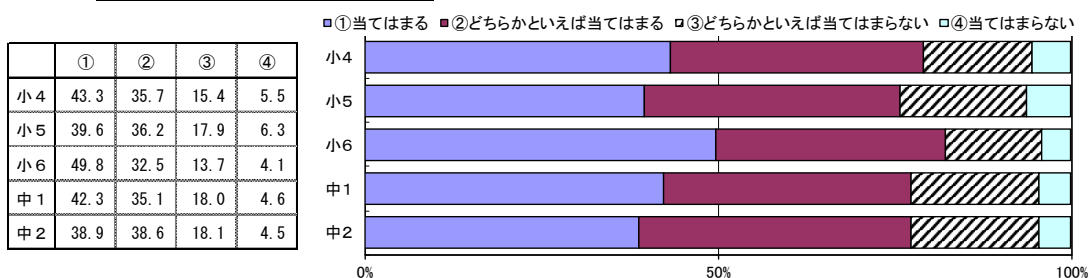
		小4	小5	小6	中1	中2
「当てはまる」等と回答した理由	① 内容に興味がある	18.0%	18.9%	15.5%	19.8%	18.9%
	② 分かりやすい	16.0%	12.5%	11.9%	17.0%	14.0%
	③ 将来、社会に出たときに役立つ	9.4%	13.6%	17.7%	14.5%	15.4%
	④ 生活の中で役立つ	9.1%	8.0%	9.2%	7.5%	7.3%
	⑤ 考えるのが楽しい	15.9%	12.2%	10.5%	11.6%	10.2%
	⑥ 得意	7.4%	5.3%	5.5%	6.2%	5.8%
「当てはまらない」等と回答した理由	⑦ 内容に興味がない	3.5%	5.2%	6.0%	4.9%	6.5%
	⑧ 分かりにくい	3.6%	3.8%	3.7%	2.0%	3.4%
	⑨ 将来、社会に出たときに役立たない	0.1%	0.2%	0.1%	0.2%	0.2%
	⑩ 生活の中で役立たない	0.1%	0.2%	0.2%	0.1%	0.2%
	⑪ 考えるのがめんどろ	2.1%	2.9%	2.9%	1.7%	1.9%
	⑫ 不得意	10.5%	12.6%	12.0%	8.8%	9.8%
	⑬ その他	4.4%	4.6%	4.6%	5.6%	6.6%

「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合の推移



小学校では74%以上、中学校では76%以上が肯定的な回答をしているが、小学校第4学年、第5学年においては、この3年間で最も低い数値となっている。肯定的な回答の理由として、全ての学年において「内容に興味がある」の割合が高い。また、小・中学校とも、「将来、社会に出たときに役立つ」の割合が学年が上がるに従って高くなっており、中学校では、「分かりやすい」の割合も比較的高くなっている。

【社会】質問：社会の勉強は好きだ

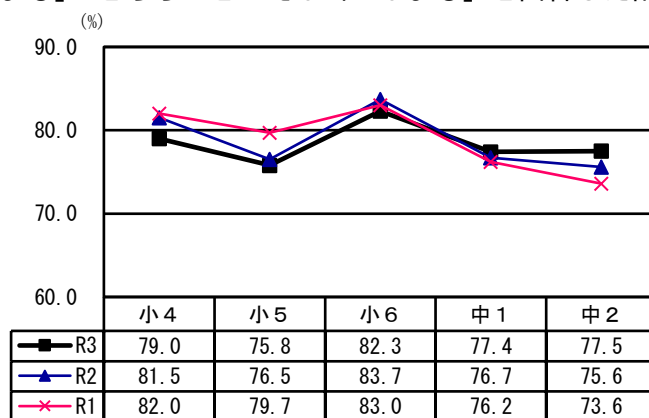


【理由】

%は全児童生徒に対する割合

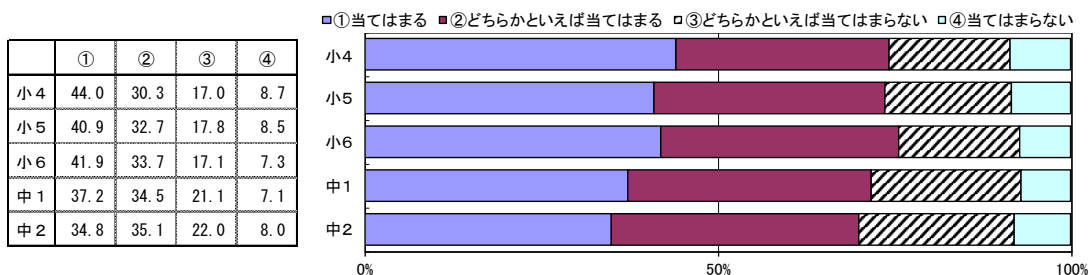
		小4	小5	小6	中1	中2
回答した理由 「当てはまる」等と	① 内容に興味がある	16.6%	18.0%	36.4%	32.0%	32.4%
	② 分かりやすい	8.9%	8.4%	8.5%	11.5%	11.0%
	③ 将来、社会に出たときに役立つ	28.8%	28.4%	16.0%	12.2%	10.9%
	④ 生活の中で役立つ	9.9%	7.0%	2.8%	2.6%	2.8%
	⑤ 考えるのが楽しい	7.5%	7.6%	10.3%	10.7%	9.9%
	⑥ 得意	5.4%	4.1%	6.1%	5.1%	6.1%
回答した理由 「当てはまらない」等と	⑦ 内容に興味がない	3.8%	4.6%	3.3%	3.8%	5.3%
	⑧ 分かりにくい	5.0%	4.7%	3.5%	3.8%	3.5%
	⑨ 将来、社会に出たときに役立たない	0.3%	0.3%	0.3%	1.0%	1.4%
	⑩ 生活の中で役立たない	0.3%	0.3%	0.3%	0.4%	0.5%
	⑪ 考えるのがめんどろ	1.9%	2.3%	1.4%	1.0%	1.1%
	⑫ 不得意	8.6%	11.1%	8.2%	11.7%	10.1%
	⑬ その他	3.0%	3.2%	3.0%	4.2%	5.1%

「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合の推移



小学校では75%以上、中学校では77%以上が肯定的な回答をしており、中学校においては、この3年間で最も高い数値となっている。肯定的な回答の理由として、小学校第4学年と第5学年では、「将来、社会に出たときに役立つ」の割合が最も高く、小学校第6学年と中学校第1学年、第2学年では、「内容に興味がある」の割合が最も高くなっている。

【算数、数学】質問：算数（数学）の勉強は好きだ

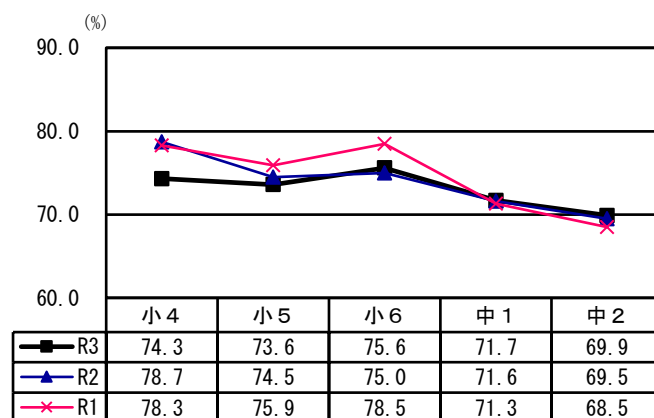


[理由]

%は全児童生徒に対する割合

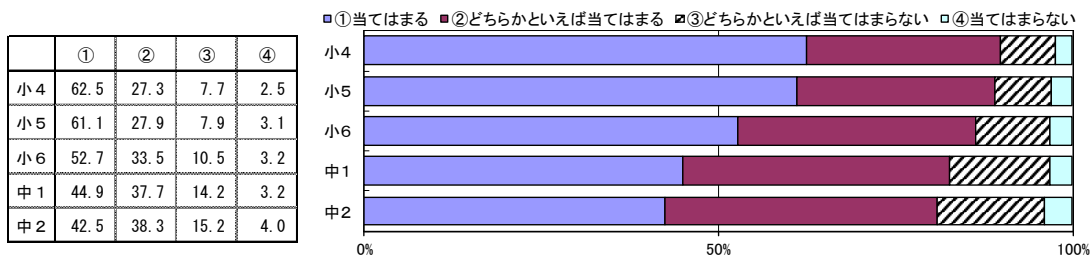
		小4	小5	小6	中1	中2
回答した理由 「当てはまる」等と	① 内容に興味がある	8.2%	8.4%	7.4%	8.7%	9.2%
	② 分かりやすい	10.8%	10.2%	9.8%	11.3%	9.1%
	③ 将来、社会に出たときに役立つ	11.0%	13.0%	17.0%	14.1%	12.6%
	④ 生活の中で役立つ	12.6%	10.4%	11.7%	7.9%	6.3%
	⑤ 考えるのが楽しい	16.4%	17.7%	17.4%	18.0%	21.4%
	⑥ 得意	13.4%	11.5%	10.5%	9.3%	8.6%
回答した理由 「当てはまらない」等と	⑦ 内容に興味がない	1.8%	2.5%	2.0%	2.3%	2.9%
	⑧ 分かりにくい	6.1%	5.1%	4.4%	5.2%	5.7%
	⑨ 将来、社会に出たときに役立たない	0.1%	0.2%	0.2%	0.3%	0.7%
	⑩ 生活の中で役立たない	0.1%	0.1%	0.0%	0.2%	0.2%
	⑪ 考えるのがめんどろ	3.4%	3.8%	3.8%	3.0%	3.5%
	⑫ 不得意	13.4%	13.9%	13.0%	16.5%	16.2%
	⑬ その他	2.7%	3.1%	2.5%	3.3%	3.7%

「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合の推移



小学校では73%以上、中学校では69%以上が肯定的な回答をしているが、小学校第4学年は、昨年度と比べて4.1ポイント低い数値となっている。肯定的な回答の理由として、小・中学校とも「考えるのが楽しい」、「将来、社会に出たときに役立つ」の割合が高い。一方、小学校第5学年から「不得意」の割合が「得意」の割合を上回っており、学年が上がるに従って「不得意」と「得意」の割合の差が広がる傾向が見られる。

【理科】質問：理科の勉強は好きだ

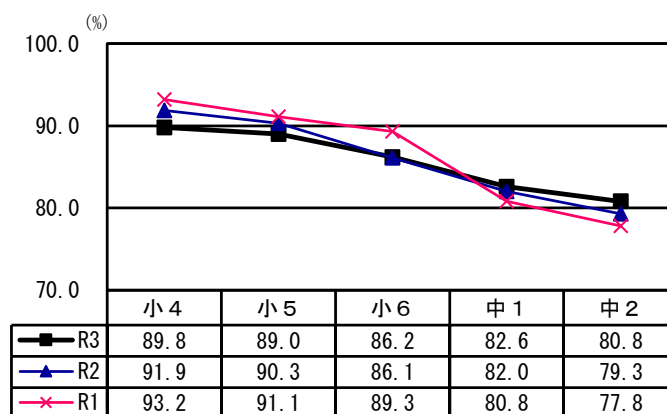


【理由】

%は全児童生徒に対する割合

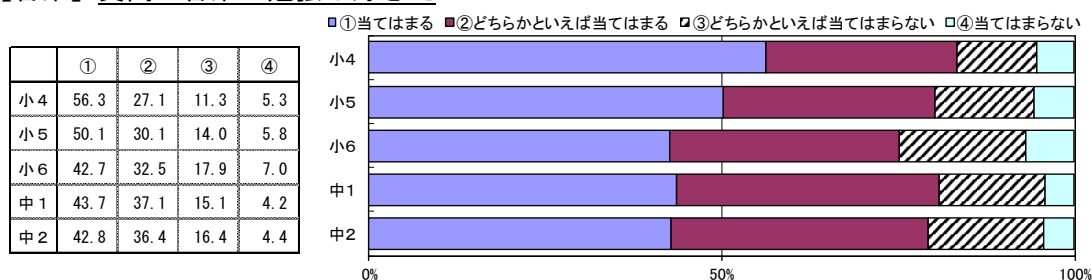
		小4	小5	小6	中1	中2
回答した理由 「当てはまる」等と	① 内容に興味がある	27.2%	32.1%	30.2%	31.7%	30.9%
	② 分かりやすい	10.3%	10.0%	10.2%	9.9%	9.7%
	③ 将来、社会に出たときに役立つ	4.5%	3.9%	5.3%	4.5%	5.3%
	④ 生活の中で役立つ	10.2%	7.5%	8.2%	7.0%	8.3%
	⑤ 考えるのが楽しい	22.6%	21.3%	20.6%	19.6%	16.6%
	⑥ 得意	12.2%	10.6%	9.1%	6.7%	6.5%
回答した理由 「当てはまらない」等と	⑦ 内容に興味がない	1.7%	2.3%	2.9%	2.6%	3.4%
	⑧ 分かりにくい	2.4%	1.9%	2.6%	3.2%	3.9%
	⑨ 将来、社会に出たときに役立たない	0.3%	0.6%	0.6%	0.8%	0.9%
	⑩ 生活の中で役立たない	0.2%	0.4%	0.4%	0.3%	0.4%
	⑪ 考えるのがめんどろ	1.1%	1.0%	1.3%	1.1%	1.4%
	⑫ 不得意	3.8%	4.0%	5.2%	8.6%	8.4%
	⑬ その他	3.5%	4.4%	3.4%	4.0%	4.3%

「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合の推移



小学校では86%以上、中学校では80%以上が肯定的な回答をしており、中学校第1学年、第2学年においては、この3年間で最も高くなっている。肯定的な回答の理由として、小・中学校とも「内容に興味がある」「考えるのが楽しい」の割合が高い傾向にある。一方、昨年度と同様に、「不得意」と回答した割合は、学年が上がるに従って高くなっており、中学校から「不得意」の割合が「得意」の割合を上回っている。

【音楽】質問：音楽の勉強は好きだ

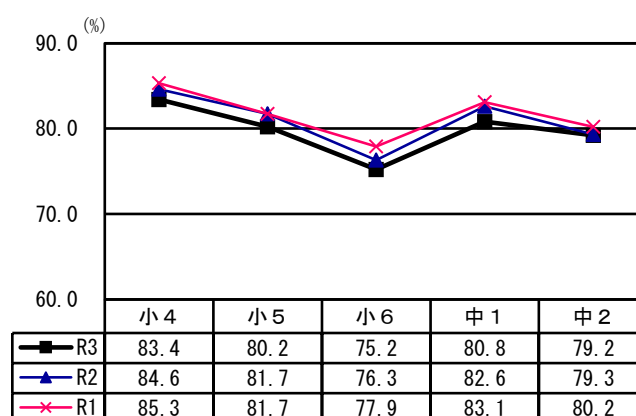


【理由】

%は全児童生徒に対する割合

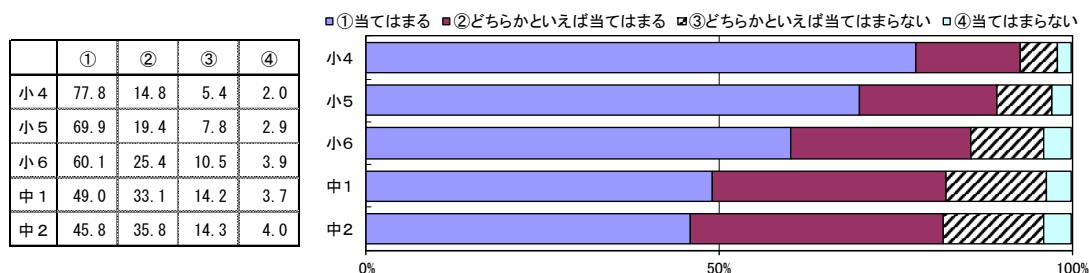
		小4	小5	小6	中1	中2
「当てはまる」等と回答した理由	① 内容に興味がある	22.3%	25.7%	24.7%	33.6%	34.8%
	② 分かりやすい	12.9%	11.0%	10.4%	9.9%	7.6%
	③ 将来、社会に出たときに役立つ	1.9%	1.7%	1.9%	1.4%	1.6%
	④ 生活の中で役立つ	2.1%	2.3%	2.0%	1.9%	1.8%
	⑤ 考えるのが楽しい	9.4%	8.6%	7.3%	10.1%	10.2%
	⑥ 得意	25.4%	21.0%	18.1%	12.5%	11.5%
「当てはまらない」等と回答した理由	⑦ 内容に興味がない	3.1%	3.8%	4.6%	5.3%	6.4%
	⑧ 分かりにくい	1.8%	1.7%	1.6%	0.8%	1.2%
	⑨ 将来、社会に出たときに役立たない	1.1%	1.7%	2.0%	2.3%	2.7%
	⑩ 生活の中で役立たない	1.0%	1.1%	1.4%	1.0%	1.4%
	⑪ 考えるのがめんどろ	0.5%	0.5%	0.5%	0.6%	0.7%
	⑫ 不得意	8.1%	10.2%	13.9%	8.3%	7.2%
	⑬ その他	10.5%	10.9%	11.5%	12.1%	12.9%

「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合の推移



小学校では75%以上、中学校では79%以上が肯定的な回答をしている。肯定的な回答の理由として、小・中学校とも「内容に興味がある」「得意」の割合が高くなっている。また、小学校では「分かりやすい」、中学校では「考えるのが楽しい」の割合も比較的高くなっている。一方、小学校では、「不得意」の割合が、学年が上がるに従って高くなっている。

【図画工作、美術】質問：図工（美術）の勉強は好きだ

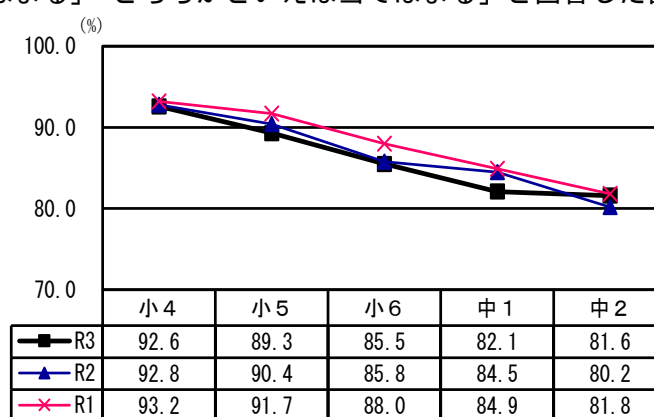


【理由】

%は全児童生徒に対する割合

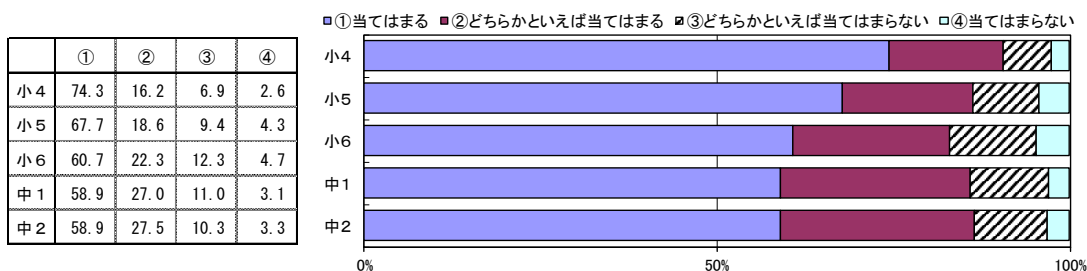
		小4	小5	小6	中1	中2
回答した理由 「当てはまる」等と	① 内容に興味がある	22.5%	26.6%	27.1%	30.5%	32.2%
	② 分かりやすい	4.8%	4.0%	4.2%	5.7%	4.4%
	③ 将来、社会に出たときに役立つ	1.8%	1.8%	2.1%	1.6%	1.8%
	④ 生活の中で役立つ	3.8%	2.8%	2.8%	2.5%	1.8%
	⑤ 考えるのが楽しい	23.9%	25.8%	26.0%	21.3%	21.4%
	⑥ 得意	30.2%	23.0%	18.0%	12.5%	11.1%
回答した理由 「当てはまらない」等と	⑦ 内容に興味がない	0.7%	1.7%	2.1%	3.5%	4.0%
	⑧ 分かりにくい	0.4%	0.4%	0.3%	0.5%	0.5%
	⑨ 将来、社会に出たときに役立たない	0.3%	0.8%	1.1%	1.6%	1.6%
	⑩ 生活の中で役立たない	0.3%	0.6%	0.5%	0.9%	1.0%
	⑪ 考えるのがめんどろ	0.5%	0.9%	1.0%	0.9%	0.8%
	⑫ 不得意	4.7%	6.1%	8.8%	9.4%	9.2%
	⑬ その他	6.0%	5.7%	6.0%	9.0%	10.1%

「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合の推移



小学校では85%以上、中学校では81%以上が肯定的な回答をしており、全体的に高い数値を示している。肯定的な回答の理由として、小・中学校とも「内容に興味がある」「考えるのが楽しい」の割合が高くなっている。また、小学校では「得意」の割合も高い傾向にある。

【体育、保健体育】質問：体育（保体）の勉強は好きだ

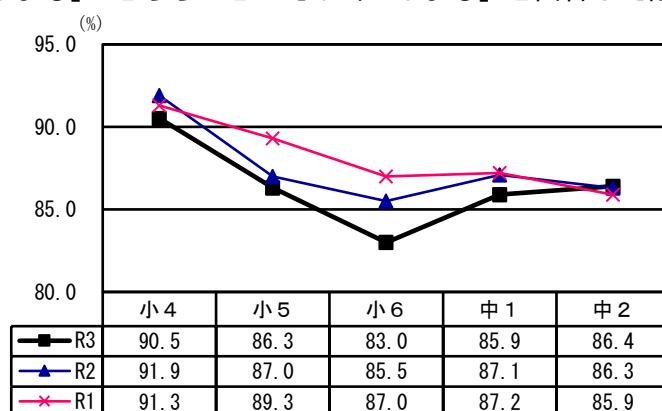


【理由】

%は全児童生徒に対する割合

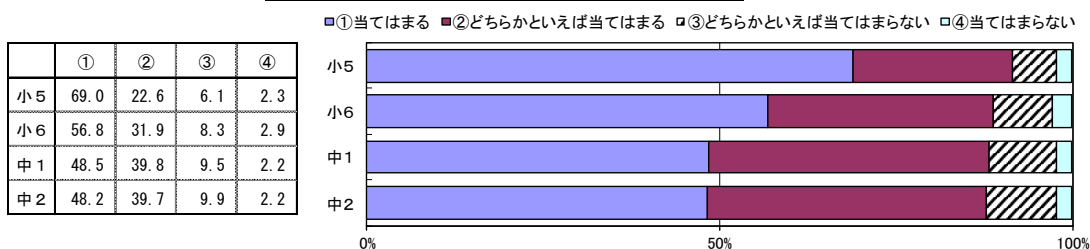
		小4	小5	小6	中1	中2
「当てはまる」等と回答した理由	① 内容に興味がある	20.7%	23.7%	22.9%	26.6%	28.9%
	② 分かりやすい	5.1%	4.3%	4.0%	5.5%	3.9%
	③ 将来、社会に出たときに役立つ	3.7%	4.6%	4.0%	4.9%	4.5%
	④ 生活の中で役立つ	8.5%	5.4%	5.5%	7.3%	6.2%
	⑤ 考えるのが楽しい	2.9%	2.9%	3.1%	4.7%	5.0%
	⑥ 得意	41.1%	36.2%	33.4%	27.3%	27.0%
「当てはまらない」等と回答した理由	⑦ 内容に興味がない	0.9%	1.2%	1.4%	2.0%	1.7%
	⑧ 分かりにくい	0.1%	0.2%	0.2%	0.4%	0.2%
	⑨ 将来、社会に出たときに役立たない	0.4%	0.5%	0.6%	0.4%	0.6%
	⑩ 生活の中で役立たない	0.2%	0.3%	0.4%	0.2%	0.2%
	⑪ 考えるのがめんどろ	0.0%	0.1%	0.2%	0.3%	0.2%
	⑫ 不得意	7.2%	10.6%	13.5%	10.0%	9.9%
	⑬ その他	9.2%	10.0%	11.0%	10.5%	11.9%

「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合の推移



小学校では83%以上、中学校では85%以上が肯定的な回答をしており、全体的に高い数値を示しているが、小学校においては、この3年間で最も低い数値となっている。肯定的な回答の理由として、小・中学校とも「得意」「内容に興味がある」の割合が高くなっている。「得意」の数値は中学校よりも小学校の方が、「内容に興味がある」の数値は小学校よりも中学校の方が高い傾向にある。一方、小学校では、「不得意」の割合が、学年が上がるに従って高くなっている。

【家庭、技術・家庭】質問：家庭（技・家）の勉強は好きだ

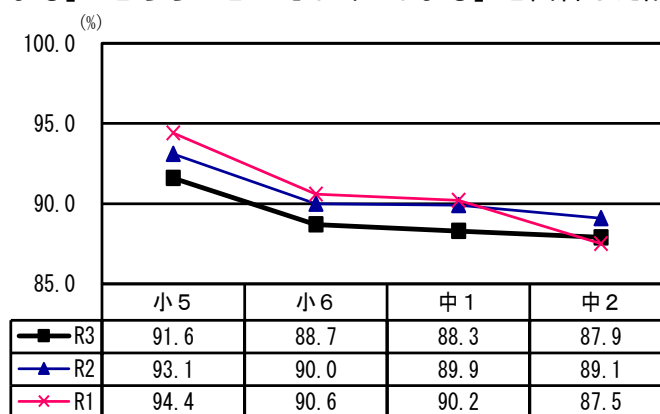


[理由]

%は全児童生徒に対する割合

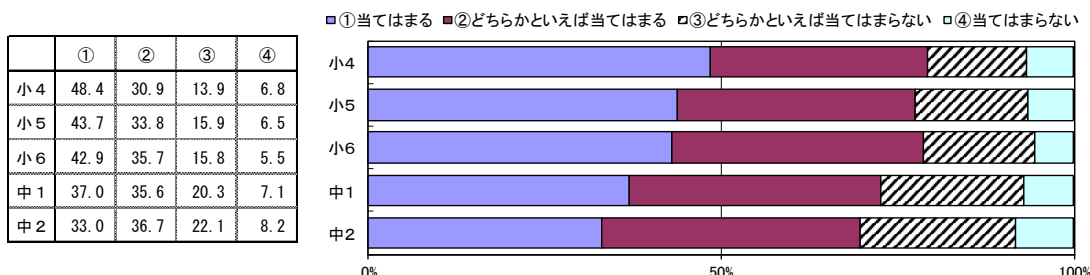
		小5	小6	中1	中2
「当てはまる」等と回答した理由	① 内容に興味がある	19.0%	15.2%	22.6%	23.4%
	② 分かりやすい	4.4%	4.6%	5.5%	3.7%
	③ 将来、社会に出たときに役立つ	16.4%	19.3%	17.0%	19.1%
	④ 生活の中で役立つ	29.6%	32.7%	22.4%	21.8%
	⑤ 考えるのが楽しい	4.2%	3.6%	9.2%	8.0%
	⑥ 得意	15.2%	11.2%	7.5%	7.8%
「当てはまらない」等と回答した理由	⑦ 内容に興味がない	1.7%	2.5%	3.6%	4.2%
	⑧ 分かりにくい	1.1%	1.0%	0.9%	1.2%
	⑨ 将来、社会に出たときに役立たない	0.2%	0.2%	0.3%	0.3%
	⑩ 生活の中で役立たない	0.1%	0.1%	0.2%	0.1%
	⑪ 考えるのがめんどろ	0.5%	0.6%	0.7%	1.0%
	⑫ 不得意	4.3%	6.2%	5.3%	4.5%
	⑬ その他	3.3%	2.8%	5.0%	5.0%

「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合の推移



小学校では88%以上、中学校では87%以上が肯定的な回答をしており、全教科の中で最も高くなっているが、小学校においては、この3年間で最も低い数値となっている。また、昨年度までと同様に、学年進行に伴う肯定的な回答の割合の減少の程度は小さい。肯定的な回答の理由として、小・中学校とも「生活の中で役立つ」「内容に興味がある」「将来、社会に出たときに役立つ」の割合が高くなっている。

【外国語活動、外国語】質問：外国語活動（外国語）の勉強は好きだ

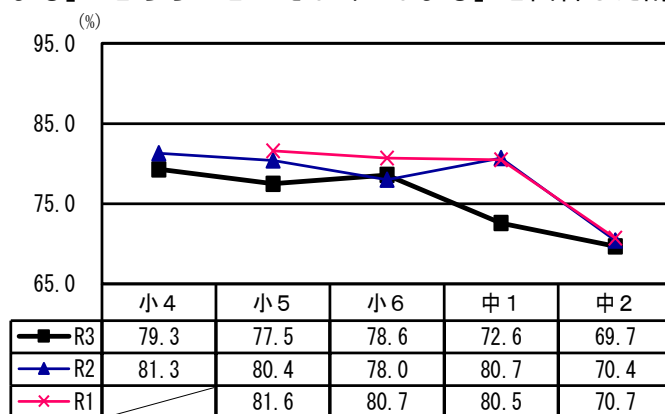


〔理由〕

%は全児童生徒に対する割合

		小4	小5	小6	中1	中2
「当てはまる」等と回答した理由	① 内容に興味がある	11.5%	11.2%	12.1%	10.8%	11.0%
	② 分かりやすい	11.0%	8.5%	7.3%	8.4%	6.2%
	③ 将来、社会に出たときに役立つ	22.8%	29.0%	32.2%	30.1%	32.6%
	④ 生活の中で役立つ	8.8%	6.6%	5.5%	4.4%	4.7%
	⑤ 考えるのが楽しい	11.3%	9.0%	8.2%	6.9%	5.4%
	⑥ 得意	9.1%	9.3%	9.6%	8.7%	6.5%
「当てはまらない」等と回答した理由	⑦ 内容に興味がない	3.1%	3.3%	3.1%	2.5%	3.2%
	⑧ 分かりにくい	5.9%	5.6%	5.3%	5.3%	6.2%
	⑨ 将来、社会に出たときに役立たない	0.3%	0.4%	0.2%	0.5%	0.4%
	⑩ 生活の中で役立たない	0.4%	0.5%	0.4%	0.5%	0.4%
	⑪ 考えるのがめんどろ	0.9%	1.3%	1.1%	1.2%	1.6%
	⑫ 不得意	8.8%	10.1%	9.9%	16.3%	17.5%
	⑬ その他	6.0%	5.4%	5.1%	4.6%	4.3%

「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合の推移

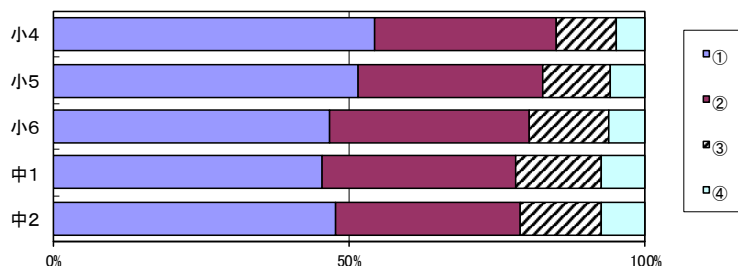


小学校は77%以上、中学校は69%以上が肯定的な回答をしているが、中学校第1学年は、昨年度と比べて8.1ポイント低い数値となっている。肯定的な回答の理由として、小・中学校とも「将来、社会に出たときに役立つ」の割合が最も高くなっている。一方、小・中学校とも学年が上がるに従って、「不得意」の割合が「得意」の割合を上回る傾向が見られる。特に、中学校第1学年においては、「不得意」の割合がこの3年間で最も高い数値となっている。

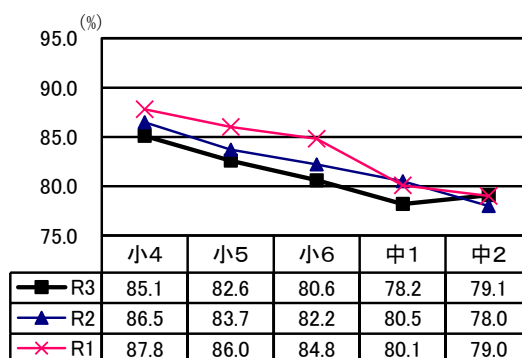
⑨ 読書について
[読書は好きだ]

	①	②	③	④
小4	54.3	30.8	10.1	4.8
小5	51.4	31.2	11.6	5.7
小6	46.7	33.9	13.4	6.0
中1	45.4	32.8	14.4	7.4
中2	47.7	31.4	13.6	7.3

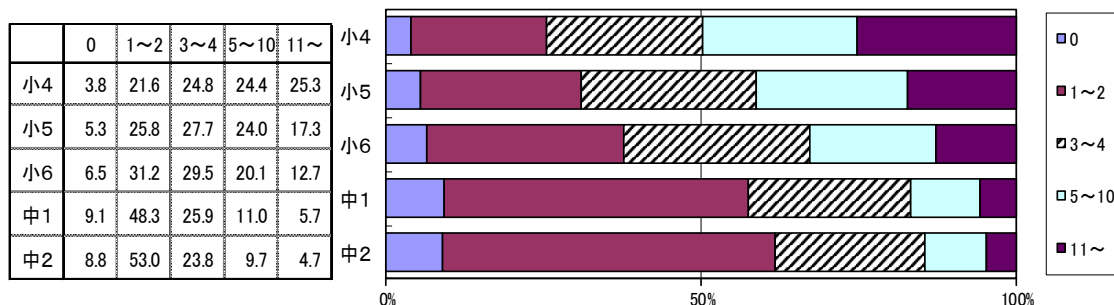
①当てはまる ②どちらかといえば当てはまる ③どちらかといえば当てはまらない ④当てはまらない



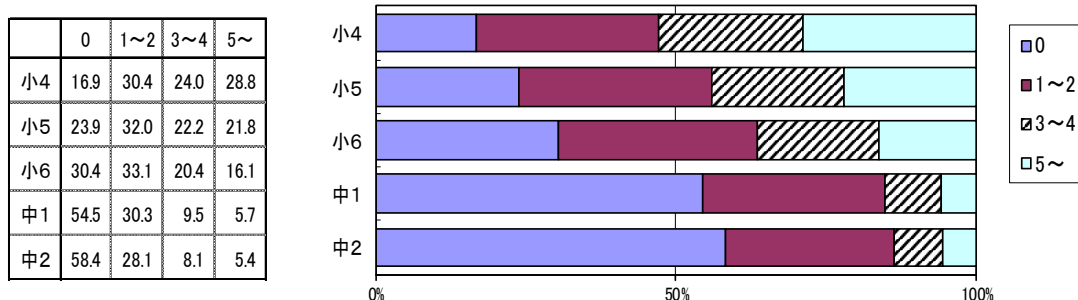
「当てはまる」「どちらかという当てはまる」の割合



[1か月に何冊くらい本を読むか（教科書・学習参考書・マンガ・雑誌や付録を除く）]



[1か月に何回くらい図書館を利用するか]



全ての学年において、児童生徒の78%以上は読書が好きだと回答している。また、全ての学年の児童生徒の90%以上が1か月に1冊以上の本を読んでおり、特に小学校では、1か月に5冊以上の本を読んでいる児童が32%以上いることから、日常的に読書に親しんでいる様子がうかがえる。図書館等の利用回数について、月に1回以上利用しているのは、小学校ではおよそ7割以上、中学校では4割程度である。

4 結 果 と 考 察

(1) 国 語

(2) 社 会

(3) 算数、数学

(4) 理 科

(5) 英 語

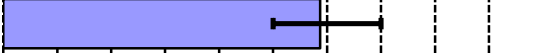
4 結果と考察 (1)国語

令和3年度秋田県学習状況調査 小学校第4学年 国語 評価規準と評価の観点

学 年	内 容		評 価 規 準	通 し 番 号	観 点	
					知識 ・ 技能	思考 ・ 判断 ・ 表現
第 4 学 年	知 識 及 び 技 能	(1)エ (3・4年)	・第4学年までに配当されている漢字を正しく読んでいる。	1)	○	
				2)	○	
			・第3学年までに配当されている漢字を正しく書いている。	3)	○	
				4)	○	
		(1)カ (3・4年)	・修飾と被修飾との関係について理解している。	5)	○	
		(3)イ (3・4年)	・ことわざの意味を理解している。	6)	○	
	思 考 力、 判 断 力、 表 現 力 等	B (1)ウ (3・4年)	・「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。	12)		○
		C (1)イ (3・4年)	・「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。	7)		○
				8)		○
				11)		○
		C (1)エ (3・4年)	・「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像している。	9)		○
				10)		○

小学校 4 年 国語 小問別通過率と設定通過率

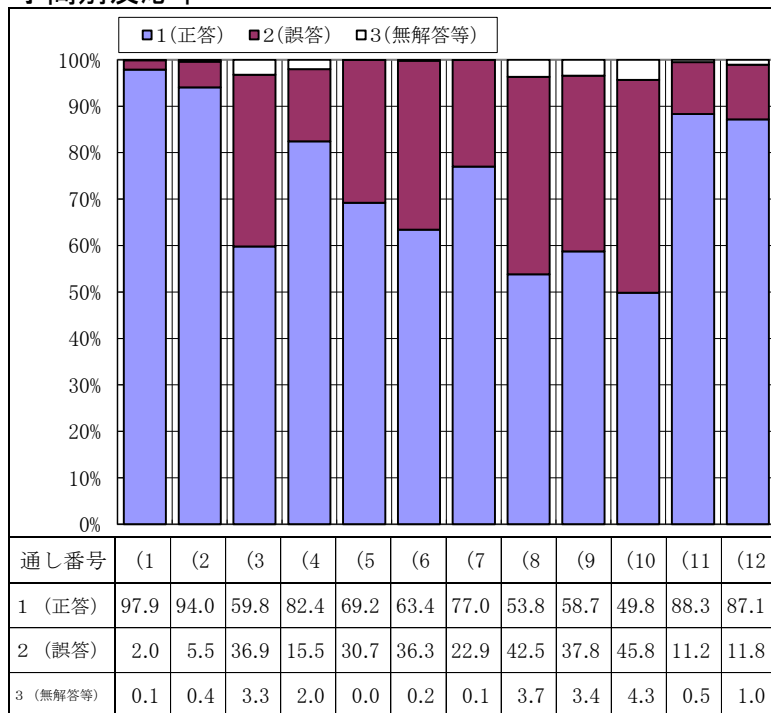
平均通過率 73.5%

通し 番号	出 題 内 容	通過率 (%)	設 定 通過率 (%)	0% 100%
(1)	漢字を読む (つつむ)	97.9	80.0	
(2)	漢字を読む (そくたつ)	94.0	70.0	
(3)	漢字を書く (放送)	59.8	70.0	
(4)	漢字を書く (転がる)	82.4	70.0	
(5)	修飾と被修飾との関係	69.2	70.0	
(6)	ことわざ	63.4	70.0	
(7)	叙述を基に登場人物の心情を捉える	77.0	80.0	
(8)	叙述を基に登場人物の心情を捉える	53.8	70.0	
(9)	登場人物の心情の変化を捉える	58.7	60.0	
(1 0)	登場人物の心情の変化を捉える	49.8	60.0	
(1 1)	叙述を基に登場人物の心情を捉える	88.3	80.0	
(1 2)	心に残っていることとその理由を書く	87.1	80.0	

※ ——— は設定通過率±10%を示している。

小学校 4年 国語

小問別反応率



小問別通過率度数分布表 (182校)

は県平均通過率

通し番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	平均 通過率
100%	102	60	4	19	6	3	8	1	2	1	21	53	
90%～100%	72	90	6	40	4	4	13	1	2	2	65	53	2
80%～90%	8	27	18	57	34	17	48	7	9	5	73	42	29
70%～80%		3	30	31	54	38	67	23	24	9	17	16	100
60%～70%		2	34	22	51	53	34	36	60	36	5	11	42
50%～60%			45	7	24	37	8	45	45	43	1	3	8
40%～50%			31	4	7	20	1	38	19	50		1	1
30%～40%			10	1	1	6	1	16	13	21		1	
20%～30%			2		1	3	1	11	4	10		1	
10%～20%			1			1		3	2	3			
0%～10%			1	1			1	1	2	2		1	

小学校4年 国語 調査結果の考察

1 設定通過率との比較

※表中の数値は設問数

分類 設定通過率の	内 容 別			計
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等		
		書くこと	読むこと	
+10% より高い	3	0	0	3
±10% の範囲内	2	1	3	6
－10% より低い	1	0	2	3
計	6	1	5	12

2 考察

(1) 全体について

12問中9問が設定通過率の「+10%より高い」又は「±10%の範囲内」であり、学習内容の定着状況はおおむね良好である。

(2) 成果

①〔知識及び技能〕では、漢字を読むことについて、指導の成果が見られる。

②〔思考力、判断力、表現力等〕の「書くこと」では、条件に当てはまる自分の経験と、それを支える理由を具体的な場面等を基にして書くことについて、指導の成果が見られる。

(3) 課題

〔思考力、判断力、表現力等〕の「読むこと」では、次の2点について、課題が見られる。

①登場人物の行動や気持ちを、叙述を基に捉え、まとめること。

②登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像すること。

3 今後の指導

登場人物の行動や気持ちを、複数の叙述に着目して捉える指導の手立てを工夫する。

- ・登場人物の行動や気持ちを捉える際は、行動や会話、地の文などの複数の叙述に着目させるとともに、叙述から読み取ることができる登場人物の境遇や性格なども踏まえて想像させることが大切である。
- ・登場人物の気持ちを具体的に想像させるため、〔知識及び技能〕の「(1)ク 文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読すること。」との関連を図り、登場人物になったつもりで会話などを音読させ、なぜそのように音読したのかという理由を交流させるなどの活動を取り入れることも効果的である。

複数の場面における叙述を結び付け、登場人物の気持ちの変化を具体的に想像して読む指導の手立てを工夫する。

- ・場面の展開に応じて、登場人物の気持ちがどのように変化しているのかを、複数の場面の叙述を結び付けることで、具体的に想像させることが大切である。
- ・登場人物の気持ちは、情景の描写にも表されることが多いことから、場面の展開に応じて情景がどのように描かれているかを整理させ、人物の気持ちとの対応を考えながら読ませることも、人物の気持ちの変化に気付かせる手立てとして効果的である。

2 「乗らないの？」と乗れないの？についてまとめた次の文のふさわしい内容を、の中に入きなさい。

「乗らないの？」はゆうたが岩に
乗るつもりがあるかどうかを聞いていて、「乗れないの？」はゆうたが

「乗れないの？」と乗れないの？についてまとめた次の文のふさわしい内容を、の中に入きなさい。

「乗らないの？」はゆうたが岩に
乗るつもりがあるかどうかを聞いていて、「乗れないの？」はゆうたが

3 次の、ゆうたの気持ちの変化について話し合っている場面です。(中略) なおさんになったつもりで、②に入るふさわしい言葉を、本文中から十三字でぬき出して書きなさい。

「乗らないの？」と乗れないの？について話し合っている場面です。(中略) なおさんになったつもりで、②に入るふさわしい言葉を、本文中から十三字でぬき出して書きなさい。

「乗らないの？」と乗れないの？について話し合っている場面です。(中略) なおさんになったつもりで、②に入るふさわしい言葉を、本文中から十三字でぬき出して書きなさい。

令和3年度秋田県学習状況調査 小学校第5学年 国語 評価規準と評価の観点

学 年	内 容		評 価 規 準	通 し 番 号	観 点	
					知識 ・ 技能	思考 ・ 判断 ・ 表現
第 5 学 年	知 識 及 び 技 能	(1)エ (5・6年)	・第5学年までに配当されている漢字を正しく読んでいる。	1)	○	
				2)	○	
		(1)エ (3・4年)	・第4学年までに配当されている漢字を正しく書いている。	3)	○	
				4)	○	
		(1)ウ (3・4年)	・日常使われている簡単な単語について、ローマ字で正しく書いている。	5)	○	
		(1)カ (3・4年)	・修飾と被修飾との関係について理解している。	6)	○	
		(3)ウ (5・6年)	・漢字の由来について理解している。	7)	○	
		(3)ウ (5・6年)	・漢語、和語の区別について理解している。	8)	○	
		(3)イ (3・4年)	・ことわざの意味を理解している。	9)	○	
	思考力、 判断力、 表現力等	A (1)ウ (5・6年)	・「話すこと・聞くこと」において、資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫している。	10)		○
				11)		○
		B (1)ウ (5・6年)	・「書くこと」において、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。	16)		○
		C (1)ア (5・6年)	・「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえている。	12)		○
				13)		○
			・「読むこと」において、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。	15)		○
		C (1)ウ (5・6年)	・「読むこと」において、目的に応じて論の進め方について考えている。	14)		○

小学校 5年 国語 小問別通過率と設定通過率

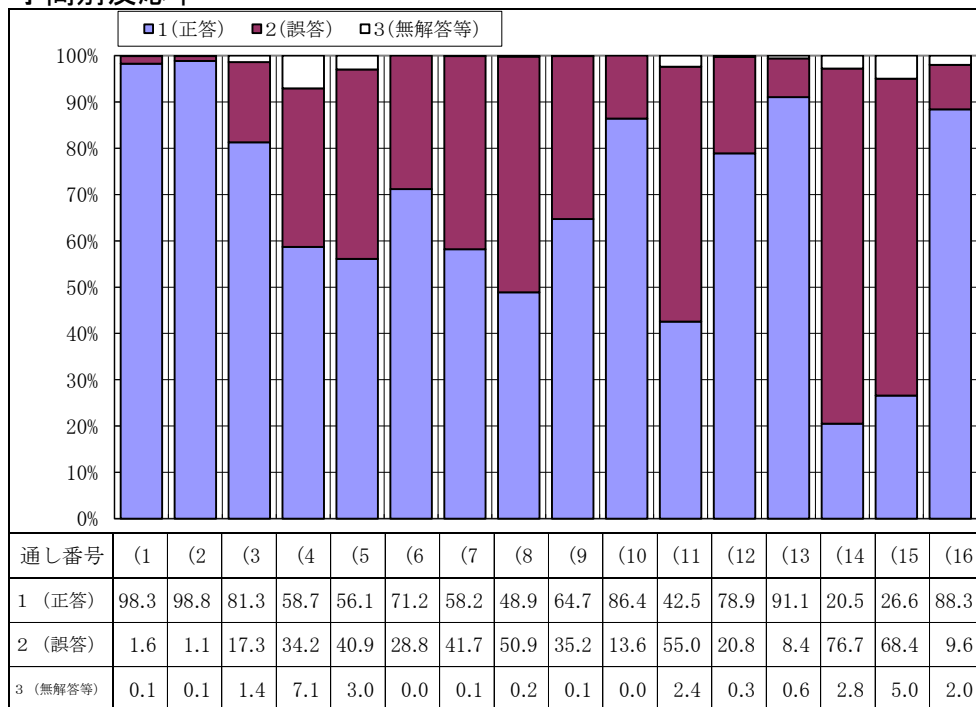
平均通過率 66.9%

通し 番号	出 題 内 容	通過率 (%)	設 定 通過率 (%)	0% 100%
(1)	漢字を読む (ぼうさい)	98.3	80.0	
(2)	漢字を読む (まかせる)	98.8	90.0	
(3)	漢字を書く (希望)	81.3	80.0	
(4)	漢字を書く (省く)	58.7	60.0	
(5)	ローマ字	56.1	60.0	
(6)	修飾と被修飾との関係	71.2	80.0	
(7)	漢字の成り立ち	58.2	60.0	
(8)	和語と漢語	48.9	70.0	
(9)	ことわざ	64.7	70.0	
(10)	資料を用いた意図を捉える	86.4	80.0	
(11)	事実が正確に伝わる表現を考える	42.5	60.0	
(12)	叙述を基に内容を捉える	78.9	80.0	
(13)	叙述を基に内容を捉える	91.1	70.0	
(14)	筆者の論の進め方を捉える	20.5	60.0	
(15)	文章の要旨を捉える	26.6	60.0	
(16)	「はげまされた言葉」と、その言葉から思ったことや考えたことを書く	88.3	80.0	

※ ——— は設定通過率±10%を示している。

小学校 5年 国語

小問別反応率



小問別通過率度数分布表 (183校)

は県平均通過率

通し番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	平均 通過率
100%	117	130	23	3	5	6	5	1	4	19	2	13	42			46	
90%～100%	64	51	39	13	6	6	2	1	4	44	2	16	83			53	2
80%～90%	2	2	54	16	14	35	12	10	16	92	4	63	47		2	59	6
70%～80%			43	30	22	54	22	14	33	21	7	61	7	3		15	56
60%～70%			14	26	32	54	41	31	62	6	10	20	4	4	3	6	99
50%～60%			6	41	38	25	47	43	40	1	26	7		5	14	4	20
40%～50%			4	25	36	2	31	38	17		50	3		7	26		
30%～40%				14	14		14	27	4		53			17	27		
20%～30%				10	12	1	6	15	1		20			43	39		
10%～20%				4	3		3	3	2		3			80	43		
0%～10%				1	1						6			24	29		

小学校5年 国語 調査結果の考察

1 設定通過率との比較

※表中の数値は設問数

分類 設定通過率の	内 容 別				計
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等			
		話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	
+10%より高い	1	0	0	1	2
±10%の範囲内	7	1	1	1	10
-10%より低い	1	1	0	2	4
計	9	2	1	4	16

2 考察

(1) 全体について

16問中12問が設定通過率の「+10%より高い」又は「±10%の範囲内」であり、学習内容の定着状況はおおむね良好である。

(2) 成果

①〔思考力、判断力、表現力等〕の「書くこと」では、事実と感想、意見とを区別し、自分の考えが伝わるように工夫して書くことについて、指導の成果が見られる。

②〔思考力、判断力、表現力等〕の「読むこと」では、叙述を基に文章の内容を捉えることについて、指導の成果が見られる。

(3) 課題

①〔思考力、判断力、表現力等〕の「話すこと・聞くこと」では、自分の考えが伝わるように表現を工夫することに課題が見られる。

②〔思考力、判断力、表現力等〕の「読むこと」では、話の内容について筆者の論の進め方を捉え、まとめることに課題が見られる。

3 今後の指導

伝える相手や目的を意識し、自分の考えを分かりやすく伝えるための表現の工夫について考える指導の充実を図る。

- ・話をする際に、聞き手の興味・関心や情報量などを予想させたり、自分が話す目的等を明確にさせたりして、自分の考えが分かりやすく伝わる表現を工夫させることが大切である。
- ・音声言語だけでは聞き手が理解しにくかったり、誤解を招きそうだったりする場合は、説明を補足したり、伝えたいことを強調したりするといった目的に応じて資料を用意させ、それを使いながら話をさせることも有効である
- ・本設問のように、タブレット端末等で記録した自分の話し方の様子を視聴し、改善点を見い出して、よりよい表現につなげていくことも考えられる。その際、具体的な表現や話し方、話の順番や資料の提示の仕方、視線などに着目させることが大切である。

事実と感想、意見などとの関係や文章全体の構成などを基に、書き手の論の進め方について考える指導の工夫を図る。

- ・理由や事例と書き手の考えとの関係を捉えさせた上で、書き手がどのように論を進めているのかを考えさせることが大切である。例えば、書き手が自分の考えをより適切に伝えるために、どのような理由や事例を、どの順番で取り上げているかということや、論を展開する上で理由や事例が果たす役割や効果などについて考えさせる学習活動を取り入れ、指導することが考えられる。
- ・図表が用いられている文章の場合は、図表と文章を結び付けて読むことで、図表には筆者の考えを分かりやすく伝えたり、説得力を高めたりするなどの効果があることを理解させることも大切である。

【参考 通し番号 11】
「スピーチ」(動画で記録したもの)
これは、「一年生のときに私が着ていた服です。」
2 「スピーチ」の動画を見た山川さんは、
部が聞き手に伝わりにくい表現にな
っていると感じたので、どのように話せ
ばよいかを考えています。山川さんは、
部をどのように話せばよいと思いま
すか。スピーチにふさわしい言葉づかい
で、
の中に書きなさい。

【参考 通し番号 14】
3 次は、あきらさん、みなみさん、たかしさんが、
この文章を読んで感想を話し合っている様子です。
これを読んで、あとの(1)、(2)の問いに答えなさい。
あきら 「弱いロボット」が持っている力につ
いて、(X)という二つの事例を取り上
げて具体的に説明しているところが分か
りやすいよね。
(1) (X)に当てはまる内容を、本文中の言葉
を用いて、
の中に書きなさい。

令和3年度秋田県学習状況調査 小学校第6学年 国語 評価規準と評価の観点

学 年	内 容		評 価 規 準	通 し 番 号	観 点	
					知識 ・ 技能	思考 ・ 判断 ・ 表現
第 6 学 年	知 識 及 び 技 能	(1)エ (5・6年)	・第6学年までに配当されている漢字を正しく読んでい	1)	○	
			る。	2)	○	
			・第5学年までに配当されている漢字を正しく書いてい	3)	○	
			る。	4)	○	
		(1)ウ (5・6年)	・文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるととも	5)	○	
			に、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書いている。			
		(3)ウ (3・4年)	・漢字が、へんやつくりなどから構成されていることにつ	6)	○	
			いて理解している。			
		(1)カ (3・4年)	・主語と述語との関係について理解している。	7)	○	
		(3)イ (3・4年)	・ことわざの意味を理解している。	8)	○	
		(1)キ (5・6年)	・日常よく使われる敬語を理解している。	9)	○	
	思 考 力 、 判 断 力 、 表 現 力 等	A (1)エ (5・6年)	・「話すこと・聞くこと」において、話し手の目的や自分	10)		○
				11)		○
		B (1)ウ (5・6年)	・「書くこと」において、事実と感想、意見とを区別して	18)		○
		C (1)イ (5・6年)	・「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情など	12)		○
				13)		○
				14)		○
				15)		○
		C (1)エ (5・6年)	・「読むこと」において、表現の効果を考えている。	16)		○
				17)		○

小学校 6年 国語 小問別通過率と設定通過率

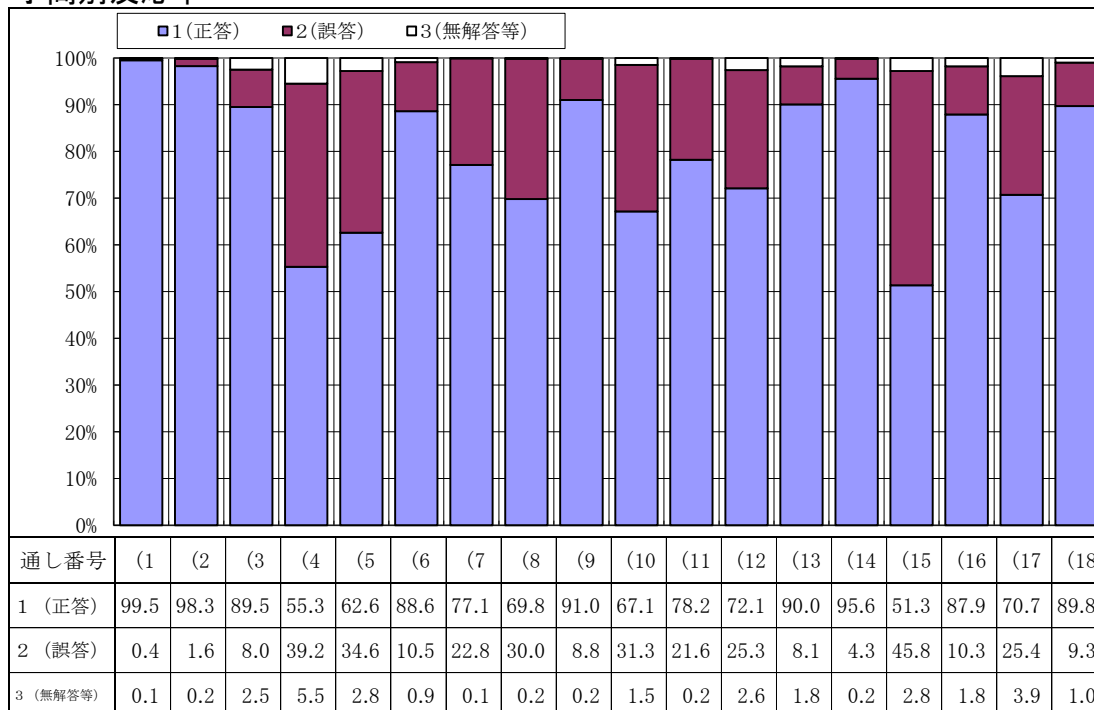
平均通過率 79.7%

通し 番号	出 題 内 容	通過率 (%)	設 定 通過率 (%)	0% 100%
(1)	漢字を読む (こきゅう)	99.5	80.0	
(2)	漢字を読む (ことなる)	98.3	80.0	
(3)	漢字を書く (親しい)	89.5	70.0	
(4)	漢字を書く (豊富)	55.3	70.0	
(5)	正しい送り仮名で漢字を書く (断る)	62.6	70.0	
(6)	漢字の部首	88.6	80.0	
(7)	主語と述語との関係	77.1	70.0	
(8)	ことわざ	69.8	80.0	
(9)	敬語	91.0	70.0	
(10)	相手の話の内容を捉え、質問する	67.1	60.0	
(11)	質問の仕方について理解する	78.2	70.0	
(12)	描写を基に登場人物の心情を捉える	72.1	70.0	
(13)	描写を基に登場人物の心情を捉える	90.0	70.0	
(14)	描写を基に登場人物の心情を捉える	95.6	80.0	
(15)	描写を基に登場人物の心情を捉える	51.3	60.0	
(16)	表現の効果について考える	87.9	80.0	
(17)	表現の効果について考える	70.7	60.0	
(18)	あいさつの効果について自分の考えを書く	89.8	70.0	

※ ——— は設定通過率±10%を示している。

小学校 6年 国語

小問別反応率



小問別通過率度数分布表 (184校)

は県平均通過率

通し番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	平均 通過率
100%	161	125	28	4	11	36	11	7	39	6	8	9	35	66	1	20	6	56	
90%～100%	22	55	63	4	10	62	23	7	84	10	14	14	68	98		57	14	60	4
80%～90%	1	2	75	7	32	65	56	27	49	34	66	27	65	20	7	81	32	47	92
70%～80%		1	15	22	29	19	47	56	10	49	53	57	15		17	18	64	11	80
60%～70%		1	1	42	29	2	32	57	2	30	28	50			27	5	40	4	7
50%～60%				44	38		12	22		23	13	24			44	2	12	4	
40%～50%				33	22		2	4		19					37		2		
30%～40%				12	8					8		1			21		2		
20%～30%				8	4			2							15		1		1
10%～20%				5						1					10		7		
0%～10%			2	3	1		1	2		4	2	2	1		5	1	4	2	

小学校6年 国語 調査結果の考察

1 設定通過率との比較

※表中の数値は設問数

分類 設定通過率の	内 容 別				計
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等			
		話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	
+10%より高い	4	0	1	3	8
±10%の範囲内	3	2	0	3	8
－10%より低い	2	0	0	0	2
計	9	2	1	6	18

2 考察

(1) 全体について

18問中16問が設定通過率の「+10%より高い」又は「±10%の範囲内」であり、学習内容の定着状況はおおむね良好である。

(2) 成果

- ①〔知識及び技能〕では、日常よく使われる敬語について、指導の成果が見られる。
- ②〔思考力、判断力、表現力等〕の「書くこと」では、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表すことについて、指導の成果が見られる。

(3) 課題

- ①〔知識及び技能〕では、ことわざの意味を理解することに課題が見られる。
- ②〔思考力、判断力、表現力等〕の「読むこと」では、通し番号 15) の問題のように、描写を基に登場人物の心情を具体的に捉えることに課題が見られる。

3 今後の指導

ことわざや慣用句、故事成語などの言葉の意味や使い方についての理解を深めるとともに、日常生活で用いようとする意識を高める指導の工夫を図る。

- ・ことわざなどの言葉の意味を知り、日常生活で使えるようにするためには、辞書を活用して言葉の意味や使い方を調べることに加え、ことわざなどの言葉を用いて自分の経験や考えたことなどを話したり書いたりして表現する活動を取り入れることも有効である。学習活動を通して、これらの言葉を用いることのよさや利点に気付かせ、日常生活における表現活動でも活用しようとする意識につなげることが大切である。
- ・ことわざなどの言葉を辞書で調べる際、似た意味の言葉や反対の意味の言葉についても確認するよう促すなど、語彙を増やすための働き掛けを行うことも効果的である。

【参考 通し番号 8)】

6 次の意味を表すことわざを、あとのア、イ、ウ、エの中から一つ選んで、□の中に記号を書きなさい。

・たいへん用心深いこと

ア 石橋をたたいてわたる

イ 善は急げ

ウ おびに短したすきに長し

エ わかいときの苦労は買ってもせよ

複数の描写を関係付けて、登場人物の相互関係や心情などを具体的に想像することができるよう、指導の手立てを工夫する。

- ・登場人物の相互関係や心情を捉えるためには、直接的な描写に着目させるだけでなく、登場人物の行動や会話、情景などによって暗示的に表現されている場合があることも理解させ、複数の描写を関係付けながら文章を読むように指導することが大切である。
- ・想像したことや考えたことについて、根拠となる描写を明確にして説明したり、自他の考えについて相互に質問し合ったりする活動を通して、妥当性を吟味させることも大切である。
- ・〔知識及び技能〕の「(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項」との関連を図りながら指導し、心情や性格などを表す語句の量を増やしていくことも有効である。

【参考 通し番号 15)】

3 そのうちわかることを、次のようにまとめました。□の中に当てはまる内容を書きなさい。

自然とわかるようになる。□うちに、

令和3年度秋田県学習状況調査 中学校第1学年 国語 評価規準と評価の観点

学 年	内 容		評 価 規 準	通 し 番 号	観 点	
					知識 ・ 技能	思考 ・ 判断 ・ 表現
第 1 学 年	知 識 及 び 技 能	(1)イ (中)	・小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を正しく読んでいる。	1)	○	
				2)	○	
			・学年別配当表に示されている漢字を正しく書いている。	3)	○	
				4)	○	
				5)	○	
		(1)エ (中)	・文脈に即して、漢字を適切に使っている。	7)	○	
			・漢字の部首について理解している。			
	思 考 力 、 判 断 力 、 表 現 力 等	(1)キ (小5・6)	・日常よく使われる敬語を理解している。	8)	○	
		(1)ウ (中)	・慣用句の意味と使い方について理解している。	9)	○	
		A (1)イ (中)	・「話すこと・聞くこと」において、話の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係などに注意して、話の構成を考えている。	10)	○	
		A (1)オ (中)	・「話すこと・聞くこと」において、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめている。	11)		○
	判 断 力 、 表 現 力 等	B (1)ウ (中)	・「書くこと」において、根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。	12)		○
		C (1)エ (中)	・「読むこと」において、文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えている。	18)		○
		C (1)ウ (中)	・「読むこと」において、目的に応じて必要な情報に着目し、内容を解釈している。	13)		○
				14)		○
			・「読むこと」において、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈している。	16)		○
				15)		○
		C (1)オ (中)	・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものになっている。	17)		○

中学校 1 年 国語 小問別通過率と設定通過率

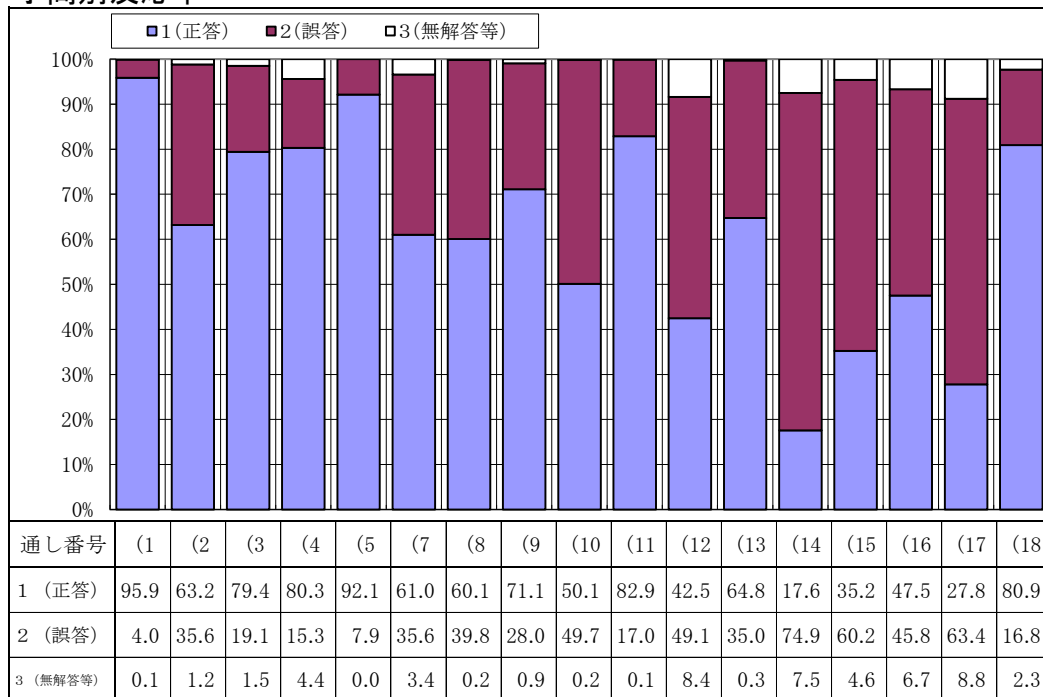
平均通過率 61.9%

通し 番号	出 題 内 容	通過率 (%)	設 定 通過率 (%)	0% 100%
(1)	漢字を読む (きんもつ)	95.9	80.0	
(2)	漢字を読む (こえた)	63.2	70.0	
(3)	漢字を書く (服装)	79.4	80.0	
(4)	漢字を書く (営む)	80.3	70.0	
(5)	同じ音をもつ熟語	92.1	80.0	
(7)	漢字の部首	61.0	70.0	
(8)	文節	60.1	60.0	
(9)	敬語	71.1	70.0	
(10)	慣用句	50.1	60.0	
(11)	話合いの内容を捉える	82.9	80.0	
(12)	話題や展開を捉えて自分の考えをまとめる	42.5	60.0	
(13)	段落相互の関係を捉える	64.8	70.0	
(14)	文章の内容を捉える	17.6	70.0	
(15)	目的に応じて文章を要約する	35.2	60.0	
(16)	文章の内容を捉える	47.5	70.0	
(17)	文章を基に自分の考えをまとめる	27.8	60.0	
(18)	共感する理由について、根拠を明らかにしながら自分の体験と関連付けて書く	80.9	80.0	

※ — は設定通過率±10%を示している。

中学校 1 年 国語

小問別反応率



小問別通過率度数分布表 (110校)

は県平均通過率

通し番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	平均 通過率
100%	30	3	3	9	13	5	3	2	1	10	1	2	1	1	1		14	
90%～100%	72	4	11	12	66	2	1	4	2	10	2			2		1	23	1
80%～90%	8	16	42	42	28	10	11	13		65	4	12		4	2	1	43	2
70%～80%		14	38	35	3	28	14	47	2	19	7	19		5	3	2	15	11
60%～70%		32	10	9		26	25	31	14	2	9	46	2	12	10	4	8	56
50%～60%		19	4	3		16	26	9	36	3	30	24	3	17	23	11	2	38
40%～50%		14				16	20	3	34		11	4	1	15	43	11	2	1
30%～40%		5	1			2	8		17		15	1	2	8	17	20	1	
20%～30%		1				4	1		3		10		20	10	7	18	1	1
10%～20%		1									12	1	54	24	3	30	1	
0%～10%		1	1			1	1	1	1	1	9	1	27	12	1	12		

中学校1年 国語 調査結果の考察

1 設定通過率との比較

※表中の数値は設問数

分類 設定通過率の	内 容 別				計
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等			
		話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	
+10%より高い	3	0	0	0	3
±10%の範囲内	6	1	1	1	9
－10%より低い	0	1	0	4	5
計	9	2	1	5	17

2 考察

(1) 全体について

- ①17問中12問が設定通過率の「+10%より高い」又は「±10%の範囲内」であり、学習内容の定着状況はおおむね良好である。
- ②〔思考力、判断力、表現力等〕においては、「読むこと」の領域に課題が見られる。

(2) 成果

- ①〔知識及び技能〕では、漢字の読み書きや同音異義語を識別することについて、指導の成果が見られる。
- ②〔思考力、判断力、表現力等〕の「書くこと」では、根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わるように工夫して書くことについて、指導の成果が見られる。

(3) 課題

- ①〔思考力、判断力、表現力等〕の「話すこと・聞くこと」では、話題や展開を捉えて自分の考えをまとめることについて、課題が見られる。
- ②〔思考力、判断力、表現力等〕の「読むこと」では、目的に応じて要約することや文章を基に自分の考えをまとめることについて、課題が見られる。

3 今後の指導

目的に応じて、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめる指導の充実を図る。

- ・話題や展開を捉えながら話し合う際は、話し合いの目的を常に意識し、話題の経過を捉えながら話したり聞いたりできるようにするとともに、話し合いの展開に応じて、互いの発言を結び付けながら、自分の考えや集団としての考えをまとめることができるようにすることが大切である。
- ・タブレット端末等で撮影した話し合いの様子を視聴させ、司会者が目的に応じて適切に進行できているかを振り返らせたり、参加者がそれぞれの役割を理解し話題に沿って話し合っているかを相互に評価し合わせたりして、よりよい話し合いの進め方について検討させることも有効である。

文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにする指導の充実を図る。

- ・文章の内容や構造を捉え、精査・解釈しながら考えたり理解したりするためには、語句の文脈上の意味を踏まえて内容を解釈する活動や、書き手による表現の効果について意見交流する活動等を単元に位置付け、文章を多角的に吟味していくことが大切である。
- ・自分の考えを確かなものとしていくためには、自分が理解したことを他者に説明したり、他者の考えやその根拠を知ったりする活動を通して、自分が文章をどのように捉えて解釈したのかを振り返らせることが大切である。例えば、文章を読んで得た知識や考えたことなどを報告したり、レポート等にまとめたりする活動を設定し、指導することが考えられる。

2

【振り返りの様子】

「参考 通し番号 12」

山田 司会者である東野さんの発言には、提案された意見に改善すべき点があることに気付かせるとともに、
このように効果があったことが分かるね。(略)

一部と【振り返りの様子】での話し合いを踏まえて書きなさい。

4 (2)

【話し合いの様子】

「参考 通し番号 17」

のぞみ そうだね。私たちが言葉を用いてコミュニケーションをとることができるのは、私たちの持つ「他人の知識や思考、感情を推測する能力」が、相手の発言の「言外の意図」に気付かせてくれるからだ、と筆者は述べているね。
「言外」というのは「言葉にださないところ」という意味だね。(略)

たける 「言外の意図」とは、どのような意図のことですか。【5段落の言葉を用いて書きなさい。】

令和3年度秋田県学習状況調査 中学校第2学年 国語 評価規準と評価の観点

学 年	内 容		評 価 規 準	通 し 番 号	観 点	
					知識 ・ 技能	思考 ・ 判断 ・ 表現
第 2 学 年	知 識 及 び 技 能	(1)ウ (中2)	・ 中学校第1学年までに学習した常用漢字を正しく読んでいる。	4)	○	
				5)	○	
			・ 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書いている。	6)	○	
				7)	○	
			・ 熟語の構成について理解している。	8)	○	
		(1)エ (中2)	・ 対義語について理解している。	9)	○	
	技 能	(1)エ (中1)	・ 文節の区切り方について理解している。	10)	○	
			・ 単語の類別について理解している。	11)	○	
	思 考 力 、 判 断 力 、 表 現 力 等	(3)ア (中1)	・ 歴史的仮名遣いについて理解している。	12)	○	
		A(1)エ (中2)	・ 「話すこと・聞くこと」において、論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。	1)		○
				2)		○
		A(1)イ (中2)	・ 「話すこと・聞くこと」において、自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫している。	3)		○
		B(1)ウ (中2)	・ 「書くこと」において、根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えるなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。	18)		○
		C(1)ウ (中1)	・ 「読むこと」において、場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈している。	13)		○
		C(1)エ (中2)	・ 「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較するなどし、表現の効果について考えている。	14)		○
				15)		○
		C(1)イ (中2)	・ 「読むこと」において、登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈している。	16)		○
				17)		○

※前学年までの評価規準と評価の観点については、中学校学習指導要領（平成29年告示）に基づき作成している。

中学校２年 国語 小問別通過率と設定通過率

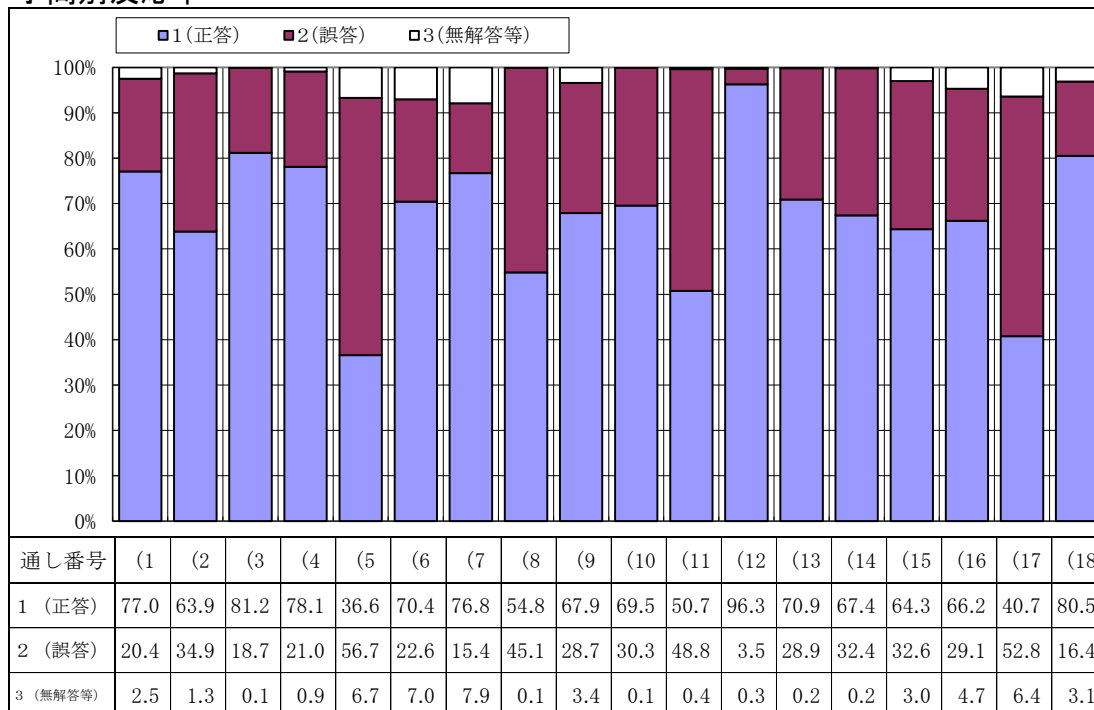
平均通過率 67.4%

通し 番号	出題内容	通過率 (%)	設定 通過率 (%)	0% 100%
(1)	話の内容を捉える	77.0	80.0	
(2)	話の内容を捉える	63.9	70.0	
(3)	質問の仕方について理解する	81.2	80.0	
(4)	漢字を読む（きがん）	78.1	80.0	
(5)	漢字を読む（さとす）	36.6	60.0	
(6)	漢字を書く（郷里）	70.4	70.0	
(7)	漢字を書く（退く）	76.8	70.0	
(8)	熟語の構成	54.8	60.0	
(9)	対義語	67.9	70.0	
(10)	文節	69.5	70.0	
(11)	品詞	50.7	60.0	
(12)	歴史的仮名遣い	96.3	80.0	
(13)	文章の内容にふさわしい慣用句を選ぶ	70.9	70.0	
(14)	表現の工夫を捉える	67.4	70.0	
(15)	比喻表現を捉える	64.3	60.0	
(16)	登場人物の言動の意味を考える	66.2	70.0	
(17)	登場人物の様子を表す表現を捉える	40.7	60.0	
(18)	好きな俳句を選んだ理由を体験と関連付けて書く	80.5	80.0	

※ ——— は設定通過率±10%を示している。

中学校 2年 国語

小問別反応率



小問別通過率度数分布表 (112校)

は県平均通過率

通し番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	平均通過率
100%	8	3	8	6	1	2	2	2	5	3	2	34	3	2	1	4	1	11	
90%～100%	8	2	8	9	1	3	14		3	4	1	72	2	1	1		1	26	
80%～90%	32	16	49	38	2	18	38	5	8	18	6	6	12	6	10	10	4	34	6
70%～80%	44	28	41	39	2	37	32	4	26	39	9		42	39	18	25	4	20	27
60%～70%	14	20	5	15	2	29	16	22	46	19	14		40	41	51	47	16	12	73
50%～60%	4	26	1	5	10	13	7	41	18	15	17		12	21	24	22	24	7	6
40%～50%	2	12			18	9	1	26	4	8	33		1	1	5	2	7	2	
30%～40%		4			19	1	2	11	2	5	20			1	1	1	11		
20%～30%		1			40			1			6					1	28		
10%～20%					12					1	3						13		
0%～10%					5						1				1		3		

中学校2年 国語 調査結果の考察

1 設定通過率との比較

※表中の数値は設問数

分類 設定通過率の	内 容 別				計
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等			
		話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	
+10%より高い	1	0	0	0	1
±10%の範囲内	7	3	1	4	15
－10%より低い	1	0	0	1	2
計	9	3	1	5	18

2 考察

(1) 全体について

18問中16問が設定通過率の「+10%より高い」又は「±10%の範囲内」であり、学習内容の定着状況はおおむね良好である。

(2) 成果

①〔知識及び技能〕では、漢字を書くことや歴史的仮名遣いを理解することなどについて、指導の成果が見られる。

②〔思考力、判断力、表現力等〕の「読むこと」では、文学的文章において、人物の動作を表す比喩表現を理解することについて、指導の成果が見られる。

(3) 課題

①〔知識及び技能〕では、文脈に即して漢字を正しく読むことについて、課題が見られる。

②〔思考力、判断力、表現力等〕の「読むこと」では、文学的文章において、描写の効果や登場人物の言動の意味を考えて読み、内容を理解することについて、課題が見られる。

3 今後の指導

文脈に即した漢字の読み方について、辞書の活用や漢字の構成要素を基に理解を深める指導の充実を図る。

- 漢字の読みの習熟を図るためには、一字一字の音訓を理解させることに加え、語句としての読み方を、話や文章の文脈に即して、意味や用法とともに理解させることが大切である。例えば、教科書を読むことや読書で新しく出会った語句を取り上げ、語句の読み方や意味、用法等について辞書で調べたことを記録させたり、当該の語句を用いた短文を作らせたりする学習活動を通して、文脈に即した漢字の読み方への理解を深めていくことが考えられる。
- 新出の漢字や語句を学習する際、漢字の構成要素である「へん」や「つくり」などに着目させ、読みを類推させる学習活動を行うことも効果的である。

登場人物の言動の意味や表現の効果などについて考えたことを交流することで、内容の理解を深める指導の充実を図る。

- 登場人物の言動の意味を考える際は、言動が話の展開にどのように関わっているかについて、言動と人物像とを関係付けたり、人物相互の言動を対比したりするなど、多面的に考えるための手立てを工夫することが大切である。
- 表現の効果を考える際は、文体、描写の仕方、表現の技法などに着目させるとともに、複数の文章を比較して読む活動を取り入れることで、扱っている文章の特徴的な表現に気付かせていくことが効果的である。
- 登場人物の言動の意味や表現の効果などについて考えたことを交流する活動を通して、自他の考えの共通点や相違点に気付かせたり、解釈したことの妥当性を相互に吟味させたりして、文章の内容をより深く理解させることにつなげていくことも重要である。

「参考 通し番号 5)」
1 次の①、②の部
の読み仮名を書きなさい。
② 父は私に諭すように説明する。

「参考 通し番号 17)」
4 この文章の表現の特徴について、真美さん、高広さん、明人さんは、次のように意見交換しました。これを読んで、（ ）に入るふさわしい内容を二十字以内で書きなさい。
真美 われは、ぼくは、「息」の描写は緊張感を伝えているだけではない
明人 という様子から、仲間として同じ気持ちを持て共感している
真美 なるほど。その通りだわ。さらに、擬音語が効果的に使
われているから、それら二つの様子からは臨場感も伝わっている

4 結果と考察 (2) 社会

令和3年度秋田県学習状況調査 小学校第5学年 社会 評価規準と評価の観点

学年	内容	評価規準	通し番号	観 点	
				知識・技能	思考・判断・表現
第3・4学年	第4学年(1)	・地図帳を活用して、都道府県についての情報を集め、適切に読み取っている。	(1)	○	
	第4学年(1)	・地図帳から必要な情報を集め、適切に読み取っている。	(2)	○	
	第3学年(1)	・公共施設の役割について理解し、その知識を身に付けている。	(3)	○	
	第3学年(1)	・地図記号と方位に関する知識を活用して、地図を適切に読み取っている。	(4)	○	
	第3学年(3)	・地域の安全を守る取組について、資料から読み取り、適切に表現している。	(5)		○
	第4学年(3)	・自然災害に対する関係機関の役割について理解し、その知識を身に付けている。	(6)	○	
	第4学年(3)	・自然災害に対する関係機関の協力体制について、資料から読み取り、適切に表現している。	(7)		○
	第4学年(3)	・自然災害から人々を守る活動について、適切に判断している。	(8)		○
	第4学年(1)	・秋田県の交通網の広がりについて、地図から適切に読み取っている。	(9)	○	
	第4学年(1)	・秋田県の交通網の広がりについて、地図から読み取り、適切に表現している。	(10)		○
第5学年	第4学年(4)	・地域の発展に尽くした先人の働きについて理解し、その知識を身に付けている。	(11)	○	
	(1)	・我が国の自然環境の特色について、資料から読み取り、適切に表現している。	(12)		○
	(1)	・我が国の自然環境の特色について、資料から読み取り、適切に表現している。	(13)		○
	(1)	・我が国の気候の特色について、資料から読み取り、適切に表現している。	(14)		○
	(2)	・我が国の農業の特色について、資料から読み取り、適切に表現している。	(15)		○
	(2)	・我が国の農業の特色について、複数の資料を関連付けて考察し、適切に表現している。	(16)		○
	(1)	・我が国の領土について理解し、その知識を身に付けている。	(17)	○	
	(1)	・世界における我が国の位置について、地図を活用して読み取り、適切に判断している。	(18)		○

※評価規準と評価の観点については、小学校学習指導要領（平成29年告示）に基づき作成している。

小学校 5年 社会 小問別通過率と設定通過率

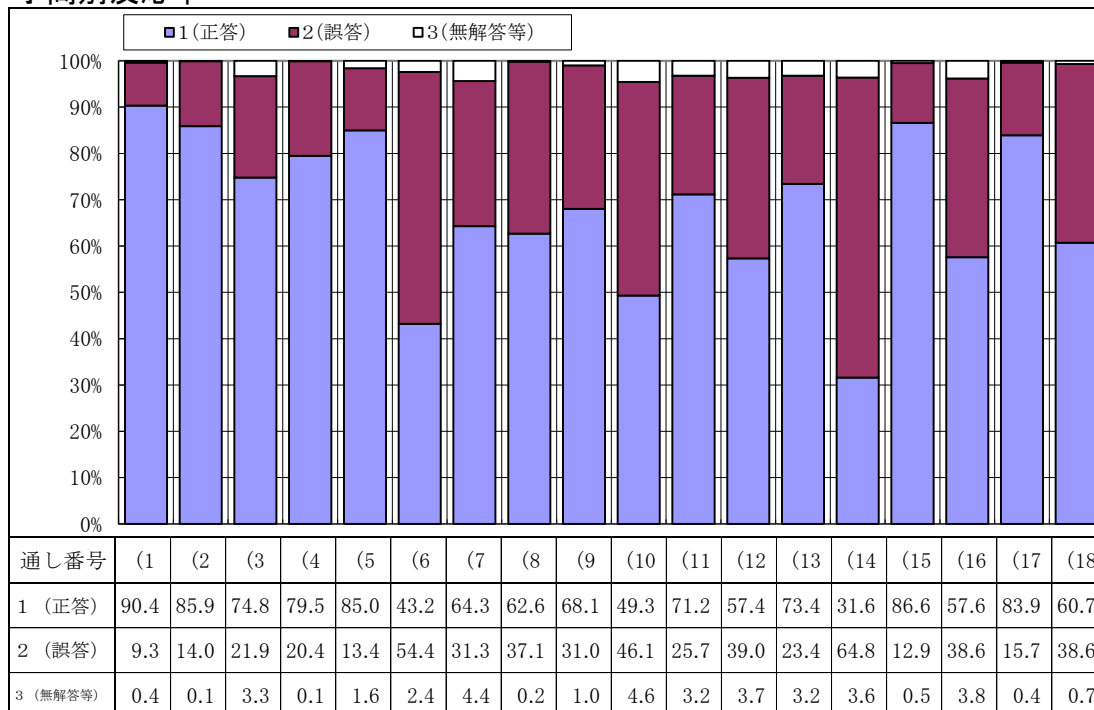
平均通過率 68.1%

通し 番号	出 題 内 容	通過率 (%)	設 定 通過率 (%)	0% 100%
(1)	地図帳の活用	90.4	80.0	
(2)	地図帳の総合的な活用	85.9	75.0	
(3)	公共施設の役割	74.8	70.0	
(4)	地図記号と方位	79.5	80.0	
(5)	事件や事故から人々を守る活動	85.0	80.0	
(6)	自然災害から人々を守る活動	43.2	65.0	
(7)	自然災害から人々を守る活動	64.3	65.0	
(8)	自然災害から人々を守る活動	62.6	70.0	
(9)	秋田県の交通の広がり	68.1	70.0	
(1 0)	秋田県の交通の広がり	49.3	60.0	
(1 1)	地域の発展に尽くした先人	71.2	80.0	
(1 2)	我が国の国土と気候の概要	57.4	65.0	
(1 3)	我が国の国土と気候の概要	73.4	70.0	
(1 4)	我が国の国土と気候の概要	31.6	60.0	
(1 5)	気候の特色を生かした野菜づくり	86.6	75.0	
(1 6)	気候の特色を生かした野菜づくり	57.6	60.0	
(1 7)	我が国の領土	83.9	70.0	
(1 8)	世界における我が国の位置	60.7	65.0	

※ ―― は設定通過率±10%を示している。

小学校 5年 社会

小問別反応率



小問別通過率度数分布表 (193校)

は県平均通過率

通し番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	平均 通過率
100%	37	21	17	21	25	3	5	3	12		32	3	7		28	1	22	4	
90%～100%	73	47	25	28	52	5	14	1	8	5	50	4	19	2	44	4	42	5	2
80%～90%	57	78	47	58	67	11	36	12	21	14	28	17	45	8	77	20	64	12	27
70%～80%	12	23	32	45	18	5	27	31	38	21	10	33	46	8	25	31	41	28	55
60%～70%	3	13	27	21	13	12	35	62	57	27	14	30	41	7	5	46	8	48	66
50%～60%	1	1	17	9	2	36	30	47	36	27	14	29	22	15	3	26	3	47	31
40%～50%			9	1	3	29	18	19	9	24	13	33	2	20		21	2	30	2
30%～40%			1		1	33	13	6	1	24	7	21		23		17		7	
20%～30%			4		2	34	3	2	1	31	10	10		42		9		1	
10%～20%			2			13	1			6	3	2		41		6			
0%～10%			2			2	1			4	2			16		1			

小学校5年 社会 調査結果の考察

1 設定通過率との比較

※表中の数値は設問数

分類 設定通過率の	観 点 別		内 容 別		計
	知識・技能	思考・判断・表現	3・4年	地理的内容	
+10% より高い	3	1	2	2	4
±10% の範囲内	4	7	7	4	11
-10% より低い	1	2	2	1	3
計	8	10	11	7	18

2 考察

(1) 全体について

18問中15問が設定通過率の「+10%より高い」又は「±10%の範囲内」という結果で、学習内容の定着状況はおおむね良好である。

(2) 成果

- ①身近な地域の学習において、地図帳から地図上の情報を読み取ったり、索引を引いて必要な情報を調べたりするなど、地図帳を効果的に活用することについて、指導の成果が見られる。
- ②自然環境を生かした産業の学習において、我が国の食料生産に従事する人々の工夫や努力に関する情報を、諸資料から適切に読み取ることについて、指導の成果が見られる。

(3) 課題

- ①自然災害から人々を守る活動の学習において、国及び地域の関係機関や人々が、自然災害に対し様々な協力をして対処していることについて、資料を基に理解することに課題が見られる。
- ②我が国の国土の様子の学習において、世界の大陸と主な海洋の位置を、我が国の国土との位置関係に着目して捉えることについて、説明したり話し合ったりする活動の充実を図る必要がある。

3 今後の指導

地図や地球儀、各種の資料で調べ、まとめたことを基に、説明したり話し合ったりする活動を充実させることで、我が国の国土の様子を捉え、その特色を考え、表現する力を養う。

○ポイント〔通し番号(17)(18を例として)〕

我が国の国土の位置とその広がりについて、世界の大陸と主な海洋や国との位置関係や、緯度、経度に着目して調べ、説明する活動を取り入れる。

○具体例

- 1 地図を使って日本の位置を確認する。
- 2 地図帳、地球儀を用いて、外国から見た日本の位置を説明する方法を考える。

<学習問題の例>

外国から見た日本の位置を外国の友達に伝えたとしたら、どのように説明すればよいだろうか。

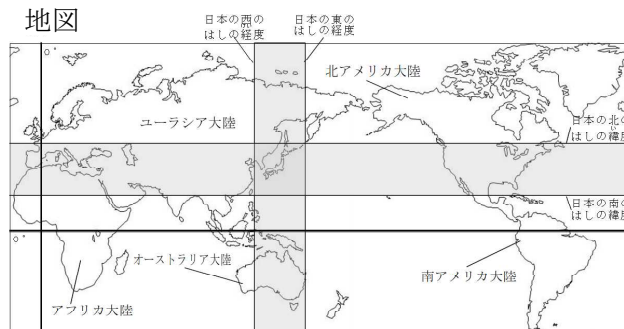
- 3 地図帳や地球儀を活用して、日本の位置についての説明を考える。

発問例 日本の位置を説明するとき、地図にあるどの言葉を使うと伝わりやすいだろうか。

- 4 日本の位置について、地図や地球儀を指し示しながら全体に説明する。

(説明の例) ・日本はユーラシア大陸の東側にあり、日本の北にはロシア連邦がある。
・日本はアメリカと同じ緯度であり、オーストラリアと同じ経度にある。

地図



◇児童に着目させる視点

- ・大陸や海洋との位置関係
- ・近くにある国々との位置関係
- ・日本の国土の範囲や形
- ・緯度と経度 など

学年	内容	評価規準	通し番号	観点	
				知識・技能	思考・判断・表現
第5学年 (第3・4学年の内容を含む)	第4学年(1)	・地図帳を活用して、都道府県についての情報を集め、適切に読み取っている。	(1)	○	
	第4学年(1)	・地図帳から必要な情報を集め、適切に読み取っている。	(2)	○	
	(1)	・我が国の領土について理解し、その知識を身に付けている。	(3)	○	
	(1)	・世界における我が国の位置について、地図を活用して読み取り、適切に判断している。	(4)		○
	(3)	・我が国の工業が盛んな地域の分布について、資料から読み取ったことを関連付けて、適切に表現している。	(5)		○
	(5)	・我が国の公害防止の取組について理解し、その知識を身に付けている。	(6)	○	
	(5)	・公害防止の取組の働きや意義について、資料から読み取り、適切に表現している。	(7)		○
	(4)	・情報と産業の関わりについて、複数の資料から読み取り、適切に判断している。	(8)		○
	(4)	・情報と産業の関わりについて、資料から読み取り、適切に表現している。	(9)		○
	(1)	・国民主権の基本的な考え方について、資料から読み取り、適切に表現している。	(10)		○
	(1)	・国会、内閣、裁判所の相互の関連について、資料から適切に読み取っている。	(11)	○	
	(1)	・国や地方公共団体の政治の働きと国民生活との関連について、資料から適切に読み取っている。	(12)	○	
	(1)	・国や地方公共団体の政治の取組について、資料から読み取り、適切に表現している。	(13)		○
	(2)	・縄文から古墳の各時代の代表的な遺跡について理解し、その知識を身に付けている。	(14)	○	
	(2)	・縄文から古墳の各時代の生活の様子について、資料から読み取ったことを関連付けて、適切に表現している。	(15)		○
	(2)	・古墳時代の社会の様子について、資料から読み取ったことを関連付けて、適切に表現している。	(16)		○
	(2)	・聖武天皇など奈良時代に活躍した人物について、その業績と結び付けて理解し、その知識を身に付けている。	(17)	○	
	(2)	・聖武天皇が行った国づくりについて、複数の資料から読み取ったことを関連付けて、適切に表現している。	(18)		○

※評価規準と評価の観点については、小学校学習指導要領（平成29年告示）に基づき作成している。

小学校 6年 社会 小問別通過率と設定通過率

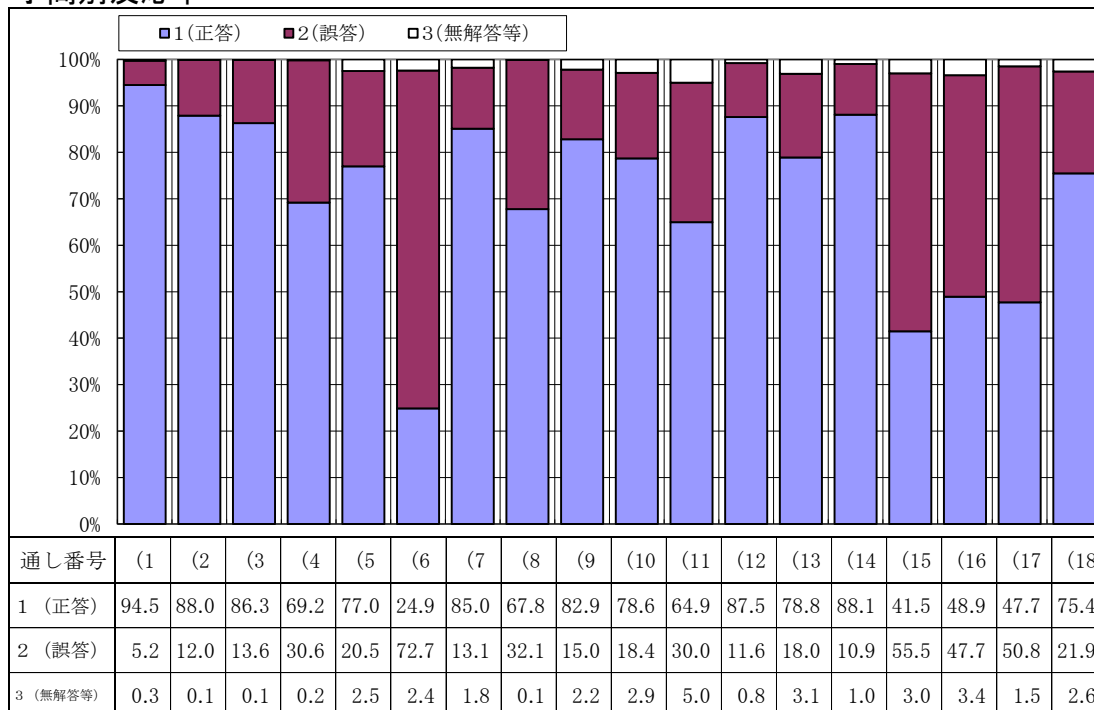
平均通過率 71.5%

通し 番号	出 題 内 容	通過率 (%)	設 定 通過率 (%)	0% 100%
(1)	地図帳の活用	94.5	85.0	
(2)	地図帳の総合的な活用	88.0	80.0	
(3)	我が国の領土	86.3	75.0	
(4)	世界における我が国の位置	69.2	70.0	
(5)	我が国の工業の特色	77.0	65.0	
(6)	我が国の公害の広がり	24.9	65.0	
(7)	公害防止の働きと意義	85.0	70.0	
(8)	情報の活用と産業の関わり	67.8	65.0	
(9)	情報の活用と人々の生活の関わり	82.9	70.0	
(1 0)	日本国憲法の基本原則	78.6	65.0	
(1 1)	三権分立の仕組み	64.9	70.0	
(1 2)	地方公共団体と政治の動き	87.5	80.0	
(1 3)	政策決定の仕組み	78.8	70.0	
(1 4)	縄文・弥生・古墳の各時代の遺跡	88.1	75.0	
(1 5)	古代の社会の変化	41.5	60.0	
(1 6)	大和政権の広がり	48.9	65.0	
(1 7)	聖武天皇と奈良時代に活躍した人物の業績	47.7	65.0	
(1 8)	大仏造営のねらい	75.4	65.0	

※ ——— は設定通過率±10%を示している。

小学校 6年 社会

小問別反応率



小問別通過率度数分布表 (184校)

は県平均通過率

通し番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	平均通過率
100%	64	32	25	6	17	1	37	6	16	13	12	28	17	31	3	3	4	26	
90%～100%	89	48	48	12	30	3	43	1	37	19	16	61	36	60		3	2	25	2
80%～90%	26	78	77	25	51	8	63	28	69	62	31	61	47	70	3	12	10	49	38
70%～80%	5	23	29	52	43	7	23	46	42	59	30	24	43	18	5	18	17	28	80
60%～70%		1	3	47	22	6	12	55	13	20	30	5	24	2	12	28	23	25	50
50%～60%		1		31	12	7	3	39	3	5	28	2	11	2	38	41	39	19	11
40%～50%				6	6	8		4		1	18		2		35	25	36	6	
30%～40%				1		12		2	1	2	7				43	22	28	2	
20%～30%				1		31		1			3		1		24	14	18	1	1
10%～20%						42					4				14	7	2		2
0%～10%		1	2	3	3	58	2	1	2	3	5	3	3	1	7	11	5	3	

小学校6年 社会 調査結果の考察

1 設定通過率との比較

※表中の数値は設問数

分類 設定通過率の	観 点 別		内 容 別			計
	知識・技能	思考・判断・表現	地理的内容	歴史的内容	公民的内容	
+10% より高い	2	5	4	2	1	7
±10% の範囲内	4	3	4	0	3	7
-10% より低い	2	2	1	3	0	4
計	8	10	9	5	4	18

2 考察

(1) 全体について

18問中14問が設定通過率の「+10%より高い」又は「±10%の範囲内」という結果で、学習内容の定着状況はおおむね良好である。

(2) 成果

- ①我が国の工業の特色に関する学習において、資料から読み取ったことを関連付けて適切に表現することについて、指導の成果が見られる。
- ②三権分立に関する学習において、国会に立法、内閣に行政、裁判所に司法という三権があることを資料から適切に読み取ることにについて、指導の改善が図られている。

(3) 課題

- ①我が国の公害防止の取組について理解したり、資料から適切に読み取ったりすることに課題が見られる。
- ②縄文から古墳の時代の社会の様子について、資料から読み取ったことを関連付けて考察したり、適切に表現したりすることに課題が見られる。

3 今後の指導

複数の適切な資料から読み取った事実や既習内容を結び付けて考え、社会的事象の特色や意義について理解し、自分の言葉で表現する活動の充実を図る。

○ポイント【通し番号(6を例として)】

公害の防止と生活環境に関する内容について、複数の資料から読み取れる事実を結び付けて考え、表現する活動を取り入れる。

○具体例(単元の導入部分)

- 1 写真から読み取れる人々の様子について、その背景を考える。
 - ・児童の姿のみを提示し、マスクをしている理由について自由に予想させた後、写真全体を示すことで、当時の大気汚染の影響の大きさに気付かせる。

写真



<学習問題の例>

環境に関わる問題は、いつ頃、どんな所で発生したのだろう。

- 2 環境に関わる問題について調べる。

- ・発生した時期や場所に着目して調べるために、何を用いればよいか、考えさせる。
- ・年表や地図帳を使い、白地図にまとめる作業を通して、環境に関わる問題(公害)は、日本の一部ではなく様々な所で発生していることに気付かせる。

表

1920年代	・イタイイタイ病が発生する
1950年代	・水俣病が発生する
1960年代	・四日市ぜんそくが発生する
1960年代	・新潟水俣病が発生する

白地図



- 3 学習問題についてまとめ、単元の学習問題をつくる。

(まとめの例) 環境に関わる問題(公害)は、主に1950年～1960年代に、日本の様々な場所で発生した。

- ・環境に関する問題は、どうやって改善できたのかを予想させ、単元の学習問題をつくる。

<単元の学習問題の例>

環境を改善し、守るために、だれがどのような取り組みをしているのだろう。

令和3年度秋田県学習状況調査 中学校第1学年 社会 評価規準と評価の観点

学年・分野	内 容	評 価 規 準	通 し 番 号	観 点	
				知識・技能	思考・判断・表現
小学校第6学年	(2)	・杉田玄白や本居宣長の業績について理解し、その知識を身に付けている。	(1)	○	
	(2)	・江戸時代の新しい学問と教育について、資料を基に考察し、その理由を適切に表現している。	(2)		○
	(2)	・明治政府が行った諸改革について理解し、その知識を身に付けている。	(3)	○	
	(2)	・明治政府が進めた近代化について、資料を基に考察し、その理由を適切に表現している。	(4)		○
	(2)	・我が国の戦後の復興と経済の発展について資料を基に考察し、その理由を適切に表現している。	(5)		○
	(2)	・公害が起こった都道府県の位置を理解し、その知識を身に付けている。	(6)	○	
	(3)	・我が国の国際協力の現状について、資料からの的確に読み取っている。	(7)	○	
	(3)	・我が国の国際協力の現状について、資料を基に考察し、その理由を適切に表現している。	(8)		○
中学校地理的分野	A (1)	・世界の地域構成を大観して大陸や州の位置と名称を理解し、その知識を身に付けている。	(9)	○	
	A (1)	・地球儀の模式図を活用して、我が国の位置を的確に読み取っている。	(10)	○	
	B (1)	・冷帯の気候や自然条件について、資料からの的確に読み取っている。	(11)	○	
	B (1)	・冷帯に暮らす人々の生活の工夫について、資料を関連付けて考察し、適切に表現している。	(12)		○
中学校歴史的分野	B (1)	・世界の古代文明の特色について理解し、その知識を身に付けている。	(13)	○	
	B (1)	・世界の古代文明がおこった背景について、資料を基に考察し、その理由を適切に表現している。	(14)		○
	B (1)	・歴史の大きな流れについて、各時代の特色を比較しながら考察し、その結果を適切に表現している。	(15)		○
	B (1)	・渡来人の我が国の社会や文化に果たした役割について理解し、その知識を身に付けている。	(16)	○	
	B (1)	・古代における政治の特色について、資料を基に考察し、その理由を適切に表現している。	(17)		○
	B (1)	・政治の中心地について理解し、その知識を身に付けている。	(18)	○	

中学校 1 年 社会 小問別通過率と設定通過率

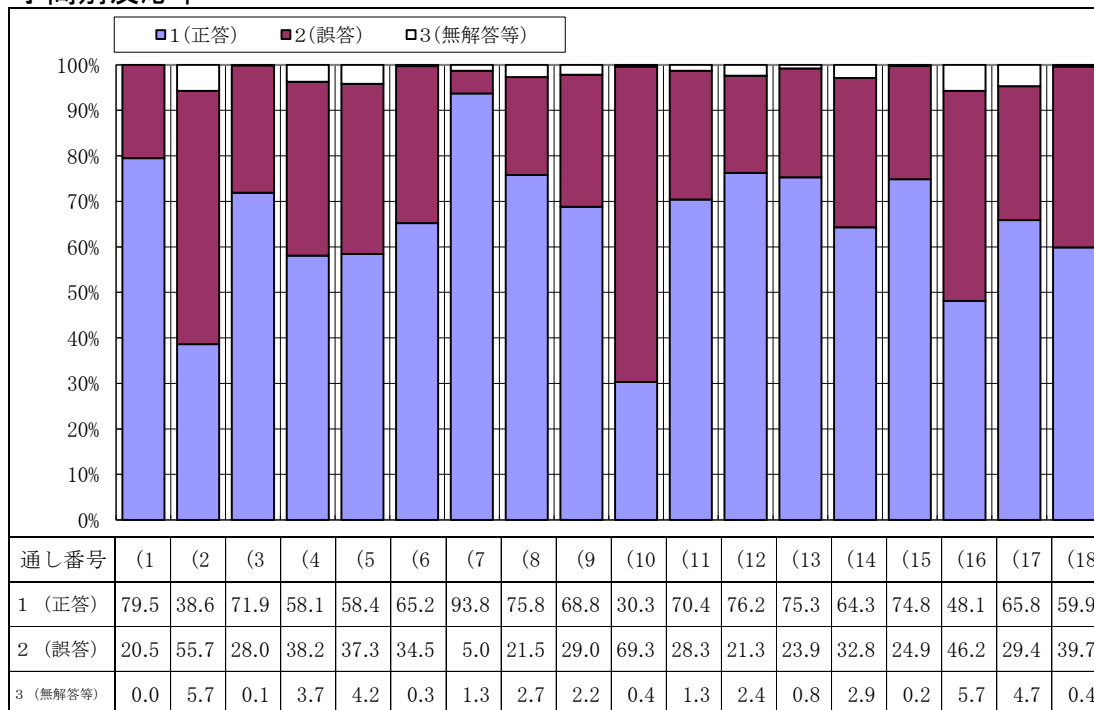
平均通過率 65.3%

通し 番号	出 題 内 容	通過率 (%)	設 定 通過率 (%)	0% 100%
(1)	杉田玄白、本居宣長の業績	79.5	75.0	
(2)	江戸時代の新しい学問と教育	38.6	70.0	
(3)	明治政府による諸改革	71.9	75.0	
(4)	富国強兵	58.1	65.0	
(5)	戦後の復興と経済の発展	58.4	75.0	
(6)	公害が起こった都道府県的位置	65.2	65.0	
(7)	我が国の国際協力の様子	93.8	80.0	
(8)	我が国の国際協力の様子	75.8	75.0	
(9)	州の名称と位置	68.8	70.0	
(1 0)	地球上の我が国の位置	30.3	65.0	
(1 1)	冷帯の気候の特色	70.4	60.0	
(1 2)	冷帯に暮らす人々の生活の工夫	76.2	65.0	
(1 3)	古代文明の特色	75.3	75.0	
(1 4)	古代文明のおこり	64.3	65.0	
(1 5)	歴史の大きな流れと各時代の様子	74.8	85.0	
(1 6)	渡来人の果たした役割	48.1	65.0	
(1 7)	古代における政治の特色	65.8	60.0	
(1 8)	古代の政治の中心地	59.9	70.0	

※ — は設定通過率±10%を示している。

中学校 1 年 社会

小問別反応率



小問別通過率度数分布表 (110校)

は県平均通過率

通し番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	平均 通過率
100%	7	1	3	5	2	2	22	13	6	1	10	12	9	7	8	1	5	6	
90%～100%	11		3	2	4	2	65	10	5		8	23	14	8	12	1	4	1	1
80%～90%	43	4	16	7	8	7	22	37	17	1	25	24	25	23	32	4	19	8	6
70%～80%	29	3	42	20	15	23	1	20	27	2	18	25	30	16	28	13	22	24	31
60%～70%	13	11	35	18	20	44		16	32	3	22	14	21	18	14	10	20	25	47
50%～60%	5	14	8	26	31	27		9	13	10	13	6	4	14	10	22	16	19	20
40%～50%	1	20	1	19	13	2		5	6	17	6		6	12	3	22	12	15	5
30%～40%		23	1	10	13	2			4	21	5	4		9	2	21	7	8	
20%～30%		15		2	1	1				30	1	2	1	1		9	4	3	
10%～20%		13			2					21	1					4			
0%～10%	1	6	1	1	1					4	1			2	1	3	1	1	

中学校 1 年 社会 調査結果の考察

1 設定通過率との比較

※表中の数値は設問数

分類 設定通過率の	観 点 別		内 容 別			計
	知識・技能	思考・判断・表現	小学校	地理的分野	歴史的分野	
＋10% より高い	2	1	1	2	0	3
±10% の範囲内	5	4	5	1	3	9
－10% より低い	3	3	2	1	3	6
計	10	8	8	4	6	18

2 考察

(1) 全体について

18問中6問が設定通過率の「－10%より低い」という結果で、歴史的分野の内容についての定着状況に課題が見られる。一方、経年比較している設問の7問中、昨年度の通過率を上回った設問が4問あった。

(2) 成果

- ①我が国の国際協力の現状について、グラフや写真などの資料を基に考察し、その理由を適切に表現することについて、指導の成果が見られる。
- ②冷帯の気候の特色や人々の生活の工夫について、複数の資料を関連付けて考察し、その理由を適切に表現することについて、指導の改善が図られている。

(3) 課題

- ①地図帳や地球儀、統計などの基礎的資料から、社会的事象についての有用な情報を選択して読み取り、それらを関連付けて考察し、表現することに課題が見られる。
- ②渡来人が我が国の社会や文化に果たした役割や、古代における政治の中心地について、年表や地図、写真などの資料を基に理解することに課題が見られる。

3 今後の指導

年表や地図、文献、写真などの資料を活用し、歴史に関わる事象についての情報を読み取り、比較・関連付け・総合しながらまとめる活動の充実を図る。

○ポイント [通し番号(15(16を例として]

歴史の大きな流れについて、各時代の特色を比較し、その結果を適切に表現する活動を取り入れる。

○具体例

- 1 資料1、2を見て各時代の特色を比較し、問いをもつ。
 - ・土器の作り方や特徴に変化が見られるな。
 - ・朝鮮半島から移住してきた人たちが伝えたことが影響しているのかな。

<学習課題の例>

渡来人が、我が国の社会や文化に果たした役割は何だろうか。

- 2 課題解決に向けて追究する。

- ① 個で予想する。
- ② 5世紀ごろの東アジアの地図等の資料を活用して、我が国と大陸との交流について調べる。
- ③ グループで多様な考えを出し合い、全体で共有する。

- 3 資料1に示した、時代の様子の書き出しの文に続けてまとめる。

(例)

- ・土木工事や金属加工、絹織物、須恵器と呼ばれる土器などの新しい技術を伝えた。
- ・漢字を使って大和政権の記録や外国の文書をつくるなど、政治の面で活躍した。
- ・6世紀には、仏教や儒教を伝え、人々の信仰や文化に大きな影響を与えた。

資料1

時代	縄文時代	弥生時代	古墳時代
時代に関連する写真			
時代の様子	たて穴住居に住み、集団をつくりながら、豊かな自然の中で狩りや採集を中心とした生活をしていった。	稲作や金属器が伝わったところ、小さな国々ができ、それぞれの支配者は互いに戦いを繰り返していた。	朝鮮半島からの渡来人は、

資料2

	作り方と特徴
a 縄文土器	低温で焼かれた厚手で黒褐色の土器
b 弥生土器	やや高温で焼かれた赤褐色の薄手でかための土器
c 須恵器	高温を出せるかまで焼かれた黒っぽくかたい土器

分野	内 容	評 価 規 準	通 し 番 号	観 点	
				知識 ・ 技能	思考 ・ 判断 ・ 表現
地 理 的 分 野	A (1)	・六大陸の大まかな形状や位置関係について理解し、その知識を身に付けている。	(1)	○	
	A (1)	・地球儀の模式図を活用して、日本の位置を的確に読み取っている。	(2)	○	
	A (1)	・地球儀上での緯度や経度、正反対の地点を、的確に読み取っている。	(3)	○	
	B (1)	・乾燥帯で暮らす人々の生活の様子を、資料から読み取ったことを関連付けて考察し、適切に表現している。	(4)		○
	B (2)	・オーストラリアの歴史について、資料からの的確に情報を読み取っている。	(5)	○	
	B (2)	・オーストラリアとアジア州の結び付きについて、資料を基に考察し、適切に表現している。	(6)		○
	B (2)	・世界の各州の地域的特色を、諸条件と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。	(7)	○	
	C (2)	・日本の気候の特色について、資料から読み取ったことを関連付けて考察し、適切に表現している。	(8)		○
	C (2)	・日本の工業の特色について、複数の資料を関連付けて考察し、適切に表現している。	(9)		○
	C (2)	・日本の交通に関する特色について、資料から読み取ったことを関連付けて考察し、適切に表現している。	(10)		○
歴 史 的 分 野	B (1)	・日本独自の仮名文字が発明されたことについて理解し、その知識を身に付けている。	(11)	○	
	B (1)	・古代の文化の特色が変化した理由を、資料を基に考察し、適切に表現している。	(12)		○
	B (1)	・政治の中心地について理解し、その知識を身に付けている。	(13)	○	
	B (2)	・中世の商業の発達について、資料から読み取ったことを関連付けて考察し、適切に表現している。	(14)		○
	B (2)	・応仁の乱後の社会について、資料から各地の支配の様子を読み取り、適切に表現している。	(15)		○
	B (3)	・鎖国の完成について理解し、その知識を身に付けている。	(16)	○	
	B (3)	・資料から、百姓一揆や打ちこわしの発生状況と農村の変化を、的確に読み取っている。	(17)	○	
	B (3)	・北方の調査が行われた理由について、複数の資料を関連付けて考察し、適切に表現している。	(18)		○

中学校 2年 社会 小問別通過率と設定通過率

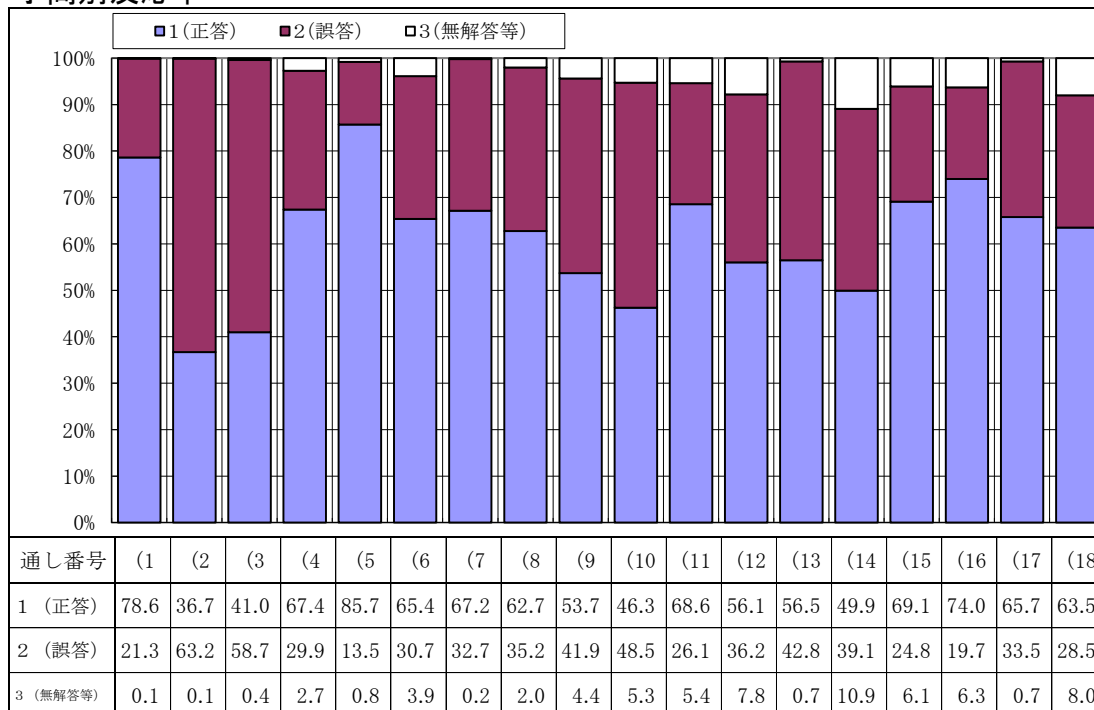
平均通過率 61.6%

通 し 番 号	出 題 内 容	通 過 率 (%)	設 定 通 過 率 (%)	0% 100%
(1)	六大陸の位置と名称	78.6	85.0	
(2)	地球上の我が国の位置	36.7	70.0	
(3)	地球上の正反対の位置	41.0	65.0	
(4)	乾燥帯に暮らす人々の生活の工夫	67.4	60.0	
(5)	オーストラリアの歴史	85.7	85.0	
(6)	オーストラリアとアジア州の結び付き	65.4	70.0	
(7)	各州の小麦の生産量と原油の消費量	67.2	70.0	
(8)	我が国の気候の特色	62.7	65.0	
(9)	我が国の工業の特色	53.7	65.0	
(10)	我が国の交通の特色	46.3	65.0	
(11)	仮名文字の発明	68.6	75.0	
(12)	古代の文化の特色	56.1	60.0	
(13)	古代の政治の中心地	56.5	75.0	
(14)	中世の商業の発達	49.9	60.0	
(15)	応仁の乱後の社会	69.1	75.0	
(16)	鎖国の完成	74.0	80.0	
(17)	百姓一揆や打ちこわしの発生と農村の変化	65.7	70.0	
(18)	外国船の接近と江戸幕府の対応	63.5	65.0	

※ — は設定通過率±10%を示している。

中学校 2年 社会

小問別反応率



小問別通過率度数分布表 (112校)

は県平均通過率

通し番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	平均 通過率
100%	6			6	9	7	3	1	3		4	3	2		4	3	3	3	
90%～100%	5			8	27	6	1	1	4		5	2		1	12	8			
80%～90%	41	1	1	22	55	14	9	7	6	5	11	5	7	4	19	31	14	21	5
70%～80%	45	4	5	21	18	24	30	27	16	7	30	23	6	15	26	25	20	25	19
60%～70%	10	6	9	21	2	24	43	32	17	11	42	25	30	22	23	30	39	26	45
50%～60%	5	15	18	20	1	15	22	30	23	25	15	24	42	23	13	10	27	20	33
40%～50%		22	22	9		10	2	9	17	26	3	15	19	13	10	3	7	7	10
30%～40%		34	30	3		8	2	5	11	16	2	10	4	13	5	2	2	4	
20%～30%		19	19	2		1			8	17		5	1	15				4	
10%～20%		10	6			2			4	5				6				1	
0%～10%		1	2			1			3				1					1	

中学校 2 年 社会 調査結果の考察

1 設定通過率との比較

※表中の数値は設問数

分類 設定通過率の	観 点 別		内 容 別		計
	知識・技能	思考・判断・表現	地理的分野	歴史的分野	
+10% より高い	0	0	0	0	0
±10% の範囲内	6	6	6	6	12
-10% より低い	3	3	4	2	6
計	9	9	10	8	18

2 考察

(1) 全体について

18問中6問が設定通過率の「-10%より低い」という結果で、特に地理的分野の内容についての定着状況に課題が見られる。一方、経年比較している設問10問中9問で通過率が上昇しており、前年度の結果を踏まえた指導の成果と考えられる。

(2) 成果

- ①世界の各州の基礎的・基本的な知識及び技能の定着が図られ、それらを活用して地域的特色を理解することについて、指導の改善が見られる。
- ②年表や絵図、地図等の資料を活用して、情報を読み取ってまとめたり、事象の背景や結果を様々な角度から捉えたりすることについて、指導の改善が見られる。

(3) 課題

- ①地球儀を活用して、社会的事象についての有用な情報を的確に読み取ることに課題が見られる。
- ②歴史的事象について、地図上で位置を捉えたり地理的条件との関連について考察したりすることに課題が見られる。

3 今後の指導

世界の地域構成の特色を、緯度や経度などに着目して多面的・多角的に考察し、表現するために、日常的に地球儀や地図を活用し、地球上の位置関係を正しく捉える学習の充実を図る。

○ポイント [通し番号(3を例として)]

地球上の位置関係を正しく捉えることについて、ある都市や日本の対蹠点（地球上の正反対の地点）などを、緯度や経度を用いて表すことで、緯度や経度の仕組みや性質について考える活動を取り入れる。

○具体例

- 1 地球儀を活用して世界の国を探す。
- 2 地球上の位置を分かりやすく伝える方法を考え、学習課題をつかむ。

<学習課題の例>

地球上の様々な位置はどのように表すことができるだろうか。

- 3 図1や図2を活用して、緯度や経度の仕組みについて理解し、様々な国の位置を説明する。
- 4 対蹠点の求め方について、地球儀や図1、図2を活用して考察する。（例：図1、図2の断面に書き込むなど）

<対蹠点の求め方>

- ・正反対にある地点の緯度は、地球の中心からの角度が同じで北緯と南緯を入れ替えた位置になる。
- ・正反対にある地点の経度は、180度離れた位置になる。

- 5 様々な地点の対蹠点を探す。

- 6 学習のまとめをする。

(例) ・地球上の様々な位置は、緯度（北緯、南緯）や経度（東経、西経）を用いて正確に表すことができる。
・緯度は、赤道を0度としたときの地球の中心からの角度で、南北それぞれ90度まで示され、経度は、本初子午線を0度として東西それぞれ180度まで示される。

図1

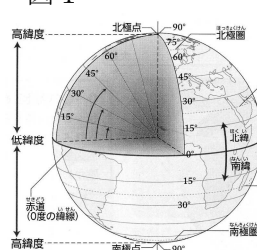


図2

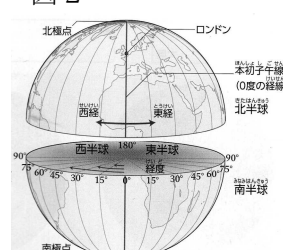
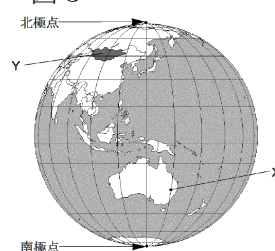


図3



4 結果と考察 (3)算数、数学

令和3年度秋田県学習状況調査 小学校第4学年 算数 評価規準と評価の観点

学 年	領 域	内 容	評 価 規 準	通 し 番 号	観 点	
					知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現
第 3 学 年	A 数と計算	(3)ア(イ)	・数量の関係を捉え、倍に当たる大きさを求めることができる。	(11)	○	
		(5)ア(イ)	・1／10の位までの小数の減法で(整数)－(小数)の場合の計算をすることができる。	(2)	○	
		(5)イ(ア)	・0.1に着目して、小数の大きさの比べ方を説明することができる。	(7)		○
		(6)ア(ア)	・分数の意味や分数の表し方を理解している。	(12)	○	
		(7)ア(ア)	・未知の数量を□を用いて表し、数量の関係を式に表すことができる。	(8)	○	
	B 図形	(1)ア(ア)	・二等辺三角形の意味や性質を理解している。	(15)	○	
		(1)ア(ウ)	・円と長方形の関係に着目し、円の直径の長さを利用して長方形の横の長さを求めることができる。	(10)	○	
	C 測定	(1)ア(ア)	・長さや重さ、かさの単位について理解している。	(5)	○	
		(1)イ(ア)	・1kgが1000gであることを基にして、正味の重さの求め方を説明することができる。	(14)		○
	D データの活用	(1)ア(イ)	・棒グラフを正しく読み取ることができる。	(17)	○	
第 4 学 年	A 数と計算	(1)ア(ア)	・十進位取り記数法の意味を理解している。	(4)	○	
		(3)ア(イ)	・3位数を1位数で割る計算について、正しく筆算をすることができる。	(1)	○	
		(3)ア(イ)	・除法の意味について理解している。	(6)	○	
		(3)ア(ウ)	・除法について、(除数)×(商)+(余り)=(被除数)の関係を理解している。	(9)	○	
		(3)イ(ア)	・問題場面に合わせて除法の余りの処理について考えることができる。	(13)		○
			・除法において、数を構成する単位に着目して、余りを求める方法を説明することができる。	(16)		○
	B 図形	(5)ア(ア)	・180°よりも大きい角の大きさを、直角の大きさを基に捉えることができる。	(3)	○	
	D データの活用	(1)イ(ア)	・折れ線グラフから読み取った情報について、正しく説明することができる。	(18)		○

小学校 4 年 算数 小問別通過率と設定通過率

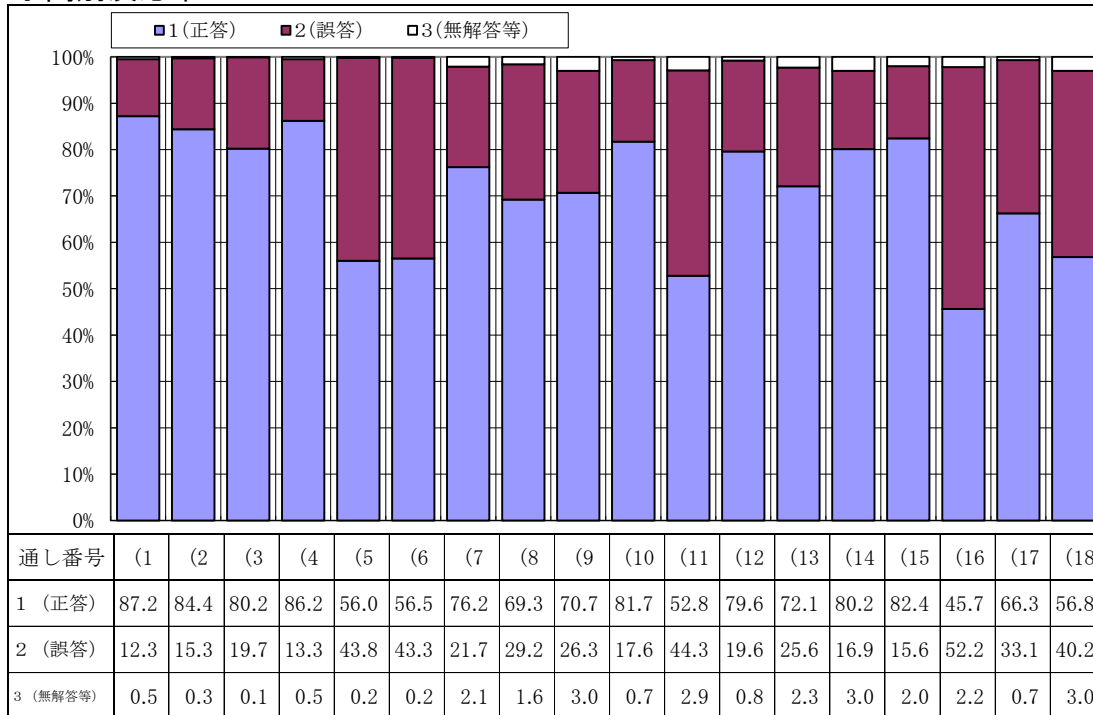
平均通過率 71.3%

通 し 番 号	出 題 内 容	通 過 率 (%)	設 定 通 過 率 (%)	0% 100%
(1)	(3位数) ÷ (1位数) の計算	87.2	85.0	
(2)	小数の減法	84.4	85.0	
(3)	180° より大きい角の大きさの見積もり	80.2	80.0	
(4)	十進位取り記数法の意味理解	86.2	85.0	
(5)	量の単位換算	56.0	70.0	
(6)	除法の立式	56.5	60.0	
(7)	小数の大小	76.2	65.0	
(8)	□を用いた式	69.3	75.0	
(9)	被除数、除数、商及び余りの間の関係	70.7	70.0	
(10)	円の性質	81.7	75.0	
(11)	乗法の立式	52.8	60.0	
(12)	分数の意味理解と表現	79.6	70.0	
(13)	除法の余りの処理	72.1	70.0	
(14)	重さの求め方	80.2	70.0	
(15)	二等辺三角形の性質	82.4	80.0	
(16)	除法の余りの求め方の説明	45.7	60.0	
(17)	棒グラフの読み取り	66.3	65.0	
(18)	折れ線グラフの読み取り	56.8	60.0	

※ ——— は設定通過率±10%を示している。

小学校 4年 算数

小問別反応率



小問別通過率度数分布表 (182校)

は県平均通過率

通し番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	平均 通過率
100%	44	35	14	22	1	1	12	7	11	14	1	20	8	14	20	2	2	4	
90%～100%	54	50	26	48	2		17	13	24	34		49	7	32	43	1	6	4	3
80%～90%	47	56	58	73	10	13	52	33	40	54	5	40	40	75	56	15	22	7	38
70%～80%	23	24	54	31	18	25	50	50	31	57	16	34	50	36	38	12	49	22	76
60%～70%	7	11	25	8	33	29	35	42	34	19	31	19	48	9	12	27	55	47	47
50%～60%	6	4	5		66	64	13	24	23	3	60	9	21	8	9	26	34	48	15
40%～50%	1	2			36	35	2	8	10		49	3	5	2	3	32	11	28	2
30%～40%					11	12		4	4		17	3	2	4		32	1	15	
20%～30%					2	2			4			3		1		26	1	5	1
10%～20%					2						2					6			
0%～10%					1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	3	1	2	

小学校 4 年 算数 調査結果の考察

1 設定通過率との比較

※表中の数値は設問数

分類 設定通過率の	観 点 別		領 域 別				計
	知識・技能	思考・判断・表現	数と計算	図形	変化と関係 測定	データの活用	
+10% より高い	0	2	1	0	1	0	2
±10% の範囲内	1 2	2	9	3	0	2	1 4
-10% より低い	1	1	1	0	1	0	2
計	1 3	5	1 1	3	2	2	1 8

2 考察

(1) 全体について

- ①18問中16問が設定通過率の「+10%より高い」又は「±10%の範囲内」であり、学習内容の定着状況はおおむね良好である。
- ②領域別では、「数と計算」「測定」に課題が見られる問題が見られる。

(2) 成果

- ①□を用いて数量の関係を式に表すことについて、昨年度と比べて通過率の上昇が見られ、改善が図られている。
- ② 180° より大きい角の大きさを捉えることについて、昨年度と比べて通過率の上昇が見られ、改善が図られている。

(3) 課題

- ①除法の立式について、課題が見られる。
- ②除法の余りの求め方を説明することについて、課題が見られる。

3 今後の指導

数量の関係に着目して計算の意味を説明したり、日常生活の中で演算を決定したりする学習活動の充実を図る。

【参考 通し番号(6)】平均通過率56.5% (設定通過率60%)

答えが $24 \div 6$ の式で求められる問題を、次のア～エから2つえらんで、その記号を の中に書きましょう。

- ア 1こ24円のおかしがあります。このおかしを6こ買ったときの代金は何円ですか。
- イ おかしが24こあります。6人で同じ数ずつ分けると、1人分は何こになりますか。
- ウ 赤いテープの長さは24cmです。赤いテープの長さは白いテープの長さの6倍です。白いテープの長さは何cmですか。
- エ 子どもの羊の体重は24kgです。親の羊の体重は子どもの羊の体重の6倍です。親の羊の体重は何kgですか。

- 乗法や除法が用いられる場面を式に表すときには、計算の意味を理解できるように、なぜその式になったのかについて根拠を基に筋道立てて説明させることが大切である。
- 乗法のみ、除法のみを扱うのではなく、日常生活と関連付けながら、乗法及び除法を用いる問題を作る学習活動や、乗法と除法が用いられる場面を並列して扱う学習活動を設定することで、演算を判断する力を身に付けられるようにすることが必要である。

除法の計算に関して成り立つ性質を、十進位取記数法と関連付けたり日常生活の場面と関連付けたりする学習活動の充実を図る。

【参考 通し番号(16)】平均通過率45.7% (設定通過率60%)

次の【問題】の計算方法を、こうすけさんは下のように説明しました。[こうすけさんの説明]が正しくなるように、ア、イにあてはまる数を の中にそれぞれ書きましょう。

【問題】

$2700 \div 400$ を計算し、商は一の位まで求め、あまりも出しましょう。

【こうすけさんの説明】

わり算のきまりを使って、0を2つずつ消して筆算をしました。

$$\begin{array}{r} 6 \\ 400 \overline{) 2700} \\ \underline{24} \\ 300 \end{array}$$
 3は、 が3こあることを表しています。だから、 $2700 \div 400 = 6$ あまり になります。

- $2700 \div 400$ の式を、除法に関して成り立つ性質を利用して $27 \div 4$ としたとき、27は100のまとまりが27個あること、4は100のまとまりが4個あることなど、数は何を表しているかを捉えられるようにするため、筆算の際には数が書かれている位に着目させる必要がある。
- 「2700円で400円の品物をいくつ買うことができ、何円あまるか」など、日常生活の場面と関連付けて計算の意味を理解させたり、検算で確かめさせたりすることも大切である。

令和3年度秋田県学習状況調査 小学校第5学年 算数 評価規準と評価の観点

学 年	領 域	内 容	評 価 規 準	通 し 番 号	観 点	
					知識・技能	思考・判断・表現
第3学年	A数と計算	(3)ア(イ)	・数量の関係を捉え、倍に当たる大きさを求めることができる。	(14)	○	
第4学年	A数と計算	(2)イ(ア)	・切り上げた場合の見積りの結果を基に、正しく判断することができる。	(13)		○
		(5)ア(イ)	・（帯分数）＋（帯分数）の計算ができる。	(1)	○	
		(6)ア(ア)	・計算の順序を考え、適切に（ ）を用いることができる。	(16)	○	
	B図形	(1)ア(イ)	・四角形の性質を理解している。	(8)	○	
		(2)ア(ウ)	・直方体とその展開図を関連付けて、点と点の重なりについて理解している。	(6)	○	
		(4)イ(ア)	・示された図形の面積の求め方を解釈し、求め方を言葉や数を用いて説明することができる。	(15)		○
	C変化と関係	(1)イ(ア)	・表や図を基に、伴って変わる2つの数量の対応における規則性を見いだすことができる。	(18)		○
	Dデータの活用	(1)ア(ア)	・情報を二つの観点から分類整理して表に表すことができる。	(11)	○	
第5学年	A数と計算	(2)イ(ア)	・小数の表し方を十進位取り記数法を基に考えることができる。	(7)		○
		(3)ア(ア)	・基準量を求めるために除法を用いることを理解している。	(4)	○	
			・小数の除法における除数と商の大きさの関係を理解している。	(12)	○	
		(3)ア(イ)	・1／100の位までの小数の乗法の計算ができる。	(2)	○	
			・1／100の位までの小数の除法の計算ができる。	(3)	○	
	B図形	(1)イ(ア)	・四角形の四つの角の大きさの和を、三角形の三つの角の大きさの和を基にして考えることができる。	(10)		○
			・合同な三角形をかくために必要な構成要素を考えることができる。	(9)		○
		(4)ア(イ)	・板の厚さに着目し、箱に入る水の体積を求めることができる。	(17)	○	
	C変化と関係	(1)イ(ア)	・表を基に、簡単な場合の比例の関係を考え、判断することができる。	(5)		○

※評価規準と評価の観点については、小学校学習指導要領（平成29年告示）に基づき作成している。

小学校 5年 算数 小問別通過率と設定通過率

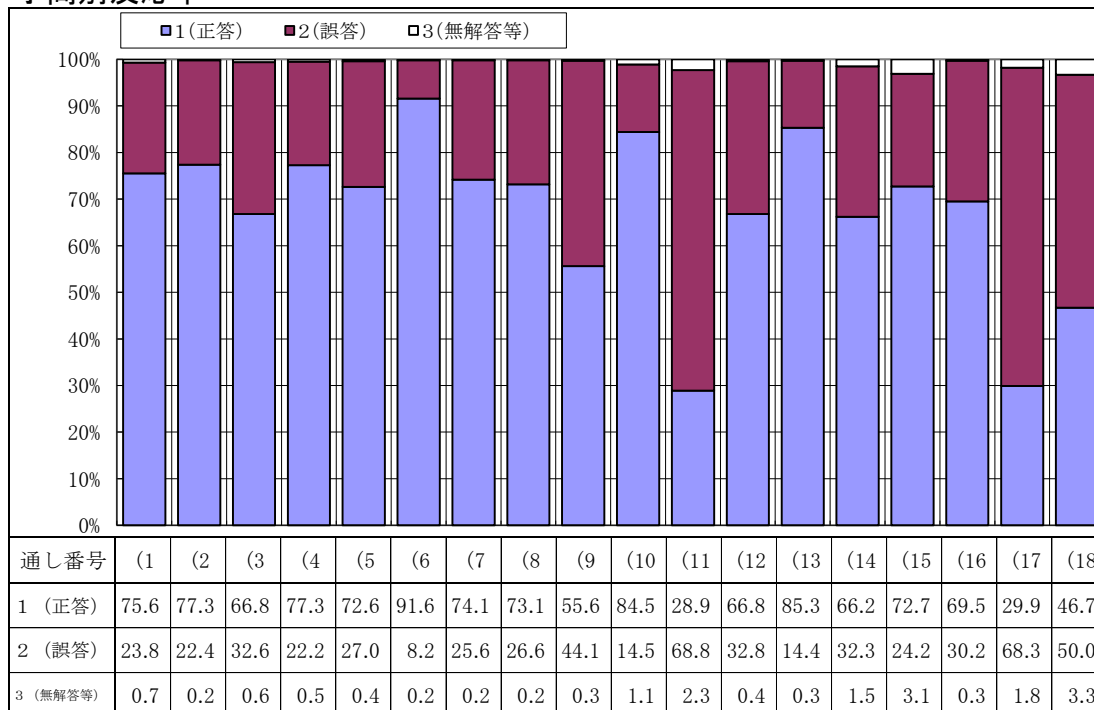
平均通過率 67.5%

通し 番号	出 題 内 容	通過率 (%)	設 定 通過率 (%)	0% 100%
(1)	(帯分数) + (帯分数) の計算	75.6	85.0	
(2)	(小数) × (小数) の計算	77.3	85.0	
(3)	(小数) ÷ (小数) の計算	66.8	75.0	
(4)	基準量の求め方	77.3	75.0	
(5)	比例の関係	72.6	70.0	
(6)	直方体の展開図	91.6	80.0	
(7)	小数の仕組み	74.1	75.0	
(8)	四角形の性質	73.1	70.0	
(9)	三角形の合同条件	55.6	60.0	
(10)	四角形の内角の和	84.5	80.0	
(11)	二次元表の分類整理	28.9	60.0	
(12)	除数と商の大きさの関係	66.8	70.0	
(13)	目的に応じた概数での見積もりの判断	85.3	75.0	
(14)	乗法の立式	66.2	70.0	
(15)	複合図形の面積の求め方	72.7	65.0	
(16)	() を用いた計算のきまり	69.5	70.0	
(17)	1 cmの厚さの板で作られた直方体に入る水の体積	29.9	60.0	
(18)	伴って変わる数量の関係の読み取り	46.7	60.0	

※ ——— は設定通過率±10%を示している。

小学校 5年 算数

小問別反応率



小問別通過率度数分布表 (183校)

は県平均通過率

通し番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	平均通過率
100%	11	16	5	15	7	42	16	5	4	29	3	11	15	4	14	5		1	
90%～100%	25	21	6	25	12	80	30	15	3	45	1	15	37	2	19	8	2	1	2
80%～90%	41	62	22	59	37	54	54	42	7	64	6	18	91	15	43	33	4	3	15
70%～80%	54	37	47	36	55	7	34	56	8	33	4	41	31	48	47	51	8	12	56
60%～70%	35	26	49	37	45		21	49	45	10	10	48	8	63	34	48	7	30	84
50%～60%	10	19	32	7	19		16	11	63	1	14	35	1	38	19	31	14	42	25
40%～50%	4	1	14	4	4		4	4	33	1	10	9		10	5	5	11	46	1
30%～40%	2	1	5		2		5		17		21	4		2	2	1	29	31	
20%～30%	1		3		2		3	1	1		52	2				1	51	12	
10%～20%									2		48						40	4	
0%～10%											14			1			17	1	

小学校 5 年 算数 調査結果の考察

1 設定通過率との比較

※表中の数値は設問数

分類 設定通過率の	観 点 別		領 域 別				計
	知識・技能	思考・判断・表現	数と計算	図形	変化と関係	データの活用	
+10% より高い	1	1	1	1	0	0	2
±10% の範囲内	8	5	8	4	1	0	13
-10% より低い	2	1	0	1	1	1	3
計	11	7	9	6	2	1	18

2 考察

(1) 全体について

- ①18問中15問が設定通過率の「+10%より高い」又は「±10%の範囲内」であり、学習内容の定着状況はおおむね良好である。
- ②観点別では、「知識・技能」にやや課題が見られる。領域別では、「変化と関係」「データの活用」に課題が見られる。

(2) 成果

- ①基準量を求めるために除法を用いることを理解することについて、昨年度と比べて通過率の上昇が見られ、改善が図られている。
- ②四角形の特徴をまとめた表から、その特徴にあてはまる四角形を判断することについて、昨年度と比べて通過率の上昇が見られ、改善が図られている。

(3) 課題

- ①情報を二つの観点から分類整理して表に表すことについて、課題が見られる。
- ②板の厚さに着目し、直方体の箱に入る水の体積を求めることについて、課題が見られる。

3 今後の指導

情報を二つの観点から分類整理したり、情報の特徴や傾向を捉えて考察したりするなど二次元表を活用する学習活動の充実を図る。

【参考 通し番号(11) 平均通過率28.9% (設定通過率60%)

図書委員のたくとさんは、自分のクラスで、先週と今週に図書室の本を借りた人数を調べ、次のようにまとめました。クラスの人数は32人です。

先週借りた人 23人
今週借りた人 20人
先週も今週も借りた人 . . . 16人

この結果から次の表をつくります。アにあてはまる数を の中に書きましょう。

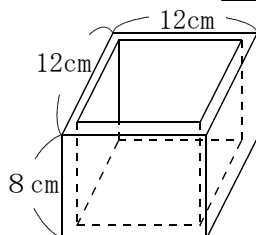
		図書室の本の利用のようす (人)		合計
		先 週	今 週	
先 週	借りた			
	借りない		ア	
合計				32

- ・児童の興味・関心を基に、目的をもって情報を収集できるような問題場面を設定し、二つの観点から表にまとめる活動を通して新たな結論が見いだせることに気付かせることが大切である。
- ・事柄を判断したり予測したりするために二次元表を活用し、その思考過程や結果を表現することは、統計的な見方や考え方を深めるために有効である。
- ・二次元表の意味理解を深めるため、二次元表に示された数の意味を、表の横の項目と縦の項目それぞれに着目して説明する活動を取り入れるなど、指導の工夫が必要である。

具体物の操作やICT機器による図形の操作等を通して、実感を伴った理解が得られる学習活動の充実を図る。

【参考 通し番号(17) 平均通過率29.9% (設定通過率60%)

次の図のように、厚さ1cmの板で作った直方体の形をした入れ物があります。この入れ物いっぱいに入る水の体積は何 cm^3 ですか。答えを の中に書きましょう。



- ・立体を視覚的に捉えることで、実感を伴った理解を得られるようにすることが大切である。例えば、直方体の入れ物に 1cm^3 の立方体を詰め込みその長さを測ったり、ICT機器に直方体の入れ物とその内側の部分を映し出し、辺の長さの違いを確認したりするなどの方法が考えられる。
- ・直方体の辺の長さとのりの長さの違いについて、図を用いながら話し合ったり説明したりすることを通して、のりのそれぞれの長さを確認できるようにすることも大切である。

学 年	領 域	内 容	評 価 規 準	通 し 番 号	観 点	
					知識 ・ 技能	思考 ・ 判断 ・ 表現
第4学年	A数と計算	(6)ア(ア)	・計算の順序を考え、適切に()を用いることができる。	(5)	○	
第5学年	A数と計算	(1)イ(ア)	・敷き詰めるタイルの数を、最小公倍数を用いて求めることができる。	(7)		○
	B図形	(1)ア(ウ)	・円に内接している正十二角形を基にして、角の大きさを求めることができる。	(17)	○	
		(1)ア(エ)	・直径、円周、円周率の関係を理解している。	(9)	○	
		(3)ア(ア)	・必要な部分の長さに着目して、三角形の面積を求めることができる。	(13)	○	
		(3)イ(ア)	・示された図や考えを基に、台形の面積の求め方を説明することができる。	(15)		○
	C変化と関係	(2)イ(ア)	・異種の二つの数量の大きさの比べ方を説明することができる。	(10)		○
		(3)ア(イ)	・比較量と割合から基準量を求めることができる。	(4)	○	
	Dデータの活用	(1)イ(ア)	・二つの帯グラフから、必要な情報を読み取って判断し、その理由を説明することができる。	(18)		○
		(2)ア(ア)	・平均の考え方を基に、ある測定値を求めることができる。	(6)	○	
第6学年	A数と計算	(1)ア(ア)	・分数の乗法で、乗数と積の大きさの関係について理解している。	(3)	○	
			・分数で表された数量について、基準量を求めるために除法を用いることを理解している。	(8)	○	
			・示された場面における数量の関係を数直線に表すことができる。	(11)	○	
		(1)ア(イ)	・分数÷分数の計算ができる。	(1)	○	
			・縦、横、高さが分数で表された直方体の体積を求めることができる。	(14)	○	
		(2)ア(ア)	・ x に数を当てはめて答えを求めることができる。	(2)	○	
		(2)イ(ア)	・長方形の辺の長さの関係を捉え、文字を用いた式の意味を事象に即して解釈することができる。	(12)		○
	B図形	(1)ア(イ)	・線対称な図形に対称の軸をかくことができる。	(16)	○	

※評価基準と評価の観点については、小学校学習指導要領（平成29年告示）に基づき作成している。

小学校 6年 算数 小問別通過率と設定通過率

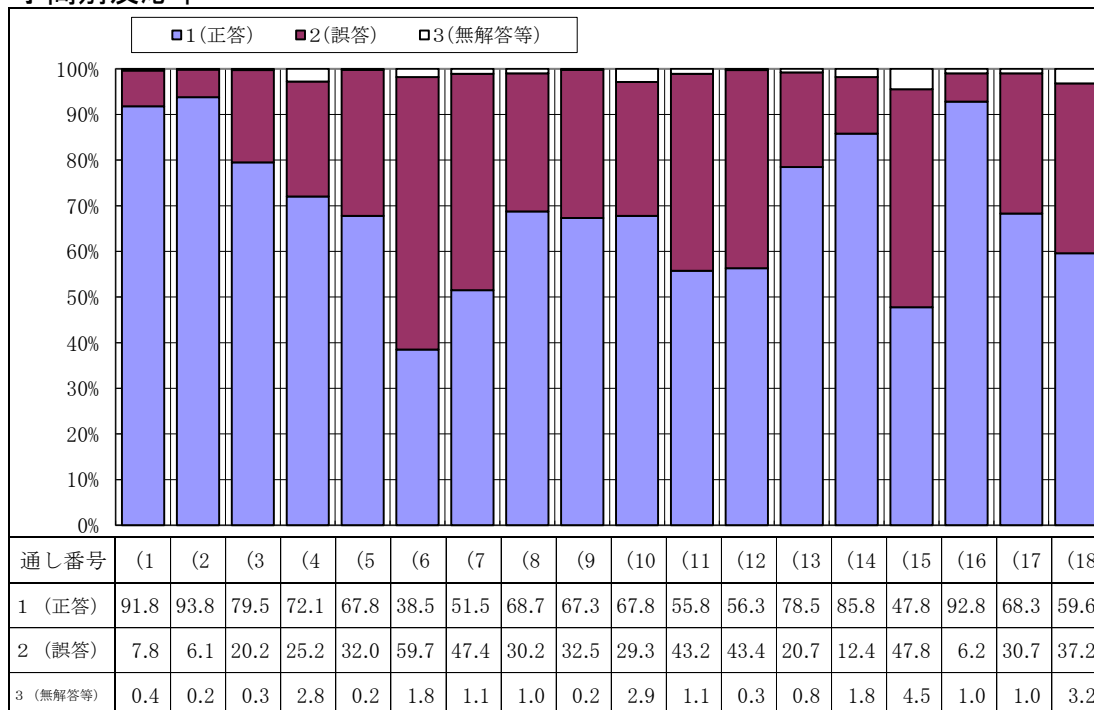
平均通過率 69.1%

通し 番号	出 題 内 容	通過率 (%)	設 定 通過率 (%)	0% 100%
(1)	(分数) ÷ (分数) の計算	91.8	85.0	
(2)	文字を用いた式	93.8	85.0	
(3)	分数の乗法	79.5	80.0	
(4)	割合を含む数量の関係	72.1	70.0	
(5)	() を用いた計算のきまり	67.8	70.0	
(6)	平均と測定値	38.5	60.0	
(7)	整数の性質	51.5	70.0	
(8)	基準量の求め方	68.7	70.0	
(9)	直径、円周、円周率の関係	67.3	80.0	
(10)	速さの比較	67.8	70.0	
(11)	基準量と比較量の関係	55.8	65.0	
(12)	長さを表す文字を用いた式の解釈	56.3	70.0	
(13)	三角形の面積	78.5	70.0	
(14)	直方体の体積	85.8	70.0	
(15)	台形の面積	47.8	70.0	
(16)	線対称な図形	92.8	80.0	
(17)	正多角形の角の大きさ	68.3	65.0	
(18)	必要な情報の読み取りと、数学的な説明	59.6	60.0	

※ ——— は設定通過率±10%を示している。

小学校 6年 算数

小問別反応率



小問別通過率度数分布表 (184校)

は県平均通過率

通し番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	平均通過率
100%	45	56	10	10	6		3	10	8	6	4	1	20	27	3	53	7	6	
90%～100%	82	96	20	16	4			12	6	12	3	6	32	45		96	6	8	2
80%～90%	46	25	69	38	16	2	7	33	24	25	14	11	47	72	5	31	26	23	20
70%～80%	9	5	58	46	52	2	16	42	40	49	27	22	45	31	10	3	52	24	70
60%～70%			16	38	58	9	22	40	48	45	34	42	25	4	27		51	34	67
50%～60%	1	1	8	22	34	16	52	31	37	30	43	46	9	3	54		30	42	21
40%～50%			1	11	8	45	49	11	11	12	32	32	4		38		8	22	2
30%～40%					4	60	21	3	6	1	17	11			29		2	18	
20%～30%					1	33	9		1	1	5	5			10			3	1
10%～20%						11	2				2	5			5			1	
0%～10%	1	1	2	3	1	6	3	2	3	3	3	3	2	2	3	1	2	3	1

小学校 6 年 算数 調査結果の考察

1 設定通過率との比較

※表中の数値は設問数

分類 設定通過率の	観 点 別		領 域 別				計
	知識・技能	思考・判断・表現	数と計算	図形	変化と関係	データの活用	
+10% より高い	2	0	1	1	0	0	2
±10% の範囲内	9	2	6	2	2	1	11
-10% より低い	2	3	2	2	0	1	5
計	13	5	9	5	2	2	18

2 考察

(1) 全体について

設定通過率の「-10%より低い」設問が、第5学年の内容に関しては9問中4問、第6学年の内容に関しては8問中1問あり、第5学年の学習内容の定着状況は、十分とは言えない。

(2) 成果

- ①比較量と割合から基準量を求めることについて、昨年度と比べて通過率の上昇が見られ、改善が図られている。
- ②三角形の面積を求めることについて、全国学力・学習状況調査における類題と比べて通過率の上昇が見られ、改善が図られている。

(3) 課題

- ①平均の考えを基に、ある測定値を求める計算について、課題が見られる。
- ②問題場面の数量に着目し文字を用いた式で表現することについて、課題が見られる。

3 今後の指導

平均の考えを基に、ある測定値を求める計算の仕方を通して、平均を求める方法とその意味を関連付ける学習活動の充実を図る。

【参考 通し番号(6)】平均通過率38.5% (設定通過率60%)

たかしさんは、読書週間の1週間で1日平均2.5ページ以上読書することを目標にしています。月曜日から土曜日までの6日間で読んだページ数は、次の表のとおりです。月曜日から日曜日までの7日間について、1日の平均を2.5ページ以上にするには、日曜日に何ページ以上読めばよいでしょうか。□の中に答えを書きましょう。

曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
読んだページ数	32	21	16	28	17	24	

- ・平均の考えについて理解を深められるよう、平均や合計を求めるための式を読み取ったり、計算過程を振り返ったりすることで、平均を求める方法とその意味を関連付けながら学習を展開していくことが重要である。
- ・児童が、平均の考えを他教科の学習や日常生活などで活用しようとする態度の育成につながるような学習活動を取り入れることも大切である。

問題場面の数量の関係に着目し、数量の関係を文字を用いて簡潔かつ一般的に表現する学習活動の充実を図る。

【参考 通し番号(12)】平均通過率56.3% (設定通過率70%)

次の図のように、18cmの針金を使って、周りの長さが18cmの長方形をつくります。



この長方形の縦の長さを a cm とするとき、横の長さ正しく表している式を、次のア～エから1つ選んで、その記号を □ の中に書きましょう。

- ア $18 - a$
- イ $18 - a \times 2$
- ウ $9 - a$
- エ $9 - a \div 2$

- ・一方の数量を文字を用いて表すと、もう一方の数量もその文字を用いた式で表すことができるなど、問題場面の数量の関係を、複数の数学的表現を用いて表し、それらを関連付けて考察する学習活動を設定する必要がある。
- ・文字を用いて表現するよさを実感できる数学的活動を積み重ねていくことも重要である。
- ・例えば、周りの長さが一定の長方形において、縦と横の長さの関係を表を用いて調べたり、ICT機器を用いて二つの数量の関係を可視化したりすることで、規則性を捉えさせる活動が考えられる。

令和3年度秋田県学習状況調査 中学校第1学年 数学 評価規準と評価の観点

学 年	領 域	内 容	評 価 規 準	通 し 番 号	観 点	
					知識・技能	思考・判断・表現
小 学 校 第 6 学 年	A 数と計算	(2)イ(ア)	・長方形の辺の長さの関係を捉え、文字を用いた式の意味を事象に即して解釈することができる。	(11)		○
	B 図形	(1)イ(ア)	・合同な三角形のかき方などを基に、拡大図のかき方を考え、説明することができる。	(17)		○
		(3)イ(ア)	・図を基にして円の面積の求め方を考えることができる。	(10)		○
		(4)イ(ア)	・高さが等しい二つの円柱の体積の関係を、底面積の関係を基に考えることができる。	(8)		○
	C 変化と関係	(1)イ(ア)	・具体的な場面で、比例の関係をを用いて答えを求めるために必要な数量を見いだすことができる。	(12)		○
		(2)ア(ア)	・比の相等を確かめることができる。	(3)	○	
	D データの活用	(1)ア(ア)	・与えられたデータから、中央値を求めることができる。	(16)	○	
		(2)ア(ア)	・起こり得る場合を、落ちや重なりがないように、図を用いて求めることができる。	(14)	○	
中 学 校 第 1 学 年	A 数と式	(1)ア(イ)	・正負の数の四則の混じった式の計算ができる。	(1)	○	
		(1)ア※	・自然数を素数の積に表すことができる。	(7)	○	
			・四則計算の結果の特徴を的確に捉え、数の集合と四則計算の可能性を理解している。	(6)	○	
		(2)ア(ウ)	・事象の中にある数量を、文字を用いた式で表すことができる。	(2)	○	
			・一次式と数の除法の計算の仕方を理解している。	(15)	○	
		(2)ア(エ)	・事象の中にある数量の関係を、等式で表すことができる。	(4)	○	
			・文字を用いた式の意味を読み取ることができる。	(9)	○	
		(2)イ	・式と図を関連付けて、基石の個数の求め方を文字を用いて説明することができる。	(18)		○
		(3)ア(ア)	・一次方程式の解を用いて、その方程式を成り立たせる文字の値を求めることができる。	(13)	○	
		(3)ア(イ)	・分子が一次式である分数の一次方程式を解くことができる。	(5)	○	

※の問題は、「内容の取扱い」から出題している。

中学校 1 年 数学 小問別通過率と設定通過率

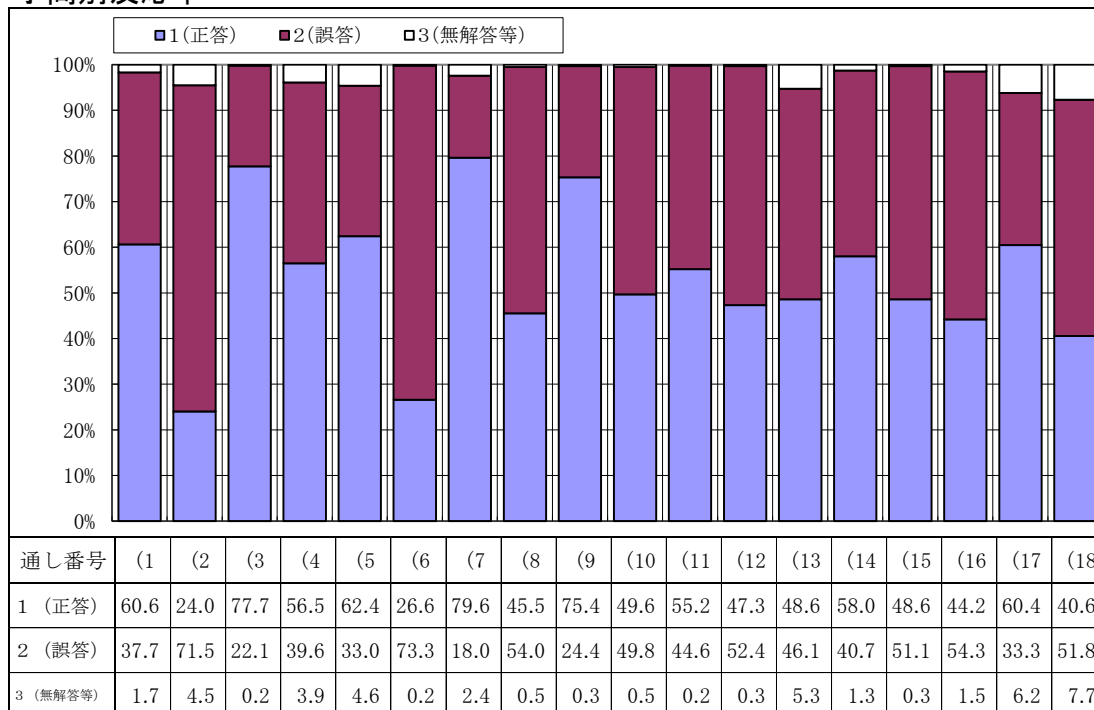
平均通過率 53.4%

通し 番号	出 題 内 容	通過率 (%)	設 定 通過率 (%)	0% 100%
(1)	四則の混じった式の計算	60.6	80.0	
(2)	文字を用いた式	24.0	70.0	
(3)	等しい比	77.7	75.0	
(4)	数量の関係	56.5	65.0	
(5)	分子が一次式である分数の方程式	62.4	70.0	
(6)	数の集合と四則計算の可能性	26.6	65.0	
(7)	素因数分解	79.6	70.0	
(8)	円柱の体積	45.5	65.0	
(9)	文字を用いた式の読み取り	75.4	75.0	
(1 0)	円の面積	49.6	75.0	
(1 1)	長さを表す文字を用いた式の解釈	55.2	75.0	
(1 2)	比例の利用	47.3	80.0	
(1 3)	一次方程式の解	48.6	65.0	
(1 4)	起こり得る場合の数	58.0	65.0	
(1 5)	一次式と数の除法の計算	48.6	65.0	
(1 6)	代表値 (中央値)	44.2	70.0	
(1 7)	拡大図のかき方	60.4	60.0	
(1 8)	文字式の利用	40.6	70.0	

※「—」は設定通過率±10%を示している。

中学校 1 年 数学

小問別反応率



小問別通過率度数分布表 (110校)

は県平均通過率

通し番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	平均 通過率
100%	1		3	3	3		8		4		2		1			2	3	1	
90%～100%	1	1	11	2	3		21		4		1				1		2		
80%～90%	6		30	3	9		36	5	26	5	3	2	3	6	1	2	8	3	2
70%～80%	13	1	45	6	19		26	4	45	2	6	3	2	10	8	4	17	4	1
60%～70%	34		19	25	29	1	14	11	24	11	27	9	12	27	18	9	35	2	14
50%～60%	27	2	1	38	30	2	4	24	5	28	35	29	27	45	23	12	28	14	56
40%～50%	21	6		25	12	9		28	1	45	22	40	39	16	31	28	7	29	35
30%～40%	5	14		7	5	19		19		13	12	18	17	2	20	34	5	34	1
20%～30%		37				38	1	12		3	1	5	8	1	5	13	2	19	1
10%～20%	1	35				36		5		1				1	1	4	2	2	
0%～10%	1	14	1	1		5		2	1	2	1	4	1	2	2	2	1	2	

中学校 1 年 数学 調査結果の考察

1 設定通過率との比較

※表中の数値は設問数

分類 設定通過率の	観 点 別		領 域 別				計
	知識・技能	思考・判断・表現	数と式 数と計算	図形	関数 変化と関係	データの活用	
+10% より高い	0	0	0	0	0	0	0
±10% の範囲内	6	1	4	1	1	1	7
-10% より低い	6	5	7	2	1	1	11
計	12	6	11	3	2	2	18

2 考察

(1) 全体について

- ①18問中11問が設定通過率の「-10%より低い」であり、学習内容の定着状況に課題が見られる。
- ②観点別では、「思考・判断・表現」において設定通過率の「-10%より低い」設問が6問中5問あり、課題が見られる。

(2) 成果

- ①自然数を素数の積に表すことについて、昨年度と比べて通過率の上昇が見られ、改善が図られている。
- ②分子に項が二つある一次式の計算や方程式の解についての設問では、どちらも昨年度と比べて通過率の上昇が見られ、改善が図られている。

(3) 課題

- ①数の集合と四則計算の可能性を理解することについて、課題が見られる。
- ②比例の関係を用いて答えを求めるために必要な数量を見いだすことについて、課題が見られる。

3 今後の指導

数の範囲の拡張に伴って数の集合を捉え直したり、その集合における四則計算の可能性を判断したりする学習活動の充実を図る。

〔参考 通し番号(6)〕 平均通過率26.6%
(設定通過率65%)

a と b が正の数のとき、次のア～エのうち、計算の結果がいつでも正の数になる式はどれですか。正しいものをすべて選んで、その記号を書きなさい。

- ア $a+b$
イ $a-b$
ウ $a \times b$
エ $a \div b$

- ・整数や自然数等の数の集合について、ベン図に表したり、具体的な数値を仲間分けしたりする活動を通して、演算の可能性を正しく捉えることができるようにする。
- ・本設問の a 、 b に数を代入して計算した結果は、正の数だが整数でない場合や、整数だが正の数でない場合など様々な値になることが考えられる。一組の数値で確かめるのに止まらず、様々な正の数を代入して四則計算を行い、その結果の特徴を的確に捉えて、計算の可能性について考察する場面を設定することが大切である。

日常生活の問題解決のために、必要な数量を見いだす学習活動の充実を図る。

〔参考 通し番号(12)〕 平均通過率47.3%
(設定通過率80%)

同じ画用紙がたくさんあります。けんとは、画用紙が全部で何枚あるかを調べる方法を、次のように説明しました。〔けんさんの説明〕が正しくなるように、Aにあてはまるものを、下のア～エから1つ選んで、その記号を書きなさい。

〔けんさんの説明〕

全部の画用紙の枚数を数える代わりに、枚数が変わると、それにともなって変わる数量に着目して調べます。画用紙の重さは枚数に比例すると考えると、画用紙10枚の重さと、Aを調べれば、画用紙全部のおよその枚数を求めることができます。

- ア 画用紙全部の重さ
イ 画用紙10枚の厚さ
ウ 画用紙全部の厚さ
エ 画用紙1枚の重さ



けんさん

- ・日常生活の中である数量を調べる際に、それと関係のある数量を見だし、問題解決に利用することができるようにする。
- ・具体的な事象の中から取り出した二つの数量の変化や対応を調べることを通して、比例や反比例の関数関係の有無を見いだすことができるようにする。
- ・本設問にあるように他の数量を提示するなどして、生徒が必要な数量を選択したり、問題解決の方法を説明したりする場面を設定し、見いだした数量が適切かどうかを考察することができるようにする。

令和3年度秋田県学習状況調査 中学校第2学年 数学 評価規準と評価の観点

学 年	領 域	内 容	評 価 規 準	通 し 番 号	観 点	
					知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現
中 学 校 第 1 学 年	A 数 と 式	(1)ア※	・自然数を素数の積に表すことができる。	(2)	○	
		(2)ア(ウ)	・一次式と数の除法の計算ができる。	(1)	○	
		(2)ア(エ)	・事象の中にある数量の関係を、等式で表すことができる。	(13)	○	
		(3)イ※	・具体的事象の中の数量の関係を捉え、比例式で表すことができる。	(16)		○
	B 図 形	(1)ア(ア)	・角の二等分線を作図することができる。	(12)	○	
		(1)ア(イ)	・対称移動について理解している。	(6)	○	
		(2)ア(イ)	・柱体と錐体の体積の関係を理解している。	(8)	○	
	C 関 数	(1)ア(エ)	・反比例の関係を表に表すことができる。	(10)	○	
	D デ ー タ の 活 用	(1)ア(ア)	・累積度数と累積相対度数を求めることができる。	(15)	○	
		(1)イ(ア)	・度数折れ線（度数分布多角形）から資料の傾向を読み取り、説明することができる。	(18)		○
中 学 校 第 2 学 年	A 数 と 式	(1)ア(ア)	・分数を含む多項式の減法について、その計算の仕方を理解している。	(14)	○	
		(1)ア(エ)	・等式を目的に応じて変形することができる。	(3)	○	
		(1)イ(イ)	・長方形の辺の長さの関係を捉え、等式の意味を事象に即して解釈することができる。	(7)		○
		(1)イ(イ)	・整数の性質について、文字を使った式を用いて説明することができる。	(17)		○
		(2)イ(イ)	・具体的な事象において、数量の関係を捉えて連立方程式をつくることができる。	(4)		○
	C 関 数	(1)ア(ア)	・与えられた条件から一次関数の式を求めることができる。	(5)	○	
			・一次関数のグラフの傾きと切片の意味を理解している。	(9)	○	

前学年までの評価規準と評価の観点については、中学校学習指導要領（平成29年告示）に基づき作成している。

※の問題は、「内容の取扱い」から出題している。

中学校 2年 数学 小問別通過率と設定通過率

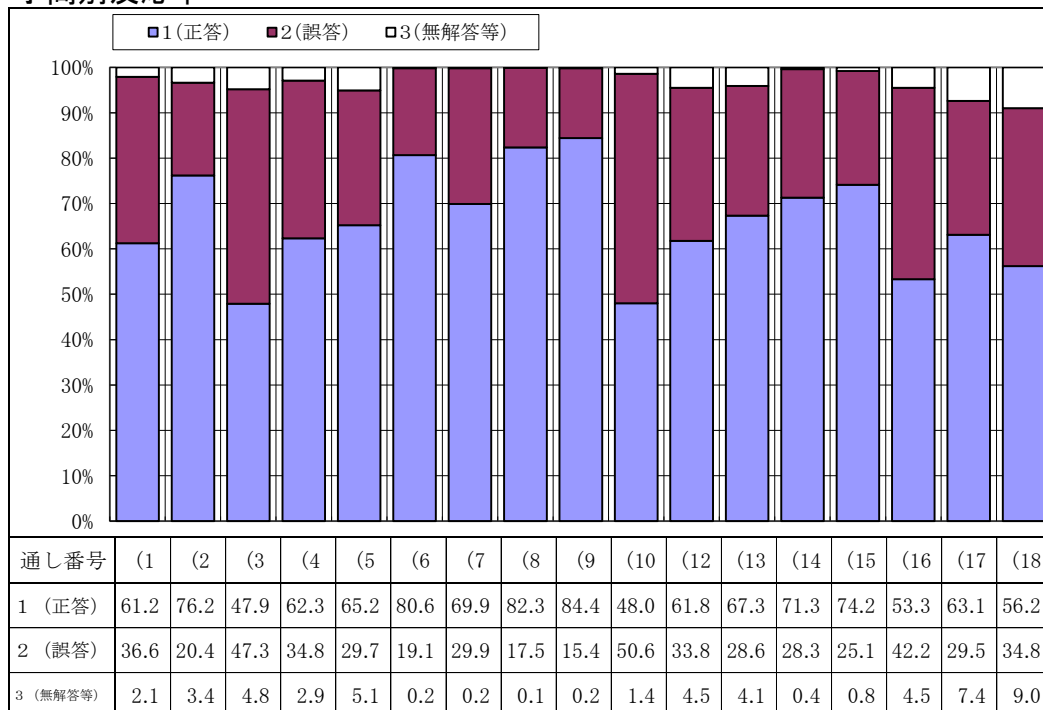
平均通過率 66.2%

通し 番号	出 題 内 容	通過率 (%)	設 定 通過率 (%)	0%100%
(1)	一次式と数の除法	61.2	75.0	
(2)	素因数分解	76.2	75.0	
(3)	等式の変形	47.9	65.0	
(4)	連立方程式の立式	62.3	65.0	
(5)	一次関数の式	65.2	65.0	
(6)	図形の対称移動	80.6	80.0	
(7)	長さの関係を表す等式の解釈	69.9	75.0	
(8)	円錐の体積	82.3	80.0	
(9)	一次関数のグラフ	84.4	80.0	
(1 0)	反比例の表	48.0	65.0	
(1 2)	作図	61.8	70.0	
(1 3)	数量の関係	67.3	70.0	
(1 4)	分数を含む文字式の計算	71.3	75.0	
(1 5)	累積度数	74.2	70.0	
(1 6)	比例式	53.3	65.0	
(1 7)	文字を用いた説明	63.1	60.0	
(1 8)	資料の傾向	56.2	60.0	

※ ——— は設定通過率±10%を示している。

中学校 2年 数学

小問別反応率



小問別通過率度数分布表 (112校)

は県平均通過率

通し番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	平均通過率
100%	1	1		3	2	6	1	12	5		7	4	3	4	1	3	1	
90%～100%	2	11	1	2	5	13	6	21	24		4	1	12	4		1	4	2
80%～90%	11	33	5	6	11	53	21	45	52	3	11	6	24	25	3	9	20	4
70%～80%	14	40	3	20	30	29	33	23	27	7	16	31	32	38	7	15	15	25
60%～70%	35	19	18	35	33	8	34	8	4	15	32	40	23	32	20	35	12	58
50%～60%	35	4	25	27	17	3	11	1		32	23	27	11	8	37	37	20	23
40%～50%	10	2	28	15	9		4	2		21	11	1	5	1	33	10	8	
30%～40%	3	2	21	2	3		1			25	6	2	2		8	2	17	
20%～30%			7	1	1					7	2				1		10	
10%～20%	1		2		1		1			2					1		5	
0%～10%			2	1											1			

中学校 2 年 数学 調査結果の考察

1 設定通過率との比較

※表中の数値は設問数

分類	観 点 別		領 域 別				計
	知識・技能	思考・判断・表現	数と式	図形	関数	データの活用	
+10% より高い	0	0	0	0	0	0	0
±10% の範囲内	9	4	6	3	2	2	13
-10% より低い	3	1	3	0	1	0	4
計	12	5	9	3	3	2	17

2 考察

(1) 全体について

- ①17問中13問が、設定通過率の「±10%の範囲内」であり、学習内容の定着状況はおおむね良好である。
- ②領域別では、「数と式」において設定通過率の「-10%より低い」設問が9問中3問あり、課題が見られる。

(2) 成果

- ①自然数を素数の積に表すことについて、昨年度と比べて通過率の上昇が見られ、改善が図られている。
- ②図形の対称移動について、昨年度と比べて通過率の上昇が見られ、改善が図られている。

(3) 課題

- ①等式を目的に応じて変形することについて、課題が見られる。
- ②反比例の関係を表に表すことについて、課題が見られる。

3 今後の指導

具体的な場面で、目的に合うように式を変形することのよさを実感できる学習の充実を図る。

〔参考 通し番号(3)〕 平均通過率47.9%

(設定通過率65%)

等式 $\frac{1}{2}ah = 8$ を h について解きなさい。

- ・関係を表す式を目的に合うように変形する際に、例えば、三角形の面積の公式 $S = \frac{1}{2}ah$ から、底辺 a を求める式に変形させるなど、具体的な場面で目的に合うように式を変形することのよさを実感できる学習を充実させることが大切である。
- ・等式の性質を用いる際には、移項すればよいのか、係数を1にするために両辺に同じ数を乗除すればよいのかを正しく判断できるようにするために、等式の性質を選択した理由を説明する活動を取り入れることが必要である。

表を横や縦に見て、値の変化と対応を捉える見方を大切にした学習の充実を図る。

〔参考 通し番号(10)〕 平均通過率48.0%

(設定通過率65%)

次の表は、 y が x に反比例する関係を表しています。Aにあてはまる数を書きなさい。

x	...	-6	-2	...
y	...	4	A	...

- ・反比例の関係を表に表すことができるようにするために、表を横に見て「値の変化」を捉える見方だけではなく、表を縦に見て「値の対応」を捉える見方も大切にして、反比例の関係についての理解を一層深めさせる。
- ・表をつくる活動を大切にして、 x の変域を負の数にまで拡張しても、また、比例定数が負の数の場合でも、正の数の場合と同じ性質が成り立つことを考察できるようにすることが大切である。
- ・反比例の表に表される数量の値は離散的であるため、反比例の関係を連続的かつ全体的に把握して理解を深めるためにグラフを用いるなど、表、式、グラフを相互に関連付けて考察する活動を取り入れることが必要である。

4 結果と考察 (4)理科

令和3年度秋田県学習状況調査 小学校第4学年 理科 評価規準と評価の観点

学 年	区 分	内 容	評 価 規 準	通 し 番 号	観 点	
					知識 ・ 技能	思考 ・ 判断 ・ 表現
第 3 学 年	A	(3)ア (ウ)	・音が伝わる時、物が震えることを理解している。	(1)	○	
		(3)イ	・物体の震えと音が伝わることを関係付けて考察し、表現している。	(2)		○
		(1)ア (ア)	・物は形が変わっても重さが変わらないことを理解している。	(6)	○	
	B	(1)イ	・さまざまな昆虫の様子と周辺の環境を関係付けて考察し表現している。	(3)		○
		(1)ア (ウ)	・植物の育ち方には、一定の順序があることを理解している。	(4)	○	
		(2)イ	・太陽の位置の変化と地面にできる影の位置の変化を関係付けて考察し、表現している。	(5)		○
第 4 学 年	A	(3)ア (ア)	・乾電池の向きによって、回路を流れる電流の向きが変化することを理解している。	(7)	○	
		(3)イ	・電池のつなぎ方とモーターの回転する量を関係付けて考え、表現している。	(8)		○
	B	(1)イ	・人の体の動きと筋肉の働きを関係付けて考え、表現している。	(9)		○
		(3)イ	・水のしみ込み方と土の粒の大きさを関係付けて考察し、表現している。	(10)		○
		(5)ア (ア)	・方位磁針の操作に関する技能を身に付けている。	(11)	○	
		(5)ア (イ)	・空には明るさや色の違う星があることを理解している。	(12)	○	

・区分欄のAは「物質・エネルギー」を、区分欄のBは「生命・地球」を示している。

小学校 4年 理科 小問別通過率と設定通過率

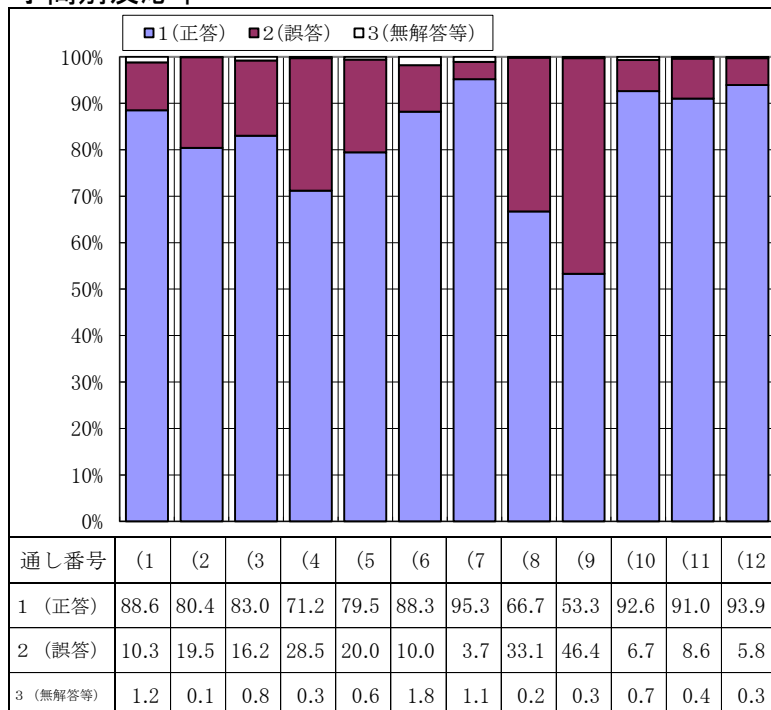
平均通過率 82.0%

通し 番号	出 題 内 容	通過率 (%)	設 定 通過率 (%)	0% 100%
(1)	音が伝わることと物の震え	88.6	70.0	
(2)	音の伝わりと物の震えの関係	80.4	70.0	
(3)	昆虫の住みか	83.0	70.0	
(4)	ハウセンカの育ち方	71.2	80.0	
(5)	地面にできる影の動き方	79.5	70.0	
(6)	物の形と重さ	88.3	80.0	
(7)	乾電池の向きと電流の向きの関係	95.3	80.0	
(8)	乾電池のつなぎ方と電流	66.7	60.0	
(9)	筋肉の動き	53.3	70.0	
(10)	土の粒の大きさと水のしみ込み方の関係	92.6	80.0	
(11)	方位磁針の使い方	91.0	90.0	
(12)	星の明るさや色	93.9	80.0	

※ — は設定通過率±10%を示している。

小学校 4年 理科

小問別反応率



小問別通過率度数分布表 (182校)

は県平均通過率

通し番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	平均 通過率
100%	35	18	27	7	16	46	75	8	2	71	44	56	
90%～100%	63	39	47	9	43	64	88	8	4	71	78	92	27
80%～90%	58	50	54	38	54	47	16	28	8	31	49	31	103
70%～80%	22	42	31	41	36	17	1	39	18	8	10	2	48
60%～70%	4	24	16	59	24	8	1	44	37			1	4
50%～60%		8	6	22	9			37	44	1	1		
40%～50%		1	1	4				11	41				
30%～40%				1				5	26				
20%～30%								1	1				
10%～20%								1					
0%～10%				1			1		1				

小学校 4 年 理科 調査結果の考察

1 設定通過率との比較

※表中の数値は設問数

分類 設定通過率の	観 点 別		内 容 区 分 別		計
	知識・技能	思考・判断・表現	物質・エネルギー	生命・地球	
+10%より高い	3	3	3	3	6
±10%の範囲内	3	2	2	3	5
-10%より低い	0	1	0	1	1
計	6	6	5	7	12

2 考察

(1) 全体について

12問中11問が設定通過率の「+10%より高い」又は「±10%の範囲内」であり、学習内容の定着状況はおおむね良好である。

(2) 成果

①「知識・技能」に関する設問は、通過率の平均が88.1であり、良好な状況である。また、課題であった類似問題の通し番号(5「地面にできる影の動き方」)では、通過率が昨年度と比較して21.6ポイント上昇し、改善が図られている。

②「物質・エネルギー」に関する設問は、通過率の平均が83.9で、全ての設問が設定通過率の「+10%より高い」又は「±10%の範囲内」であり、定着が図られている。小学校学習指導要領(平成29年告示)で新規に追加された内容である通し番号(1「音が伝わることと物の震え」や通し番号(2「音の伝わりと物の震えの関係」)についても、定着が図られている。

(3) 課題

①植物の育ち方には、一定の順序があることを理解することについて、課題が見られる。

②人の体の動きと筋肉の働きを関係付けて考察し、表現することについて、継続して課題が見られる。

3 今後の指導

観察、実験の結果について、着目する視点を基に考察し表現する活動を工夫する。

- ・考察の場面では、観察、実験の結果における差異点や共通点等、着目する視点を基に考察し、表現させることが大切である。また、個で考えたことを全体で共有させることで、学習のねらいに迫っていけるように働き掛けることも大切である。全体で共有させる場面では、児童の考えを引き出したり深めさせたりする問い返しや揺さぶりなどの発問を準備しておくなどの工夫が考えられる。
- ・通し番号(4「ハウセンカの育ち方」)のような長期間にわたる観察では、植物の葉の大きさや枚数、茎の長さなど着目する視点に基づいた継続的な観察を行わせることが大切である。また、観察の結果は、観察時に着目した視点に基づいて整理させ、植物の育ち方や体のつくりの特徴を捉えることができるようにすることも大切である。結果を整理する際は、例えば、ICTを活用して植物の画像を撮影し、撮影した画像を、植物の種類や時系列による成長の過程で比較できるように並べるといった方法が考えられる。

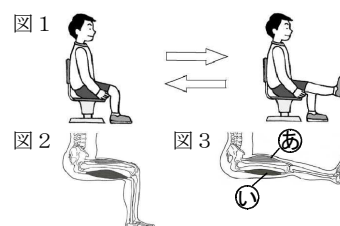
獲得した知識を活用して、別の事物・現象や日常生活に当てはめて考えたり、説明したりする活動を充実させる。

- ・理科の学習の有用性を実感させるために、既習の内容を別の事物・現象や日常生活との関わりの中で捉え直し、習得した知識や技能を使って考えたり説明したりする活動が大切である。
- ・通し番号(9「筋肉の働き」)については、例えば、「人の体は、骨についている筋肉が縮んだりゆるんだりすることによって動く」という学習の内容を、腕以外の筋肉や他の動物(身近で安全な哺乳類等)に当てはめて考えたり、説明したりする活動が考えられる。そのためには、筋肉に見立てた模型や、筋肉の動きが読み取れる映像を活用することも考えられる。

【参考 通し番号(9)】

ひろしさんは、図1のように、いすに座って、足を曲げたり、のばしたりして、足のきん肉のようすを考えました。図2は、足を曲げているときのきん肉のようすを、図3は、足をのばしているときのきん肉のようすをそれぞれ表しています。図3のように足をのばすとき、㊦と㊩のきん肉は図2のときとくらべてどのようになっていますか。下のア～エから1つ選んで、□の中に記号を書きなさい。

- ア ㊦のきん肉はゆるみ、㊩のきん肉もゆるんでいる。
 イ ㊦のきん肉はゆるみ、㊩のきん肉はちぢんでいる。
 ウ ㊦のきん肉はちぢみ、㊩のきん肉はゆるんでいる。
 エ ㊦のきん肉はちぢみ、㊩のきん肉もちぢんでいる。



令和3年度秋田県学習状況調査 小学校第5学年 理科 評価規準と評価の観点

学 年	区 分	内 容	評 価 規 準	通し 番号	観 点	
					知識 ・ 技能	思考 ・ 判断 ・ 表現
第 4 学 年	B 生 命 ・ 地 球	(5)ア (7)	・方位磁針の操作に関する技能を身に付けている。	(1)	○	
		(5)ア (7)	・地球から見た月は、東から南、西へと位置が変わることを理解している。	(2)	○	
		(2)ア (4)	・季節による動物の活動や植物の成長の様子を理解している。	(3)	○	
		(2)イ	・身近な植物の成長と気温の変化を関係付けて考察し、表現している。	(4)		○
	A 物 質 ・ エ ネ ル ギ ー	(1)イ	・閉じ込めた空気を圧したときの体積と手ごたえの関係を考察し、表現している。	(5)		○
		(1)イ	・閉じ込められた水の性質を、日常生活と関連付けて考え、表現している。	(6)		○
		(2)ア (7)	・温度計の読み方に関する技能を身に付けている。	(7)	○	
		(2)イ	・水が全て氷になるまでの時間をグラフから読み取り、表現している。	(8)		○
		(2)イ	・金属の温まり方の規則性を別の事象へ適用して考え、表現している。	(9)		○
		(2)イ	・空気の動き方に着目し、部屋全体を温めるために送風機を用いる理由を考え、表現している。	(10)		○
第 5 学 年	B 生 命 ・ 地 球	(4)ア (7)	・天気の見分け方は、雲量によって決まることを理解している。	(11)	○	
		(4)イ	・特定の地点の天気の変化について、数日間の雲画像を基に考察し、表現している。	(12)		○
		(4)ア (4)	・雲の動きと天気の変化の関係を理解している。	(13)	○	
		(1)イ	・種子の発芽に関わる条件を考察し、表現している。	(14)		○
		(1)ア (7)	・でんぷんの有無を調べる方法を理解している。	(15)	○	
		(2)ア (7)	・メダカの卵の変化の様子を理解している。	(16)	○	
		(2)イ	・卵からかえったメダカのはらのふくらみが小さくなる理由を考え、表現している。	(17)		○
		(2)ア (7)	・メダカの雄の体の特徴を理解している。	(18)	○	

小学校 5年 理科 小問別通過率と設定通過率

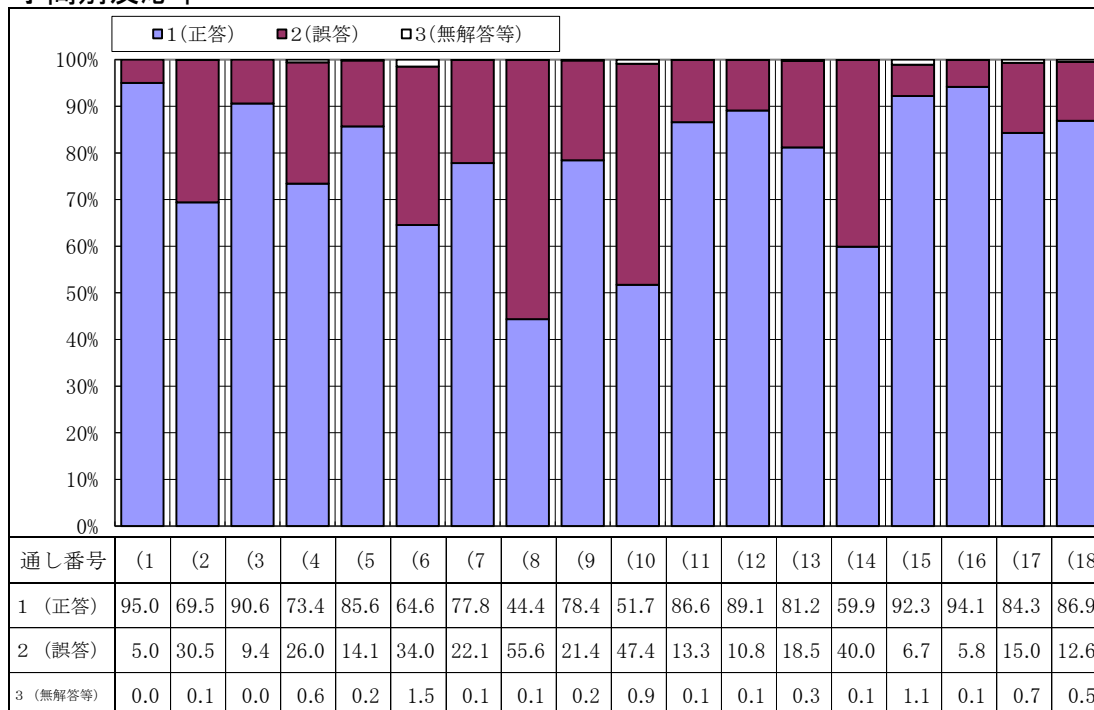
平均通過率 78.1%

通し 番号	出 題 内 容	通過率 (%)	設 定 通過率 (%)	0% 100%
(1)	方位磁針の使い方	95.0	90.0	
(2)	地球から見た月の位置	69.5	70.0	
(3)	季節ごとの動物や植物の成長の違い	90.6	70.0	
(4)	植物の成長と気温の変化の関係	73.4	70.0	
(5)	閉じ込めた空気の体積と手ごたえ	85.6	70.0	
(6)	閉じ込められた水の性質の利用	64.6	70.0	
(7)	温度計の読み方	77.8	70.0	
(8)	水が凍ったときの温度変化	44.4	60.0	
(9)	金属の温まり方	78.4	70.0	
(10)	空気の温まり方	51.7	60.0	
(11)	天気と雲量	86.6	80.0	
(12)	雲の量と天気の関係	89.1	70.0	
(13)	日本の天気の規則性	81.2	80.0	
(14)	インゲンマメの種子の発芽に必要な条件	59.9	70.0	
(15)	でんぷんの存在を調べる方法	92.3	80.0	
(16)	メダカの卵が変化する順番	94.1	90.0	
(17)	メダカの卵の中にある養分	84.3	70.0	
(18)	メダカの雌雄の見分け方	86.9	80.0	

※ ——— は設定通過率±10%を示している。

小学校 5年 理科

小問別反応率



小問別通過率度数分布表 (183校)

は県平均通過率

通し番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	平均通過率
100%	73	6	41	15	38	6	14	1	15	4	27	35	29	4	60	58	40	50	
90%～100%	89	13	77	19	48	9	18	3	14	2	48	60	31	2	78	97	57	58	9
80%～90%	18	36	53	46	58	26	54	3	57	8	74	76	58	8	35	23	36	45	77
70%～80%	3	43	11	49	27	37	53	10	65	21	31	11	33	25	6	3	27	23	85
60%～70%		40		27	11	45	34	19	27	28	3	1	23	51	2	1	10	3	11
50%～60%		33		14	1	32	9	35	4	41			5	54	2	1	12	3	1
40%～50%		7		12		19	1	39	1	35			3	20			1	1	
30%～40%		4	1	1		5		39		37			1	16					
20%～30%		1				2		25		7				2					
10%～20%						2		8											
0%～10%								1						1					

小学校 5 年 理科 調査結果の考察

1 設定通過率との比較

※表中の数値は設問数

分類 設定通過率の	観 点 別		内 容 区 分 別		計
	知識・技能	思考・判断・表現	物質・エネルギー	生命・地球	
+10%より高い	2	3	1	4	5
±10%の範囲内	7	4	4	7	11
-10%より低い	0	2	1	1	2
計	9	9	6	12	18

2 考察

(1) 全体について

18問中16問が設定通過率の「+10%より高い」又は「±10%の範囲内」であり、学習内容の定着状況はおおむね良好である。

(2) 成果

①類似問題については、通し番号(5「閉じ込めた空気の体積と手ごたえ」)に関する設問の通過率が、昨年度と比較し17.7ポイント上昇し、通し番号(15「でんぷんの存在を調べる方法」)に関する設問の通過率が、昨年度と比較し11.9ポイント上昇した。

②「生命・地球」の内容に関する設問は、通過率の平均が83.6で、12問中11問が設定通過率の「+10%より高い」又は「±10%の範囲内」であり、定着が図られている。

(3) 課題

①水が全て氷になるまでの時間をグラフから読み取り、表現することについて、課題が見られる。

②種子の発芽に関係する条件を考察し、表現することについて、課題が見られる。

3 今後の指導

観察、実験の結果をグラフで表し、自然の事物・現象に当てはめて説明する活動を充実させる。

- 観察、実験の結果をグラフで表し、そのグラフの特徴と自然の事物・現象を関係付けて考察できるようにする。例えば、ICT端末を使って、観察、実験の対象となるものの変化を録画・再生し、グラフの変化の特徴と対応させながら説明させるなどの工夫が考えられる。
- 通し番号(8)については、例えば、グラフにおける特徴的な部分と試験管の中の水の状態に着目させ、「グラフが平らになっているとき、水はどのような状態か」などと発問し、温度と水の状態を関係付けて考えたり、説明したりするなどの活動を取り入れることが考えられる。

【参考 通し番号(8)】

図1のように、試験管の中の水が氷になるときの温度について調べました。図2は、このときの温度の変わり方をグラフで表したものです。

図1

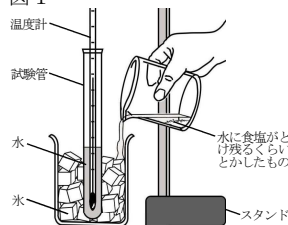
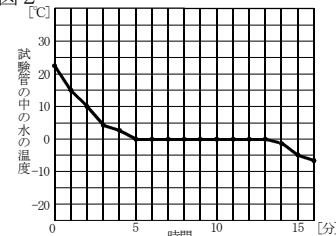


図2



(2) 試験管の中の水がすべて氷に変わったのは、調べはじめてから何分～何分の間ですか。最も適切なものを次のア～オから1つ選んで、□の中に記号を書きなさい。

- ア 1分～2分の間 イ 4分～5分の間 ウ 8分～9分の間
エ 13分～14分の間 オ 15分～16分の間

予想や仮説を基に、条件を制御した観察、実験の方法を立案する活動を充実させる。

- 問題解決の活動の充実を図るために、「○○のような観察、実験をすれば、□□という結果になるだろう」と観察、実験の結果についての見通しをもたせながら、予想や仮説を表現する活動を取り入れることが大切である。
- 意図的に変えた条件とそれによって変わる観察、実験の結果を表に整理し、何と何を比べるとどのようなことがいえるのかをペアやグループ、全体で話し合わせることは、内容の妥当性について考察を深めていくとともに、内容の確実な理解につながっていく。
- 通し番号(14)については、例えば、種子の発芽に関係していると考えられる条件をいくつか挙げさせ、その条件を制御するための方法を立案した上で、実験を行わせることが考えられる。そして、種子の発芽について調べた方法と調べた結果を照らし合わせて考察を行わせ、その考察の内容が妥当かどうかを検討させる活動を取り入れることで、問題解決の活動が充実していく。

令和3年度秋田県学習状況調査 小学校第6学年 理科 評価規準と評価の観点

学 年	区 分	内 容	評 価 規 準	通 し 番 号	観 点	
					知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現
第 5 学 年	A 物質・エネルギー	(3)ア (イ)	・電磁石の強さを調べる実験において、条件制御の考え方を理解している。	(3)	○	
		(3)イ	・電磁石の性質と身の回りでの利用を関連付けて考え、表現している。	(4)		○
		(1)ア (イ)	・メスシリンダーの目盛りの読み方に関する技能を身に付けている。	(7)	○	
		(1)イ	・一定量の物を溶かすための水の温度や水の量を考え、表現している。	(8)		○
		(2)イ	・ふりこが1往復する時間とその条件を関係付けて考え、解決の方法を発想し、表現している。	(9)		○
	B 生命・地球	(4)ア (イ)	・台風が日本の南の海上で発生することを理解している。	(1)	○	
		(4)イ	・台風と降雨の関係を考察し、表現している。	(2)		○
		(3)ア (ア)	・川の曲がっている部分を流れる水の働きと土地の変化について理解している。	(5)	○	
		(3)イ	・川の上流と下流の様子を川原の石の特徴と関連付けて考察し、表現している。	(6)		○
第 6 学 年	A	(1)ア (ア)	・気体の捕集に関する技能を身に付けている。	(10)	○	
		(1)ア (ア)	・酸素には物を燃やす働きがあることを理解している。	(11)	○	
		(1)イ	・物が燃える現象を空気の動きと関連付けて考え、表現している。	(12)		○
	B 生命・地球	(1)ア (イ)	・でんぷんの有無を調べる方法を理解している。	(13)	○	
		(1)イ	・実験の結果を基に、でんぷんに対するだ液の働きについて考察し、表現している。	(14)		○
		(2)ア (イ)	・植物の根から吸い上げられた水は、植物の体内の決まった通り道を通ることを理解している。	(15)	○	
		(2)イ	・実験の結果を基に、植物の体内にある水の行方を考察し、表現している。	(16)		○
		(3)ア (イ)	・顕微鏡の操作に関する技能を身に付けている。	(17)	○	
		(3)イ	・生物の食う食われるという関係から、身近な生物同士の関わりを考え、表現している。	(18)		○

・区分欄の第6学年のAは「物質・エネルギー」を示している。

小学校 6年 理科 小問別通過率と設定通過率

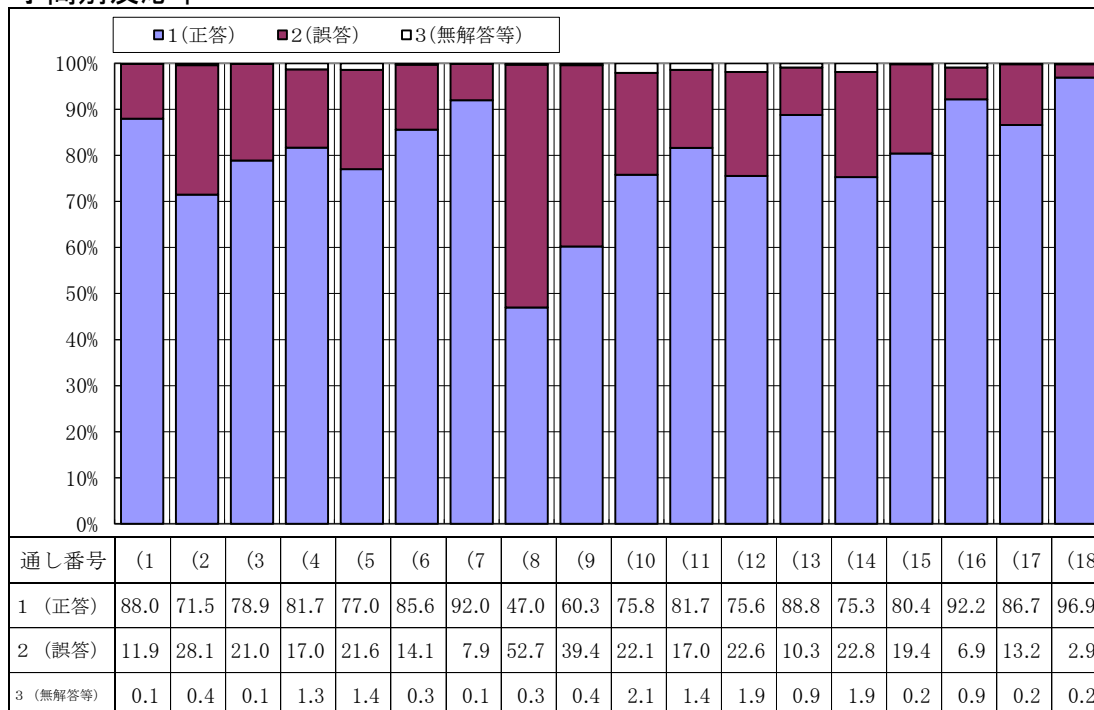
平均通過率 79.7%

通し 番号	出 題 内 容	通過率 (%)	設 定 通過率 (%)	0% 100%
(1)	台風の発生	88.0	80.0	
(2)	台風がもたらす降雨	71.5	70.0	
(3)	電磁石の強さを調べる実験の条件制御	78.9	70.0	
(4)	電磁石の性質	81.7	60.0	
(5)	川を流れる水の働き	77.0	70.0	
(6)	川の流れる場所による違い	85.6	70.0	
(7)	メスシリンダーの使い方	92.0	80.0	
(8)	一定量の物を溶かすための水の温度と水の量	47.0	60.0	
(9)	ふりこの長さとの関係	60.3	70.0	
(10)	気体の捕集方法	75.8	60.0	
(11)	酸素の働き	81.7	70.0	
(12)	物の燃え方と空気の動き方	75.6	70.0	
(13)	でんぷんの存在を調べる方法	88.8	80.0	
(14)	だ液の働き	75.3	70.0	
(15)	茎の中の水の通り道	80.4	70.0	
(16)	蒸散の仕組み	92.2	80.0	
(17)	顕微鏡の使い方	86.7	80.0	
(18)	食物連鎖の仕組み	96.9	90.0	

※ ——— は設定通過率±10%を示している。

小学校 6年 理科

小問別反応率



小問別通過率度数分布表 (184校)

は県平均通過率

通し番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	平均通過率
100%	30	23	9	22	15	33	44	1	3	21	18	18	40	22	22	58	34	97	
90%～100%	68	33	24	44	24	43	88	3		26	24	30	69	17	34	70	57	78	13
80%～90%	59	28	54	55	57	71	46	3	17	47	75	40	51	48	67	45	59	9	89
70%～80%	24	19	62	34	47	29	5	16	37	41	49	41	20	50	27	7	20		68
60%～70%	3	34	26	13	25	7		22	47	27	13	24	2	26	17	3	9		10
50%～60%		26	6	11	12	1	1	34	50	8	2	17		15	9		4		3
40%～50%		10	1	1	2			47	11	2		5	1	1	5				
30%～40%		6		1				28	10	5	1	4		2					
20%～30%		1						16	5	3		1							1
10%～20%		1						7	1			1							
0%～10%		3	2	3	2			7	3	4	2	3	1	3	3	1	1		

小学校 6 年 理科 調査結果の考察

1 設定通過率との比較

※表中の数値は設問数

分類 設定通過率の	観 点 別		内 容 区 分 別		計
	知識・技能	思考・判断・表現	物質・エネルギー	生命・地球	
10% より高い	4	3	4	3	7
10% の範囲内	5	5	3	7	10
10% より低い	0	1	1	0	1
計	9	9	8	10	18

2 考察

(1) 全体について

18問中17問が設定通過率の「+10%より高い」又は「±10%の範囲内」であり、学習内容の定着状況はおおむね良好である。

(2) 成果

- ①類似問題については、11問中9問で通過率が上昇し、指導の改善が図られている。特に、前年度の課題であった「気体の捕集方法」に関する設問の通過率は、昨年度と比較し38.1ポイント上昇した。
- ②「生命・地球」の内容に関する設問は、通過率の平均が84.2で、全ての設問が設定通過率の「+10%より高い」又は「±10%の範囲内」であり、学習内容の定着が図られている。

(3) 課題

- ①台風と降雨の関係を考察し、表現することについて、課題が見られる。
- ②物が燃える現象を空気の動きと関連付けて考え、表現することについて、課題が見られる。

3 今後の指導

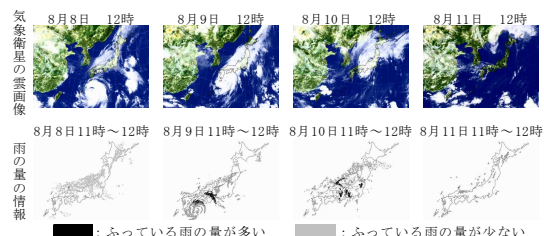
問題解決に必要な情報を収集し、規則性を見いだしたり科学的な根拠に基づいて表現したりする活動の充実を図る。

- ・自然の事物・現象を観察する活動が難しい場合には、問題解決に必要な情報は何かを考え、例えば、ICT端末を活用するなどして自分自身で収集した情報を基に意見交換するなど、主体的に探究を進められる授業を構想する。
- ・通し番号(2)については、例えば、天気の変化で学習した内容と関連付けて、台風の進路や降雨についての特徴を比較しながらまとめるなどの活動が考えられる。また、ICT端末を活用した授業を展開し、個人またはグループの記録を共有して、より妥当な考えをつくりだす活動が考えられる。

【参考 通し番号 (2)】

恵さんは、台風と雨のふり方にどのような関係があるか疑問に思い、4日間の気象衛星の雲画像と雨の量の情報を集め、図2のようにならべたものをもとに、下のように考えました。〔恵さんの考え〕が正しくなるように、①に当てはまる内容を、の中に書きなさい。

図2



〔恵さんの考え〕

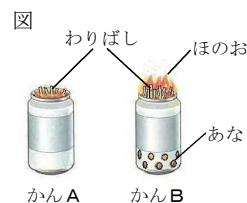
台風が近づくと、短い時間に ① ことが多いです。

学習を通して獲得した知識及び技能を他の場面に適用して考える活動の充実を図る。

- ・学習を通して獲得した知識及び技能を実際の自然や日常生活など他の場面に適用して考える活動を取り入れ、問題解決の活動自体の意義や価値を感じさせ、理科を学ぶことの意義や有用性の感得につなげていくことが大切である。
- ・通し番号(12)については、例えば、単元の導入で燃える様子を直接又は動画で比較できるように提示し、児童に気付いたことや疑問に思ったことを発言させる。その上で、問題解決の活動を通して獲得した知識及び技能を活用し、物が燃える現象を空気の動きと関連付けて説明する場面を設定するなどの学習の展開が考えられる。

【参考 通し番号 (12)】

図のように、かんの上の部分を切りとったかんAとBを準備し、かんBには下に小さなあなをあけ、それぞれのかんを使ってわりばしの燃えるようすを調べました。結果は、かんBのわりばしの方が、かんAのわりばしに比べてよく燃えました。かんBはかんAとちがって、どのように空気が流れるからですか。の中に書きなさい。



令和3年度秋田県学習状況調査 中学校第1学年 理科 評価規準と評価の観点

学 年	領 域 等	内 容	評 価 規 準	通 し 番 号	観 点	
					知識・技能	思考・判断・表現
小 学 校 第 6 学 年	B 生命・地球	(4)イ	・一方のがけの地層から，土地が広がりをもって分布していることを推論し，表現している。	(1)		○
		(4)ア (イ)	・火山の働きによってできる地層の特徴を理解している。	(2)	○	
		(5)イ	・月の形の見え方は，太陽と月の位置関係によって変わることを考察し，表現している。	(5)		○
		(5)ア (ア)	・月の光っている方向に太陽があることを理解している。	(6)	○	
	A 物質・エネルギー	(3)イ	・てこを傾ける働きについて，予想を確かめるための条件制御を考え，表現している。	(3)		○
		(3)ア (イ)	・てこを利用した道具の支点，力点，作用点の位置関係を理解している。	(4)	○	
		(2)ア (ウ)	・少量の液体を注ぐときに使う器具の名称と使い方を理解している。	(7)	○	
		(2)イ	・物質の性質について，複数の実験の結果を関連付けて考察し，表現している。	(8)		○
中 学 校 第 1 学 年	化 学 的 領 域	(2)ア (ア)㉔	・物質の密度を求める方法について理解している。	(9)	○	
		(2)ア (ア)㉔	・ガスバーナーを正しく操作する技能を身に付けている。	(10)	○	
		(2)イ	・溶解度の表を基に，硝酸カリウムが全てとける温度について考え，表現している。	(11)		○
		(2)イ	・水の温度の変化によって物質のとけ方が違うことについて考察し，表現している。	(12)		○
		(2)ア (ア)㉔	・気体の捕集に関する技能を身に付けている。	(13)	○	
		(2)イ	・線香の燃え方の違いについて，酸素の体積の割合を基に考察し，表現している。	(14)		○
	生 物 的 領 域	(1)イ	・生物を分類するための観点や基準を見だし，表現している。	(15)		○
		(1)ア (イ)㉔	・両生類の生活場所を理解している。	(16)	○	
		(1)ア (イ)㉔	・双子葉類と単子葉類の相違点を理解している。	(17)	○	
		(1)ア	・裸子植物，シダ植物，コケ植物の特徴を理解している。	(18)	○	

中学校 1 年 理科 小問別通過率と設定通過率

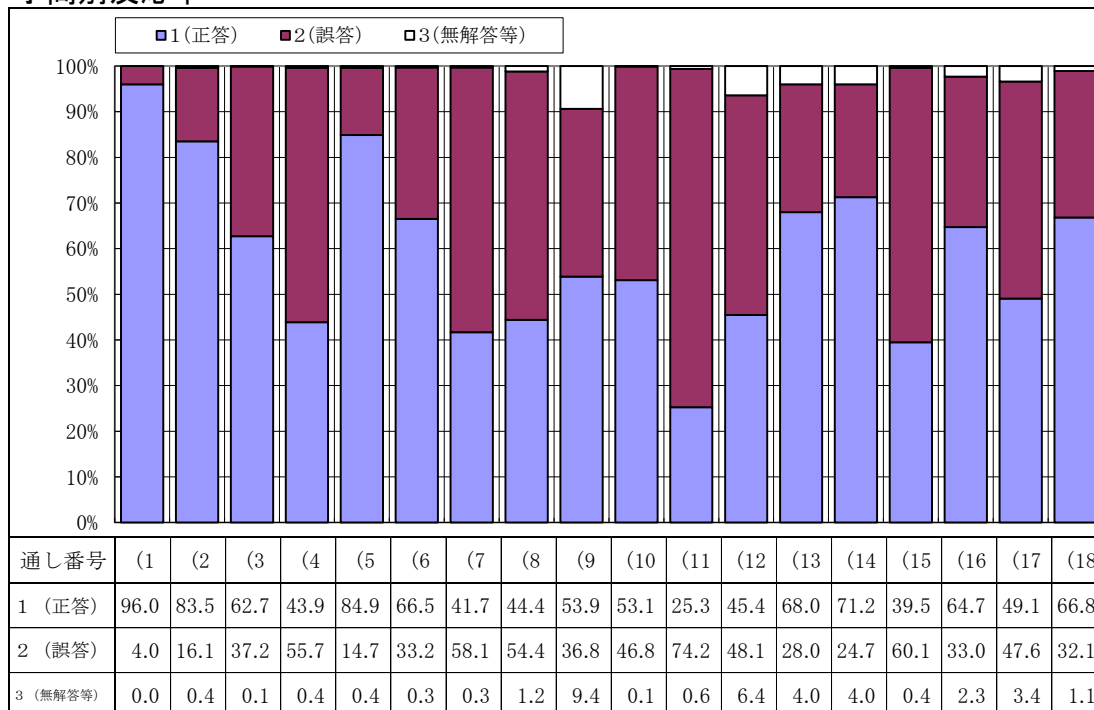
平均通過率 58.9%

通し 番号	出 題 内 容	通過率 (%)	設 定 通過率 (%)	0% 100%
(1)	地層の広がり	96.0	90.0	
(2)	地層のでき方	83.5	80.0	
(3)	てこを傾けるはたらきを調べるための条件制御	62.7	70.0	
(4)	てこを利用した道具	43.9	70.0	
(5)	月の形と、太陽と月の位置関係	84.9	70.0	
(6)	月の形と太陽の位置	66.5	70.0	
(7)	少量の液体を注ぐときに使う器具	41.7	80.0	
(8)	水溶液の性質や働き	44.4	70.0	
(9)	密度の求め方	53.9	60.0	
(1 0)	ガスバーナーの使い方	53.1	60.0	
(1 1)	物質が全てとける温度	25.3	60.0	
(1 2)	水の温度の変化による物質のとけ方	45.4	60.0	
(1 3)	気体の捕集方法	68.0	70.0	
(1 4)	酸素の性質	71.2	70.0	
(1 5)	生物の分類	39.5	70.0	
(1 6)	両生類の特徴	64.7	70.0	
(1 7)	双子葉類と単子葉類の特徴	49.1	70.0	
(1 8)	植物の分類	66.8	70.0	

※ ——— は設定通過率±10%を示している。

中学校 1 年 理科

小問別反応率



小問別通過率度数分布表 (110校)

は県平均通過率

通し番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	平均通過率
100%	28	4	2	1	6	2	1		3	2		1	3	8		3	1	3	
90%～100%	76	21			25		3					1	7	1		1	3	4	
80%～90%	6	50	3	2	52	9	5	1	4	5		3	20	24	1	15	4	10	
70%～80%		28	24	2	17	28	8	2	6	5		5	29	37	2	25	4	26	8
60%～70%		5	38	3	3	41	12	6	29	25	1	14	29	26	2	32	17	40	40
50%～60%		1	33	21	2	23	17	21	33	21	2	22	14	7	9	16	17	21	51
40%～50%			8	37		6	18	43	14	30	3	23	6	6	34	13	31	6	11
30%～40%			1	33			14	25	18	11	20	25	2	1	50	3	24		
20%～30%				9	2		13	6	2	6	49	3			10	2	6		
10%～20%				1	2		9	4		4	26	9					2		
0%～10%		1	1	1	1	1	10	2	1	1	9	4			2		1		

中学校 1 年 理科 調査結果の考察

1 設定通過率との比較

※表中の数値は設問数

分類 設定通過率の	観 点 別		内 容 区 分 別 ・ 領 域 別				計
	知識・技能	思考・判断・表現	物質・エネルギー	生命・地球	化学	生物	
+10% より高い	0	1	0	1	0	0	1
±10% の範囲内	7	3	1	3	4	2	10
-10% より低い	3	4	3	0	2	2	7
計	10	8	4	4	6	4	18

2 考察

(1) 全体について

- ①18問中7問が設定通過率の「-10%より低い」であり、学習内容の定着状況は十分とは言えない。
- ②小学校第6学年の学習内容に関する設問の通過率の平均は65.5であり、学習内容の定着状況はおおむね良好である。中学校第1学年の学習内容に関する設問の通過率の平均は53.7であり、学習内容の定着状況は十分とは言えない。

(2) 成果

- ①類似問題については、4問中3問で通過率が上昇している。特に、「酸素の性質」に関する設問の通過率が昨年度より11.4ポイント上昇し、指導の改善が図られている。
- ②昨年度小学校第6学年で出題された「気体の捕集方法」に関して経年変化で見ると、30.1ポイント上昇し、指導の改善が図られている。

(3) 課題

- ①溶解度の表を基に、硝酸カリウムが全てとける温度について考え、表現することについて、課題が見られる。
- ②生物を分類するための観点や基準を見だし、表現することについて、課題が見られる。

3 今後の指導

観察、実験の結果から見いだした規則性を活用する活動を意図的に取り入れる。

- ・課題に対して、既習の内容や生活経験を基に予想や仮説を立てる場面を設定することが大切である。
- ・観察、実験の結果を一覧にして提示するとともに、生徒が課題及び仮説と対応した考察を行えるよう、探究の過程の振り返りにもつながる視点を与えることが大切である。
- ・通し番号(11)の設問の内容については、例えば、溶解度曲線についての知識を実験の結果と関連付けて考える場面を設定し、実験の結果との整合について検討したり、実験の際に析出していた結晶の質量を推測したりする活動を取り入れることが考えられる。

【参考 通し番号(11) 表

物質	水の温度 [°C]				
	20	30	40	50	60
塩化ナトリウム	37.8	38.0	38.3	38.7	39.0
硝酸カリウム	31.6	45.6	63.9	85.2	109.2

溶解度は、ある物質を100 gの水にとかして飽和水溶液にしたときの、とけた物質の質量[g]である。

- (2) 試験管Bの硝酸カリウムがすべてとけたのは、水の温度が何°Cのときですか、次のア～オから最も適切なものを1つ選んで、記号を書きなさい。
 ア 水の温度が20°C～30°Cの間
 イ 水の温度が30°C～40°Cの間
 ウ 水の温度が40°C～50°Cの間
 エ 水の温度が50°C～60°Cの間
 オ 水の温度が60°C以上

観察や資料等から見いだしたことについて、妥当かどうかを検討し合う言語活動を充実させる。

- ・既習の内容や生活経験を踏まえて学習活動を構想することが大切である。
- ・通し番号(15)の設問の内容については、身近な生物について、観察や資料等から見いだした特徴を踏まえ、生徒自身が発想した観点や基準を基にして、分類する学習活動を取り入れる。その際、分類の観点や基準が妥当かどうかを検討し合う言語活動の充実を図るため、例えば、ICT端末の学習支援ソフトの付箋等を活用することも考えられる。

【参考 通し番号(15)

光さん：私は、生物が陸上に生息するか、水中に生息するかで分類したところ、図1のようになりました。
 愛さん：光さんの分類したものを、さらに で分類すると、図2のようになりました。
 健さん：私は、9種類の生物を で分類したところ、図3のようになりました。
 恵さん：健さんの分類は、さらに で分類できそうです。
 光さん：私は、恵さんの考えた での分類は、同じイヌでも秋田犬や柴犬などのイヌの種類で違いがある上に、分ける基準がはっきりしないと思います。
 (選択肢は省略)

図1

マイマイ	
モンシロチョウ	
イヌ	ミカヅキモ
タンポポ	メダカ
トカゲ	
サクラ	
ニワトリ	

図2

マイマイ	
モンシロチョウ	
イヌ	メダカ
トカゲ	
ニワトリ	
タンポポ	ミカヅキモ
サクラ	

図3

ニワトリ	タンポポ
イヌ	サクラ
モンシロチョウ	ミカヅキモ
トカゲ	メダカ
	マイマイ

令和３年度秋田県学習状況調査 中学校第２学年 理科 評価規準と評価の観点

学 年	領 域	内 容	評 価 規 準	通 し 番 号	観 点	
					知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現
第 １ 学 年	物 理 的 領 域	(1)イ (ア)	・力を矢印を用いて表すことに関する技能を身に付けている。	(1)	○	
		(1)イ (ア)	・フックの法則を基にばねの伸びからばねに加わる力の大きさを求める方法を理解している。	(2)	○	
		(1)ア (イ)	・実像と虚像の違いを理解している。	(3)	○	
		(1)ア (ア)	・光の反射の道筋を作図することに関する技能を身に付けている。	(4)	○	
	地 学 的 領 域	(2)ア (イ)	・地震計の記録を基に、揺れが伝わる速さを推定し、地震が発生した時刻を求める方法を理解している。	(5)	○	
		(2)ア (イ)	・初期微動継続時間の長さや震源からの距離の関係を、緊急地震速報と関連付けて考察し、表現している。	(6)		○
		(2)イ (ア)	・地形図を柱状図と関連付けて地層が傾いている方向を考察し、表現している。	(7)		○
	化 学 的 領 域	(2)ア (ア)	・物質の密度を求める方法を理解している。	(8)	○	
		(2)ウ (ア)	・状態変化によって粒子の運動の様子が変化することを理解している。	(9)	○	
		(2)ウ (イ)	・状態変化による体積と質量の変化について、実験の結果を基に考察し、表現している。	(10)		○
第 ２ 学 年	領 域	(4)ア (イ)㊦	・還元の実験に関する技能を身に付けている。	(11)	○	
		(4)イ	・マグネシウムが二酸化炭素中で燃焼する化学変化をモデルを使って考え、表現している。	(12)		○
		(4)イ	・物質と酸素の結び付きやすさについて、実験の結果を基に考察し、表現している。	(13)		○
	生 物 的 領 域	(3)ア (ア)㊧	・同じ形や働きをもった細胞が集まった組織を理解している。	(14)	○	
		(3)ア (イ)㊧	・光合成に必要な物質を調べる実験に関する技能を身に付けている。	(15)	○	
		(3)イ	・光合成と呼吸による気体の出入りについて、実験の結果を基に考察し、表現している。	(16)		○
		(3)ア (イ)㊧	・根から吸い上げられた水は、維管束の中の道管を通ることを理解している。	(17)	○	
		(3)イ	・植物の葉の裏側から蒸散する水の量について、実験の結果を基に考察し、表現している。	(18)		○

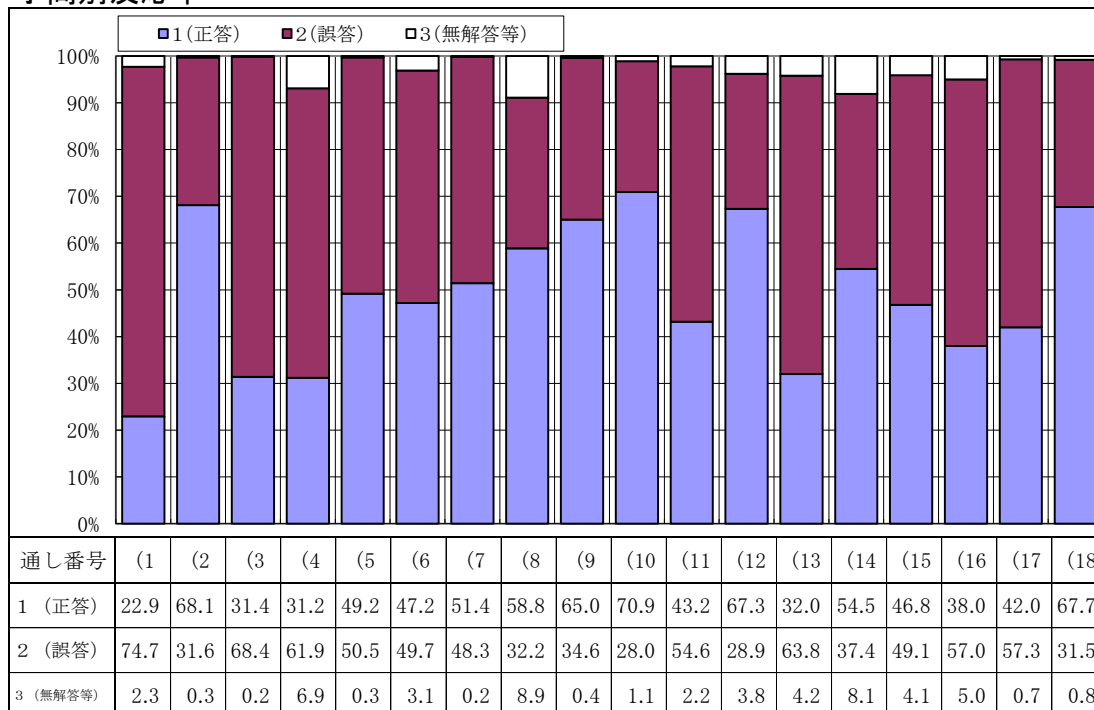
・内容欄の記号等については、第１学年は中学校学習指導要領（平成20年告示）に、第２学年は中学校学習指導要領（平成29年告示）に基づき示している。なお、第１学年の評価規準と観点については、中学校学習指導要領（平成29年告示）に基づき作成している。

通 し 番 号	出 題 内 容	通 過 率 (%)	設 定 通 過 率 (%)	0% 100%
(1)	力の表し方	22.9	70.0	
(2)	ばねをのばすために必要な力の大きさ	68.1	70.0	
(3)	実像と虚像のちがい	31.4	80.0	
(4)	反射した光の進み方	31.2	60.0	
(5)	地震の発生時刻の求め方	49.2	70.0	
(6)	P波とS波の伝わり方と緊急地震速報	47.2	70.0	
(7)	地層の傾き	51.4	60.0	
(8)	密度の求め方	58.8	65.0	
(9)	状態変化の粒子のモデル	65.0	70.0	
(1 0)	状態変化による体積と質量の変化	70.9	80.0	
(1 1)	還元の実験の方法	43.2	60.0	
(1 2)	化学変化のモデルを用いた表し方	67.3	70.0	
(1 3)	酸化物から酸素をうばう物質の性質	32.0	70.0	
(1 4)	多細胞生物の組織	54.5	80.0	
(1 5)	対照実験を行う理由	46.8	70.0	
(1 6)	光合成と呼吸による気体の出入り	38.0	70.0	
(1 7)	茎と葉の水の通り道	42.0	80.0	
(1 8)	葉の裏側から蒸散する水の量	67.7	70.0	

※ は設定通過率±10%を示している。

中学校 2 年 理科

小問別反応率



小問別通過率度数分布表 (112校)

は県平均通過率

	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	平均 通過率
100%		2	3			1	2	4	3	6	1	4	3	3	1			2	
90%～100%		1				1			1	1	1	1	1		2			2	
80%～90%		8			4	4	6	6	8	11	2	18	1	2	2	5	1	8	
70%～80%		27		1	3	9	7	17	22	48	4	29	3	7	4	4		35	3
60%～70%	1	52	1	5	17	12	13	32	34	28	11	25	1	28	9	7	8	43	6
50%～60%	3	19	7	4	31	28	31	28	30	13	15	22	3	36	25	12	21	19	38
40%～50%	8	3	18	16	23	21	34	18	7	4	20	6	9	25	32	18	33	2	53
30%～40%	13		29	33	19	22	15	6	6	1	24	5	38	10	24	27	33	1	12
20%～30%	37		32	36	12	12	3		1		19	2	32	1	10	18	12		
10%～20%	33		17	16	1	2	1				8		18		1	20	1		
0%～10%	17		5	1	2			1			7		3		2	1	3		

中学校 2 年 理科 調査結果の考察

1 設定通過率との比較

※表中の数値は設問数

分類 設定通過率の	観 点 別		領 域 別				計
	知識・技能	思考・判断・表現	物理	地学	化学	生物	
+10% より高い	0	0	0	0	0	0	0
±10% の範囲内	3	4	1	1	4	1	7
-10% より低い	8	3	3	2	2	4	11
計	11	7	4	3	6	5	18

2 考察

(1) 全体について

- ①18問中11問が設定通過率の「-10%より低い」であり、学習内容の定着状況は十分とは言えない。
- ②「知識・技能」に関する設問では11問中8問が設定通過率の「-10%より低い」であり、課題が見られる。

(2) 成果

- ①類似問題については、昨年度の調査で課題の見られた「ばねをのばすために必要な力の大きさ」や「還元の実験の方法」に関する設問の通過率が15ポイント以上上昇し、指導の改善が図られている。
- ②「化学」の領域に関する設問については、6問中4問が設定通過率の「±10%の範囲内」であり、学習内容の定着がおおむね図られている。

(3) 課題

- ①力を矢印を用いて表すことに関する技能について、課題が見られる。
- ②光合成と呼吸によって出入りする気体の量の関係を、実験の結果を基に考察し表現することについて、課題が見られる。

3 今後の指導

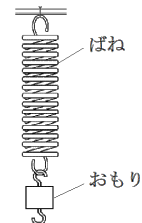
目に見えない自然の事物・現象を、図やモデル等で表現する活動を充実させる。

- 生徒がイメージしやすいように、目に見えない自然の事物・現象を、図やモデル等で表現することは大切である。
- 通し番号(1)については、例えば、おもりに働く重力を矢印で表した上で、おもりに働く重力とつり合っている力を見いださせる。その後、つり合っている力を矢印で表し、作用点、矢印の大きさや向きが適切かどうかをグループで確認し合うなどの活動が考えられる。

【参考 通し番号(1)】

- (1) 図4は、ばねにおもりを1個つるし、おもりが静止したときのように表しています。このとき、おもりに対する重力とばねがおもりを引く力はつり合っています。ばねがおもりを引く力を、解答用紙の図に矢印でかきなさい。ただし、解答用紙の方眼1目盛りは、0.1 Nの力の大きさを表すものとします。また、力のはたらく点(作用点)は●で表しなさい。

図4

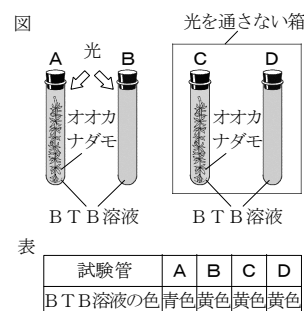


考察の場面において、自分の考えや他者の考えを検討し、改善する活動の充実を図る。

- 自分の考えや他者の考えについて、科学的な知識や概念と実験の結果を基に、その妥当性を検討し、必要に応じて自らの考えや他者の考えを改善する学習活動を充実させることは、科学的に探究する力を育成する上で大切である。
- 通し番号(16)については、例えば、オオカナダモが呼吸によって二酸化炭素を放出しているのに、BTB溶液中の二酸化炭素が減少したのはなぜか、という課題を設定し、その理由について、互いの考察を検討するなどの活動が考えられる。考察が実験の結果に対して適切かどうか検討し、科学的な知識や概念を形成していくようにすることが大切である。

【参考 通し番号(16)】

- (3) レポートを作成した後、植物は、動物と同様に昼も夜も呼吸をしていることをインターネットで知った花さんは、試験管Aのオオカナダモが呼吸によって二酸化炭素を放出しているのに、BTB溶液中の二酸化炭素が減少した理由について、次のように考えました。【花さんの考え】が正しくなるように、Xに当てはまる内容を「二酸化炭素」という語句を用いて書きなさい。



【花さんの考え】

試験管Aのオオカナダモは、光合成も呼吸も行っているが、 X ため、BTB溶液中の二酸化炭素が減少したと考えられる。

4 結果と考察 (5) 英語

令和3年度秋田県学習状況調査 中学校第1学年 英語 評価規準と評価の観点

学 年	領 域	内 容	評 価 規 準		通 し 番 号	観 点	
						知識 ・ 技能	思考 ・ 判断 ・ 表現
第 1 学 年	聞 く こ と	イ (ア)	[正確な 聞き取り]	・ 短い英文を聞いて、内容を正確に聞き取ることができる。	(1	○	
		イ (エ)	[適切な 聞き取り]	・ まとまりのある英語を聞いて、要点を適切に聞き取ることができる。	(2 (3		○
		イ (ア)	[正確な 聞き取り]	・ 短い会話を聞いて、内容を正確に聞き取ることができる。	(4	○	
		イ (ウ)	[適切な 聞き取り]	・ 聞いて把握した内容について、適切に応じることができる。	(5		○
	読 む こ と	ウ (イ)	[正確な 読み取り]	・ 書かれた内容について、正確に読み取ることができる。	(6	○	
		ウ (ウ)	[適切な 読み取り]	・ 書かれた内容について、要点を適切に読み取ることができる。	(7		○
		ウ (イ)	[正確な 読み取り]	・ 書かれた内容について、正確に読み取ることができる。	(8	○	
		ウ (イ)	[適切な 読み取り]	・ 話の流れをつかみながら、文章を適切に読み取ることができる。	(9 (10		○
	書 く こ と	カ (ウ)	[正確な筆記]	・ 正しい語法や文法を理解し、文脈の中で正確に用いることができる。	(11 (12	○	
		カ (ウ)	[正確な筆記]	・ 与えられた情報を基に、正しく英文を書くことができる。	(13	○	
		カ (ア)	[適切な筆記]	・ 自分のことについて、読み手に伝わるように適切に英文を書くことができる。	(14		○
		カ (エ)	[適切な筆記]	・ 読み取った内容を基に、適切に英文を書くことができる。	(15		○
		カ (ウ)	[正確な筆記]	・ 与えられた語を用いて、会話が成り立つように正しく英文を書くことができる。	(16 (17	○	
		カ (ウ)	[正確な筆記]	・ 正しい語順を用いて、文を構成する知識を身に付けている。	(18	○	

中学校 1 年 英語 小問別通過率と設定通過率

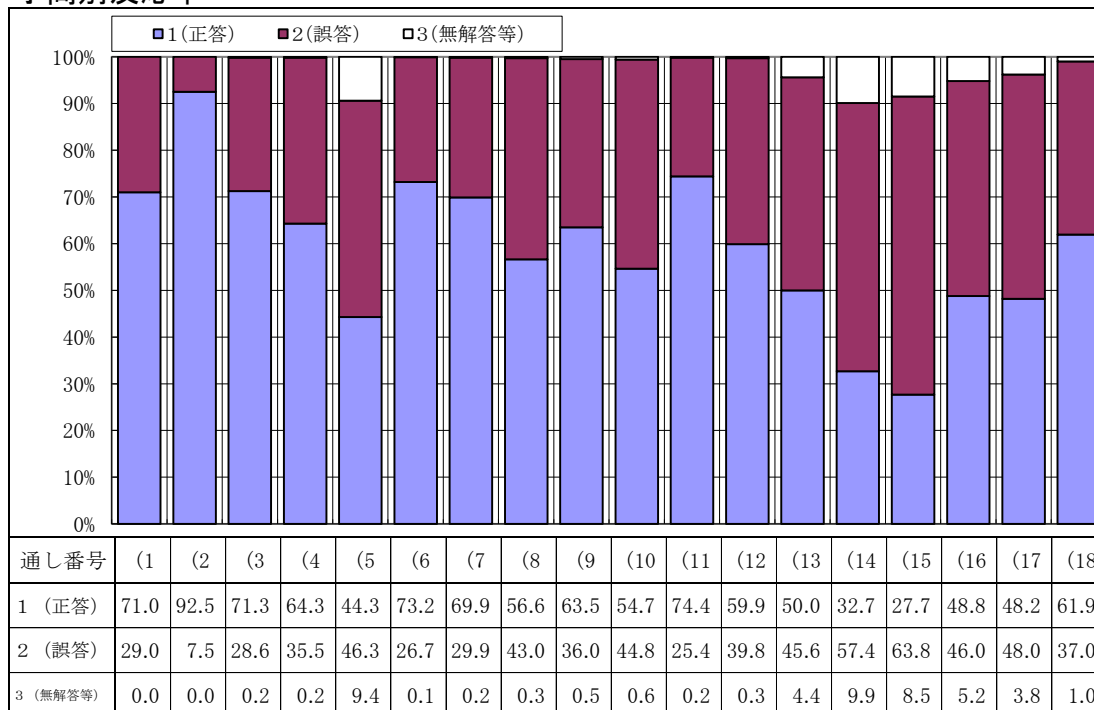
平均通過率 59.2%

通し 番号	出 題 内 容	通過率 (%)	設 定 通過率 (%)	0% 100%
(1)	(聞) 朝起きる時刻の聞き取り	71.0	85.0	
(2)	(聞) 所属しているチームについての聞き取り	92.5	80.0	
(3)	(聞) 日本美術が好きな人物についての聞き取り	71.3	75.0	
(4)	(聞) 朝食で食べるものについての聞き取り	64.3	70.0	
(5)	(聞) 質問の内容 (自由な時間にすること) に対する適切な応答	44.3	60.0	
(6)	(読) 部屋についての会話の読み取り	73.2	80.0	
(7)	(読) イベントのパンフレットの内容の読み取りと適切な対応	69.9	75.0	
(8)	(読) アンケートについての会話の読み取り	56.6	75.0	
(9)	(読) 適切な会話の構成	63.5	70.0	
(1 0)	(読) 適切な会話の構成	54.7	60.0	
(1 1)	(書) 正しい疑問詞の選択	74.4	80.0	
(1 2)	(書) 正しい一般動詞の選択	59.9	75.0	
(1 3)	(書) 与えられた情報に基づく英文の作成	50.0	60.0	
(1 4)	(書) 夏休みの思い出についての英文の作成	32.7	60.0	
(1 5)	(書) メール文の内容を踏まえた英文の作成	27.7	60.0	
(1 6)	(書) 与えられた語を用いて、会話を成り立たせる英文の作成 (be動詞疑問文)	48.8	65.0	
(1 7)	(書) 与えられた語を用いて、会話を成り立たせる英文の作成 (三単現疑問文)	48.2	60.0	
(1 8)	(書) 疑問詞の疑問文 (What 名詞～?) の構造	61.9	70.0	

※ ——— は設定通過率±10%を示している。

中学校 1 年 英語

小問別反応率



小問別通過率度数分布表 (110校)

は県平均通過率

通し番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	平均 通過率
100%	4	14	3	4	1	3	3	2	3	1	5		1	1		1	2	4	
90%～100%	3	67	4	4	2	1	1	2	1	1	7		1					3	
80%～90%	15	23	23	12	1	17	16	3	2	3	30	3	7	5	1	8	3	8	4
70%～80%	49	5	30	23	5	54	36	8	21	8	32	13	8	4	3	11	10	22	10
60%～70%	22	1	34	29	16	27	33	27	39	23	22	30	17	4	3	10	13	20	36
50%～60%	15		10	24	19	4	16	39	35	31	13	44	17	11	8	24	25	29	40
40%～50%	2		5	10	18	2	3	21	7	25		14	22	10	11	26	24	14	18
30%～40%			1	3	22	1	1	6	1	15	1	1	19	13	19	17	19	9	2
20%～30%					19			1		2		2	10	27	24	11	10		
10%～20%					4			1					6	23	26	1	4		
0%～10%				1	3	1	1		1	1		3	2	12	15	1		1	

中学校 1 年 英語 調査結果の考察

1 設定通過率との比較

※表中の数値は設問数

分類 設定通過率の	観 点 別		領 域 別			計
	知識・技能	思考・判断・表現	聞くこと	読むこと	書くこと	
+10% より高い	0	1	1	0	0	1
±10% の範囲内	5	4	2	4	3	9
-10% より低い	5	3	2	1	5	8
計	10	8	5	5	8	18

2 考察

(1) 全体について

18問中 8 問が「-10%より低い」という結果であり、学習内容の定着状況は十分とは言えない。

(2) 成果

①「読むこと」において、5 問中 4 問が「±10%の範囲内」であり、英文から必要な情報を読み取ることについて、指導の成果が見られる。

②昨年度調査と比較すると、三人称単数現在形について、基本的な語句や表現を用いて正しく書く設問における通過率が上昇しており、指導の成果が見られる。

(3) 課題

①昨年度調査において課題の見られた「聞いて把握した内容について適切に応じること」については、引き続き課題が見られる。

②「書くこと」において、コミュニケーションの目的や場面、状況等に応じて、基本的な語句や表現を用いて適切に英文を書くことなどに課題が見られる。

3 今後の指導

小学校で学んだ簡単な語句や基本的な表現などを、意味のある文脈でのコミュニケーションを通して繰り返し活用し定着を図ることができる言語活動の充実を図る。

- ・小学校で学んだ簡単な語句や基本的な表現などについては、小学校で扱った「場面」と「表現」を想起させたり、複数の領域を関連付けた言語活動の中で繰り返し活用させたりする。
- ・帯活動等において、関心のある事柄について、相手からの質問にその場で適切に応答したり相手に関連する質問をしたりして、会話を継続する言語活動を取り入れる。
- ・言語活動において具体的な課題を設定するなどして、単なる繰り返しの活動ではなく、生徒が言語活動の目的や言語の使用場面を意識しながら行うことができるようにする。

聞いたり読んだりして理解したことについて、コミュニケーションの目的や場面、状況等に応じながら、文脈に沿った適切な英文を話したり書いたりする言語活動の充実を図る。

- ・既習の言語材料を用いて、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の 4 技能を効果的に組み合わせた言語活動を繰り返し取り入れることにより、その定着を図る。
- ・コミュニケーションの目的や場面、状況等を理解した上で、思考・判断・表現する場面を設定する。
- ・中間評価の場面を設定し、生徒同士が互いの英文を読み合い、表現が正確であるか、相手に正しく伝わる英文になっているかなどについて確認しながら学び合ったり、教師がフィードバックを行ったりする。

※指導例：通し番号(13、(14、(15

既習の言語材料を活用しながら、コミュニケーションの目的や場面、状況等に応じて、伝えるべき内容を適切に伝えたり正確に書いたりすることができる力の育成を目指す言語活動の例

◇次のような場面でのスキットを考え、ペアでやり取りしましょう。

A さん：B さんと電話で話しています。B さんを遊びに誘いましょう。

B さん：忙しくて出かけることができません。何をしていますか説明して、A さんからの誘いを断りましょう。

※解答例

A : Are you free now? Can you come to my house?
Let's play my new video game together.

B : I'm sorry, I can't. I'm helping my mother now.

A : I see. How about tomorrow?

B : Great. Tomorrow is OK. I'm looking forward to it.

【指導のポイント】

- ・場面を的確に理解した上で、ペアで会話する。
- ・ペアで会話した内容の英文を書く。
- ・グループでスキットを紹介し合ったり、全体場で共有したりしながら、適切な内容や正しい表現について学び合う。
- ・友達との相互評価や教師からのフィードバックなどを基に、内容面・言語面の適切さや正確さに留意しながら、内容や表現を再構築する。

令和3年度秋田県学習状況調査 中学校第2学年 英語 評価規準と評価の観点

学 年	領 域	内 容	評 価 規 準	通 し 番 号	観 点	
					知識 ・ 技能	思考 ・ 判断 ・ 表現
第 2 学 年	聞くこと	イ (ア)	[正確な聞き取り] ・短い英文を聞いて、内容を正確に聞き取ることができる。	(1	○	
		イ (エ)	[適切な聞き取り] ・会話を聞いて、要点を適切に聞き取ることができる。	(2 (3		○
		イ (ア)	[正確な聞き取り] ・まとまりのある英語を聞いて、内容を正確に聞き取ることができる。	(4 (5	○	
		イ (ウ)	[適切な聞き取り] ・聞いて把握した内容について、適切に応じることができる。	(6		○
	読むこと	ウ (イ)	[適切な読み取り] ・書かれた内容について、必要な情報を適切に読み取ることができる。	(7		○
		ウ (イ)	[適切な読み取り] ・話の流れをつかみながら、文章を適切に読み取ることができる。	(8		○
		ウ (イ)	[正確な読み取り] ・書かれた内容について、正確に読み取ることができる。	(9	○	
		ウ (ウ)	[適切な読み取り] ・書かれた内容について、概要を適切に読み取ることができる。	(10		○
		ウ (イ)	[正確な読み取り] ・書かれた内容について、正確に読み取ることができる。	(11	○	
	書くこと	カ (ウ)	[正確な筆記] ・正しい語法や文法を理解し、文脈の中で正確に用いることができる。	(12 (13	○	
		カ (エ)	[適切な筆記] ・読み取った内容を基に、適切に英文を書くことができる。	(14		○
		カ (ア)	[適切な筆記] ・自分のことについて、読み手に伝わるように適切に英文を書くことができる。	(15		○
		カ (ウ)	[正確な筆記] ・与えられた語を用いて、会話が成り立つように正しく英文を書くことができる。	(16 (17	○	
		カ (ウ)	[正確な筆記] ・正しい語順を用いて、文を構成する知識を身に付けている。	(18	○	

中学校２年 英語 小問別通過率と設定通過率

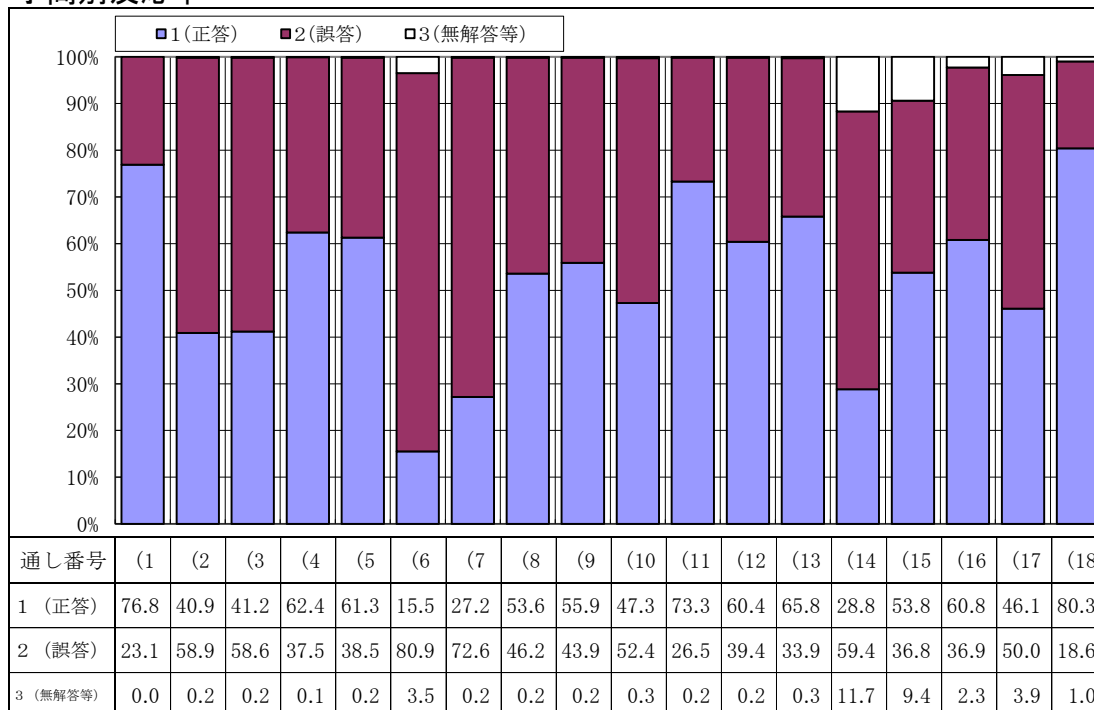
平均通過率 52.9%

通し 番号	出題内容	通過率 (%)	設定 通過率 (%)	0% 100%
(1)	(聞) 朝起きる時刻の聞き取り	76.8	90.0	
(2)	(聞) 家庭での学習時間についての聞き取り	40.9	70.0	
(3)	(聞) 友人からの助言の内容についての聞き取り	41.2	75.0	
(4)	(聞) 明日の予定についての聞き取り	62.4	70.0	
(5)	(聞) スピーチの内容の聞き取り	61.3	70.0	
(6)	(聞) 内容に応じた質問を書く	15.5	60.0	
(7)	(読) 高校体験入学についての会話文の読み取り	27.2	70.0	
(8)	(読) 適切な文章の構成	53.6	60.0	
(9)	(読) パンフレットに関する文についての読み取り	55.9	75.0	
(10)	(読) スピーチの概要についての読み取り	47.3	75.0	
(11)	(読) 日記の内容についての読み取り	73.3	75.0	
(12)	(書) 正しい接続詞の選択	60.4	70.0	
(13)	(書) 正しい依頼表現の選択	65.8	75.0	
(14)	(書) メールの内容を踏まえた英文の作成	28.8	60.0	
(15)	(書) 与えられたテーマについて、まとめた英文の作成	53.8	60.0	
(16)	(書) 与えられた語を用いて、会話を成り立たせる英文の作成 (三単現疑問文)	60.8	70.0	
(17)	(書) 与えられた語を用いて、会話を成り立たせる英文の作成 (疑問詞を用いた未来形の疑問文)	46.1	65.0	
(18)	(書) call A + B の文の構造	80.3	70.0	

※ ——— は設定通過率±10%を示している。

中学校 2年 英語

小問別反応率



小問別通過率度数分布表 (112校)

は県平均通過率

通し番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	平均 通過率
100%	5	1	1	1		1		2	2	1	4	1	2		1		1	5	
90%～100%	6		1	1	1			1	1	1	2	2	1		4	2		13	
80%～90%	39	1	1	6	5	3	1	2	3	3	16	9	9	2	6	9	5	38	2
70%～80%	38	3		20	11	4	1	6	6	2	57	15	28	2	15	19	7	38	3
60%～70%	18	3	4	40	43		1	15	24	12	28	20	35	2	23	22	9	16	17
50%～60%	5	18	11	32	42	4	4	42	51	25	4	37	25	3	20	37	25	2	45
40%～50%	1	29	30	8	8	2	5	29	18	38		21	7	20	13	11	21		40
30%～40%		30	41	4		8	22	14	6	24	1	4	4	23	15	5	24		5
20%～30%		23	20		1	10	50	1	1	6		2	1	28	8	2	15		
10%～20%		4	3			25	20					1		22	5	3	4		
0%～10%					1	55	8							10	2	2	1		

中学校 2 年 英語 調査結果の考察

1 設定通過率との比較

※表中の数値は設問数

分類 設定通過率の	観 点 別		領 域 別			計
	知識・技能	思考・判断・表現	聞くこと	読むこと	書くこと	
+10% より高い	1	0	0	0	1	1
±10% の範囲内	6	2	2	2	4	8
-10% より低い	3	6	4	3	2	9
計	10	8	6	5	7	18

2 考察

(1) 全体について

- ① 18問中 9 問が設定通過率の「-10%より低い」という結果であり、学習内容の定着状況は十分とは言えない。
- ② 「知識・技能」において、10問中 7 問が「±10%の範囲内」又は「+10%より高い」という結果であり、定着状況は概ね良好と言える。

(2) 成果

- ① 比較的短い英文を聞いたり、読んだりして、その内容を正しく理解することに関する設問について、概ね「±10%の範囲内」であることから指導の成果が見られる。
- ② 「書くこと」における三人称単数現在形を用いた英文の作成について、昨年度調査から通過率が上昇しており、指導の改善が見られる。

(3) 課題

- ① 「聞くこと」において、話された情報や概要を正しく理解した上で、場面や状況等と関連付けて思考し、適切に応じることに課題が見られる。
- ② 「書くこと」において、コミュニケーションの目的や場面、状況等に応じて、基本的な語句や表現を用いて適切な英文を構成することに課題が見られる。

3 今後の指導

聞いたり読んだりして理解したことに関する自分の考えや気持ちなどを、場面や状況等を踏まえながら、相手に伝えるように話したり、書いたりする言語活動の充実を図る。

- ・ 聞いたり読んだりしたことについて、自分の考えや気持ちを話したり書いたりするといった領域間の統合を図る言語活動を計画的に位置付け、段階的・継続的に指導する。
- ・ 聞き取ったり読み取ったりしたことを確かめたり、設定されたコミュニケーションの目的や場面、状況等を確認したりする場を設け、自分の考えや気持ちを整理できるようにする。
- ・ 話したり書いたりした英文を生徒同士が相互に評価し、言語面の正確さや内容面の適切さについて助言し合ったり、教師が適切なフィードバックをしたりする場面を設ける。

関心のある事柄や日常的な話題、社会的な話題について、既習の言語材料を幅広く用いながらコミュニケーションを図ることができる言語活動の充実を図る。

- ・ 設定された話題について即興で伝え合うなど、自分の考えや気持ちを相手意識をもって話したり書いたりする言語活動を、単元の指導計画に複数回位置付ける。
- ・ 教師は言語の使用場面や言語の働きに配慮しながら、実際のコミュニケーションを意識した言語活動の中で生徒に繰り返し活用させることを通して、言語材料の定着を図る。
- ・ 生徒一人一人の学習状況等を把握して、教師がフィードバックをするとともに、考えや言語材料の活用が広がるようにヒントや例を示すなどして、適切な発話や筆記につなげる。

※指導例：通し番号(14)

書かれた内容を理解した上で、コミュニケーションの目的や場面、状況等に応じて、伝えるべき内容を整理し、適切な英文で書く、複数の技能を統合して行う言語活動の例

① メール文の内容を踏まえ、返信すべき内容について考える。

<留学生の友達から次のようなメールが届きました。この誘いに応じることができるとしたら、あなたはどのように返信しますか。>

✉ Hi. I'm going to have a party next Saturday. Can you come to my house?

パーティーに行けることを伝えよう。

何時に行けばいいかわからないから時間を聞かなくては。

② ペアで、間違いを気にせずに口頭で伝え合う。

... Can you come to my house?

Yes, I can.

What time I can visit?

③ ペアでの相互評価や教師からのフィードバックを基に、語句等や内容について再構築し、再度伝え合う。

疑問文だから can I ではいいかな。お礼も伝えてみてはどうか。

④ 学び合いを踏まえ、語句等の正確さや内容の適切さに留意しながら返信する英文を書く。

✉ Hi, Tom. Yes, I can come to the party. Thank you for inviting me. I have a question. What time can I visit?

【指導のポイント】

再構築のための時間を保障し、伝え合う内容や用いる語句等について、生徒自身が考えたり修正したりすることができるようにする。